

徳島県

埋蔵文化財センター年報

Vol. 7 1995年度

1996

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



矢野遺跡 土器散佈



大谷尻遺跡 全景

## はじめに

本書は平成7年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業の概要をまとめたものであります。

徳島県では埋蔵文化財の保護を図るために調査体制を充実し、平成2年度より、出土遺物の整理・収蔵・活用を図る専用施設の整備に着手してまいりましたが、本年度に県立埋蔵文化財総合センターとして開所の運びとなりました。

本総合センターは財団法人徳島県埋蔵文化財センターが管理運営にあたり、今後、本県の埋蔵文化財保護の中核施設として、歴史の解明と文化的発展に寄与することが期待されております。

平成7年度からは、四国縦貫自動車道関連事業、一般国道192号徳島南環状線関連事業に加え、これまで県教育委員会の直轄事業であった一般公共事業に伴う埋蔵文化財調査業務を併せて受託することとなりました。

また管理運営業務の大きな柱である文化財の保護意識の啓発・普及事業を一層推進するため、同年度に組織改正を行ったところであり、本センター設立目的の達成に向け、さらに努力する所存であります。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、関係各位並びに関係機関に御礼申し上げるとともに、今後とも一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年6月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 安 藝 武

# 目次

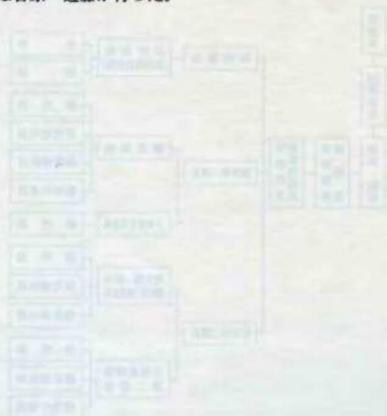
I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	5
II 平成7年度事業概要	6
III 事業報告	9
四国縦貫自動車道関連発掘調査	
田上遺跡 (II)	15
田上遺跡 (III)	16
業師遺跡 (業師地区・芝坂地区)	17
坊僧遺跡 (坊僧地区)	20
坊僧遺跡 (東段地区)	21
滝ノ宮遺跡	22
下突出遺跡	23
大谷尻遺跡	24
丸山遺跡	28
大柿遺跡 (大船戸地区)	30
供養地遺跡	31
山田遺跡 (II)	33
縦貫道関連試掘調査	35
一般国道192号徳島南環状線関連発掘調査	
矢野遺跡	42
本州四国連絡橋関連発掘調査	
土佐泊大谷遺跡	50
一般公共事業関連発掘調査	
ウエノ遺跡	51
貞光前田遺跡	52
石井城ノ内遺跡 (石井・神山線地区)	55
石井城ノ内遺跡 (石井曾我団地地区)	56
石井遺跡 (石井団地地区)	57
鮎喰遺跡	58
庄遺跡 (大蔵省蔵本住宅宿舎地点)	59
庄遺跡 (県単公園事業関連)	60
新蔵町3丁目遺跡	61
樋口遺跡	63
広田遺跡	64
立善寺跡遺跡	65

#### 圃場整備等調査

圃場整備事業関連等発掘調査・試掘調査・分布調査 … 66	
大吉遺跡……………68	
野江高園遺跡……………69	
一般国道192号徳島南環状線関連整理	
矢野遺跡……………70	
一般公共事業関連整理	
ウエノ遺跡……………71	
石井城ノ内遺跡(石井・神山線地区)……………72	
中島田遺跡……………73	
IV 埋蔵文化財センターの活動……………74	
V 受贈図書……………79	

## 例 言

- 1 本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成7年度事業をまとめた年報である。
- 2 III 事業報告に関する地形図は国土地理院発行1/50,000地形図を転載したものであり、各図に図幅名を記した。
- 3 III 事業報告の概要は各担当が執筆し、その責を文末に記した。
- 4 本書の編集は菅原・近藤が行った。



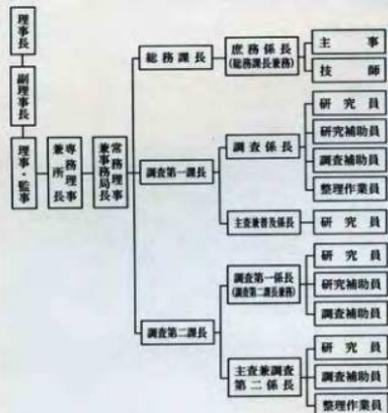
# 平成7年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織

## 役員

**理事長**  
 坂本 松雄 県教育長  
**副理事長**  
 川人 敏男 県教育次長  
 古川 達也 県教育次長  
 安友 康夫 県教育次長  
**理事**  
 河口 浩三 県教育委員会総務課長  
 平林 正吉 県教育委員会義務教育課長  
 岡本 武文 県教育委員会高校教育課長  
 浅香 寿徳 県教育委員会文化財課長  
 谷川 博文 県土木部監理課長  
**監事**  
 松井 健 県副出納長  
 西尾 和二 県教育委員会文化の森室長  
**専務理事**  
 筒井 豊祐  
**常務理事**  
 柴田 広

## 職員

**所長**  
 筒井 豊祐  
**事務局長**  
 柴田 広  
**総務課**  
 課長 小林 敬治  
 主事 三木 和文  
 技師 西木 未香  
 調査第一課  
 課長 青木 雅和  
 調査係長 紀伊 司郎  
 研究員 菅原 康夫  
 上藤 浩治 下内 新吾  
 湯浅 利彦 佐野 耕市  
 小林 一枝 瀧山 智子  
 久保聡美朗 藤川 智之  
 氏家 敏之 西岡 早苗  
 近藤 玲 植地 岳彦  
 扶川 道代  
 南 信義  
 早瀬 隆人  
 福本 桂子 真鍋 裕子  
**研究補助員**  
 主査兼普及係長 島逕 賢二  
 研究員 武市 文男 谷 恒二  
 伊丹 宇芳 九十九 肇  
 高柳 孝治 石井 伸夫  
 中南 弘史 久保 雅仁  
 辻 佳伸 佐藤 成人  
 常村 淳 山田 正之  
 原田 時治 小泉 信司  
 原 芳伸 栗林 誠治  
 大北 和美  
 佐藤 誠二  
 逢坂 俊男  
 近藤 理和  
 宮本 和宏 荒瀬 往央  
 泊 強 石田 雅敏  
 森本 浩史 横田 温生  
 相原 聡 石尾 和仁  
 福良 毅 湯浅 文則  
 渡邊 信之 石本 卓



# I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

## 1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

## 2 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
- (2) 出土した文化財の整理及び保存に関する事業
- (3) 埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

## 3 設立年月日

平成元年4月1日

## 4 出資者

徳島県

## 5 基本財産

10,000千円

## 6 事務所所在地

徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2

## Ⅱ 平成7年度事業概要

### 1 理事会の開催

#### 第25回理事会

開催日 平成7年4月1日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 理事長の選出について

#### 第26回理事会

開催日 平成7年6月14日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 平成6年度事業報告の承認について

第2号議案 平成6年度収支決算の承認について

第3号議案 平成6年度未処分余剰金の処理について

#### 第27回理事会

開催日 平成8年3月12日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 平成8年度工事指名審査委員会の開催について

#### 第28回理事会

開催日 平成8年3月27日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 平成7年度事業計画の変更について

第2号議案 平成7年度補正予算(案)について

第3号議案 平成8年度事業計画(案)について

第4号議案 平成8年度当初予算(案)について

第5号議案 役員の増員に伴う寄附行為の一部改正について

第6号議案 組織改正に伴う組織規程の一部改正について

第7号議案 組織改正に伴う事務決裁規程の一部改正について

#### 第29回理事会

開催日 平成8年3月31日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 役員の選出について

### 2 事業概要

徳島県からの委託により、次の事業を実施した。

- (1) 四国縦貫自動車道関連では、64,417㎡の発掘調査を実施した。
- (2) 本州四国連絡橋関連では、1,157㎡の発掘調査を実施した。
- (3) 一般国道192号徳島南環状線関連では、12,407㎡の発掘調査と出土品560箱の整理業務を実施した。

(4) 一般公共関連では、

- ① 徳島保健所等改築事業関連で、1,210㎡の発掘調査を実施した。
  - ② 看護学院新築事業関連で、1,800㎡の発掘調査を実施した。
  - ③ 県立西部テクノスクール（仮称）新築事業関連で、3,800㎡の発掘調査を実施した。
  - ④ 県営園場整備事業（柳溝）関連で、500㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑤ 県営園場整備事業（海部）関連で、500㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑥ 一般国道第438号道路特殊改良事業関連で、500㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑦ 県道石井・神山線道路改良事業関連で、1,300㎡の発掘調査と出土品610箱の整理業務を実施した。
  - ⑧ 県営住宅（石井管我団地）建設事業関連で、1,600㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑨ 池田警察署庁舎新築事業関連で、400㎡の発掘調査と出土品74箱の整理業務を実施した。
  - ⑩ 大蔵省蔵本住宅宿舍新営工事関連で、608㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑪ おおぞ学園社会参加総合交流センター整備事業関連で、350㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑫ 教職員住宅（石井団地）改築事業関連で、84㎡の試掘調査とその出土品2箱の整理業務及び1,570㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑬ 阿南工業高校電子機械科第2棟新築事業関連で、450㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑭ 県単公園事業（蔵本公園）関連で、110㎡の発掘調査を実施した。
  - ⑮ 四国横断自動車道関連で、3,200,000㎡の精密分布調査を実施した。
  - ⑯ 阿南道路改良事業関連で、1,200,000㎡の精密分布調査を実施した。
  - ⑰ 県営園場整備事業（上板）関連で、1,400,000㎡の精密分布調査を実施した。
  - ⑱ 都市計画道路常三島中島田線事業関連で、出土品120箱の整理業務を実施した。
- (5) 徳島県立埋蔵文化財総合センター開館記念事業を実施した。
  - (6) 徳島県立埋蔵文化財総合センター開館記念のシンポジウム開催を実施した。
  - (7) 徳島県立埋蔵文化財総合センターの管理運営業務を実施した。

### 3 収支決算報告

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成7年度収支決算は次のとおりである。

(1) 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 基本財産運用収入	86,000	86,766	766	
2 事業収入	1,801,968,000	1,801,968,096	96	
3 雑収入	538,000	539,526	1,526	
4 その他収入	4,260,000	4,260,231	231	
5 繰越金	1,129,000	1,129,638	638	
合 計	1,807,981,000	1,807,984,257	3,257	

## (2) 支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 事業費	1,685,224,726	1,685,229,506	4,780	
2 管理費	112,256,274	110,848,260	△ 1,408,014	
3 その他支出	1,199,000	1,197,924	△ 1,076	
4 消費税	9,301,000	9,300,700	△ 300	
合 計	1,807,981,000	1,806,576,390	△ 1,404,610	

### Ⅲ 事業報告

平成7年度は徳島県と同年4月1日付で契約した業務委託契約書に基づいて事業を実施した。7年度からはこれまでの外部委託大規模事業に加えて、県事業等の一般公共事業が委託され、徳島県におけるすべての発掘調査業務を実施することとなった。併せて県立埋蔵文化財総合センターの管理運営業務が加わり、普及事業が予算化されたことに伴って、組織改正が行われた。調査関係では一課二係が二課二係に改正され、調査第一課調査係は建設省・本州四国連絡橋公団関連事業、調査第二課調査第一係は日本道路公団関連事業、調査第二係は一般公共事業の担当となった。以下、調査関係の主要な成果概要を報告するが、普及事業についてはIV章に示した。

日本道路公団の四国縦貫自動車道関連事業では第10次区間(脇～美馬間・調査業務一覧の田上遺跡(I)～下突出遺跡)で9遺跡の調査を行い、田上遺跡(II)、薬師遺跡(芝坂地点)の一部を残して調査を終了した。

岩倉城跡比定地の脇町田上遺跡は前年度からの継続調査で、田上遺跡(II)の本丸跡推定地を残して、全面に調査が展開された。15・16世紀代の掘立柱建物や空堀などが再度検出された。城跡の規模は確定されなかったが、継続期間や構造を検討する基礎資料となった。美馬町薬師遺跡は東の薬師地区と西の芝坂地区に拡がる中世集落であるが、平成3年度に四国縦貫自動車道関連調査で上板町神宮寺遺跡で検出された煙管状土器焼成窯と類似する焼成窯が検出された。美馬町坊僧遺跡(東段地区)では平成2年度実施の阿波町日吉谷遺跡に次ぐ、旧石器時代のブロックが確認されている。

用地取得状況の進捗に伴い、第11次区間(美馬～川之江間・調査業務一覧の荒川遺跡～山田遺跡(II))の調査が本格的に始まった。三野町大谷尻遺跡は文化財保護委員会『全国遺跡地図(徳島県)』1965年発行・登録番号533の館山遺跡の別称である。この地点は中世山城の屋形山城が存在したと伝承され、館山の呼称が定着している。弥生時代の高地性集落としても知られ、『高地性集落跡の研究-資料編』1979 学生社刊にも台帳記載されているが、「四国縦貫自動車道(美馬～川之江)の建設予定地に係る埋蔵文化財の取扱いについて(文化庁協議)による遺跡名として使用されたため、今後大谷尻遺跡と呼ぶ。

遺跡は吉野川北岸の段丘上に位置する標高135m～145mの独立丘陵上に拡がる。平地部との比高差約50mを測り、東・南斜面は急峻であるが、西斜面は傾斜の割りに登攀は比較的容易である。今回の調査によって集落構造の概要がほぼ把握された。一重の環濠を巡らせ、後期初頭の堅穴住居13棟とそれに付属する貯蔵庫群から構成される。遺構群の構成要素からは防衛的機能を具備した高地性集落と位置づけられるが、西接する標高140mの丘陵上には中期中葉を盛期とする、環濠をもたない丸山遺跡がある。丸山遺跡における中期後半～末の動態は不明であるが、丸山遺跡から大谷尻遺跡への集落の移動・規模縮小、移動時での環濠の出現が指摘できる。

平地部との比高差が顕著な丘陵上への遺跡の展開は、阿波町日吉谷遺跡・桜ノ岡遺跡(I)の中期中葉例、同西長峰遺跡・赤坂遺跡(I)・(III)の中期末から後期初頭例など環濠こそもないが、吉野川北岸城の類同現象であり、流域での高地性集落の出現契機も軍事的側面以外にも多面的に検討する必要がある。なお、大谷尻遺跡南西方の平地部に位置する加茂野宮遺跡(田中英夫・田中猪之助「徳島県加茂野宮遺跡出土の土器」『古代学研究』51 1968)は後期中葉から終末期を主体とする集落である。

池田町供養地遺跡・山田遺跡(II)では集石の中世火葬墓の類例が新たに加わった。縦貫自動車道関

連の調査箇所数 30 遺跡、実掘面積は 64,417 ㎡であった。

一般国道 192 号徳島南環状線関連事業では矢野遺跡の 2 地区で調査を継続した。第 1 分割・第 2 分割とも前年度の隣接地点の調査である。第 1 分割では縄文時代後期の土器敷炉、竪穴住居と推察される落ち込み 20 個以上が検出されるとともに、多量の石鏝が出土した。前年度の出土遺物には朱塗りの土器が散見されたため、朱の精製について留意されていたが、今回朱が付着した石器が確認され、徳島県における朱の精製が一挙に遡ることになった。

これまで徳島県では弥生時代の辰砂採掘・砕石遺跡として阿南市若杉山遺跡があり、朱の精製遺跡として徳島市名東遺跡や板野町黒谷川郡頭遺跡が知られおり、若杉山遺跡を中心とした朱の流通システムが論議されてきた。一方、徳島市庄遺跡では弥生時代前期の朱精製用石杵も出土しており、従来の論議とは別に、若杉山採掘以前に鮎喰川流域で辰砂を採掘した可能性が浮上してきたといえる。(菅原康夫「矢野遺跡と縄文の朱」徳島新聞 1996. 3. 5)

以上のほかに第 2 分割では古墳時代初頭の砂鉄を貯蔵した細頸壺を出土した鍛冶工房、第 1 分割では阿波国府推定城南辺での平安時代の大型掘立柱建物群などの成果が得られた。

本州四国連絡橋関連事業では鳴門市土佐泊大谷遺跡の調査を実施した。鳴門市鳴門町の大毛島には紀貫之の『土佐日記』にみえる「土佐泊」浦の地名が残る。本遺跡は当該地点では最も広い平地部に形成されている。昭和 60 年に本四道路建設に伴って県教育委員会が調査を行い、平安時代から室町時代にかけての水田が検出されている(徳島県教育委員会『土佐泊大谷遺跡—本四連絡橋関連道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査略報』1985)。今回の調査は前回の隣接地点であり、明石海峡大橋開通に向けての 4 車線工事に伴い実施したものであり、5 面の水田面が確認された。

一般公共関連では池田警察署庁舎新築に伴い、池田町ウエノ遺跡の調査が行われた。大正時代から知られた遺跡であるが、旧制池田中学校建設工事で土器・石器が出土し、竪穴住居跡が削平されたようである。岡本健児氏による東四国弥生土器編年の後期、上野 I・II 式の標識遺跡であるが(岡本健児「入門講座・弥生土器—四国」『考古学ジャーナル』93 1974)、土器様相、集落ともに実態不明なままであった。今回の調査ではベッド状遺構をもつ竪穴住居、土坑などが検出された。後期前半上野 I 式として設定された具体相はなお不明であるが、後半の上野 II 式とされた土器型式の上限は吉野川上流域編年後期 IV 期=後期最終末(菅原康夫「阿波弥生時代終末期社会の特質」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ V 1992)と接点をもつことが明らかになった。

貞光町貞光前田遺跡や石井町石井城内遺跡、徳島市庄遺跡では縄文時代及び、古墳時代初頭の遺構が検出されている。(菅原)

四国縦貫自動車道関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	田上遺跡 (I)	美馬郡脇町東田上 534-1 他	18 ㎡ (試掘調査)	7. 9. 1			
2	田上遺跡 (II)	美馬郡脇町西田上 621 他	4,478 ㎡ (本調査)	7. 4. 28 ~ 7. 12. 12	●中世 ●近世	掘立柱建物跡・溝・空堀り・踏臺・土坑・柱穴	須恵器・土師質土器・陶磁器・木製品
3	田上遺跡 (III)	美馬郡脇町西田上 756 他	4,090 ㎡ (本調査)	7. 4. 28 ~ 7. 12. 26	●中世 ●近世	溝・水田跡・土坑・柱穴	土師質土器・陶磁器・瓦・木製品
4	兼勝遺跡—兼勝地区・芝坂地区—	美馬郡美馬町字兼勝 2-6 他	80 ㎡ (試掘調査) 13,538 ㎡ (本調査)	7. 10. 23 ~ 7. 11. 17 (試掘調査) 7. 5. 15 ~ 8. 3. 10 (本調査)	●縄文時代 ●古代 ●中世 ●近世	掘立柱建物跡・土坑・炭窯・土器焼成窯・柱穴	縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
5	坊僧遺跡 -中風地区-	美馬郡美馬町子グ ジ字中風 23 他	75 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 5. 23 ~ 7. 5. 31	◎近世		
6	坊僧遺跡 -坊僧地区-	美馬郡美馬町坊 僧 10 他	66 m <sup>2</sup> (試掘調査) 11,583 m <sup>2</sup> (本調査)	7. 8. 1 ~ 8. 3. 25	・古代 ◎中世 ・近世	溝・溜池・炭 窯・集石遺構	須恵器・土師器・瓦
7	坊僧遺跡 -東段地区-	美馬郡美馬町東 段 66 他	14 m <sup>2</sup> (試掘調査) 5,720 m <sup>2</sup> (本調査)	7. 5. 16 ~ 7. 5. 19 (試掘調査) 7. 5. 22 ~ 7. 12. 1 (本調査)	◎旧石器時代 ・縄文時代	ブロック	石器
8	滝ノ宮遺跡	美馬郡美馬町滝 ノ宮 185 - 1 他	70 m <sup>2</sup> (試掘調査) 1,643 m <sup>2</sup> (本調査)	7. 5. 8 ~ 8. 3. 31	◎中世	土坑・炭窯	
9	下突出遺跡	美馬郡美馬町字中 橋尾 60 - 3 他	300 m <sup>2</sup> (試掘調査) 2,300 m <sup>2</sup> (本調査)	7. 4. 27 ~ 7. 5. 9 7. 10. 17 (試掘調査) 7. 11. 20 ~ 8. 2. 2 (本調査)	◎弥生時代	土坑・柱穴	弥生土器・石器
10	荒川遺跡	美馬郡美馬町荒川 字塚原 13 - 2 他	202 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 9. 18 ~ 7. 9. 28	◎弥生時代 ◎中世	溝・土坑・柱 穴	弥生土器・須恵器・土 師質土器・陶磁器
11	吉水遺跡	美馬郡美馬町吉 水 77 他	120 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 5. 9 ~ 7. 5. 19	・弥生時代 ◎中世 ・近世	溝・土坑・柱 穴	弥生土器・須恵器・土 師質土器・陶磁器・瓦
12	西屋敷遺跡	美馬郡美馬町西 字里西屋敷 81 - 1 他	288 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 8. 21 ~ 7. 9. 5			
13	中山遺跡	美馬郡美馬町字中 山 83 他	172 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 4. 18 ~ 7. 5. 12			
14	西大佐古遺跡	美馬郡美馬町字突 露 5 他	108 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 4. 25 ~ 7. 5. 2			
15	塩塚遺跡	三好郡三野町加茂 野宮字塩塚 1336 - 3 他	72 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 10. 12 ~ 7. 10. 16		石組	
16	大谷尻遺跡	三好郡三野町大字 勢力字北原 820 - 1 他	4,500 m <sup>2</sup> (本調査)	7. 6. 19 ~ 7. 12. 22	◎弥生時代	壁穴住居跡、 石器製作工所 跡・炭窯・土 坑・柱穴	弥生土器・石器・炭化 種子
17	丸山遺跡	三好郡三野町大字 勢力字丸山 1205 他	310 m <sup>2</sup> (試掘調査) 10,800 m <sup>2</sup> (本調査)	7. 4. 27 ~ 7. 5. 31 (試掘調査) 7. 9. 26 ~ 8. 3. 31 (本調査)	◎弥生時代 ・古墳時代 ・古代 ・中世	壁穴住居跡、 溝・土坑・炭 窯・土坑墓	弥生土器・石器・須恵 器・土師器・土師質土 器・陶器
18	花園遺跡	三好郡三野町大刀 野字花園窪 119 他	356 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 6. 5 ~ 7. 6. 7 7. 9. 12 ~ 7. 9. 29	◎中世 ・近世	柱穴	土師質土器・陶磁器・ 瓦・石器
19	太刀野山遺跡(Ⅱ)	三好郡三野町大刀 野字西久保 1228 - 1 他	54 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 10. 9 ~ 7. 10. 11			
20	東原遺跡	三好郡三好町大字 足代字東原 763 他	323 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 7. 17 ~ 7. 8. 7	◎弥生時代 ◎中世	土坑・柱穴	弥生土器・須恵器・土 師質土器
21	西原遺跡	三好郡三好町大字 足代字西原 776 他	616 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 7. 25 ~ 7. 8. 4	◎弥生時代 ◎中世 ・近世	土坑・柱穴	弥生土器・須恵器・陶 磁器・石器
22	円通寺遺跡	三好郡三好町大字 足代字円通寺 1382 - 1 他	808 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 6. 12 ~ 7. 7. 13 7. 6. 12 ~ 7. 7. 5	◎弥生時代 ・中世 ・近世	竈・土坑・ 炭窯・柱穴	須恵器・土師質土器・ 陶磁器・瓦・石器
23	土井遺跡	三好郡三好町大字 塚岡字土井 1007 他	378 m <sup>2</sup> (試掘調査)	7. 8. 22 ~ 7. 9. 5	◎中世 ・近世	土坑・柱穴	須恵器・土師器・土師 質土器・陶磁器・瓦
24	大樟遺跡(本体) 大樟遺跡 -工事用道路部分-	三好郡三好町大字 塚岡字西大坪 2181 他	681 m <sup>2</sup> (試掘調査) 21 m <sup>2</sup> (試掘調査) 860 m <sup>2</sup> (本調査)	7. 10. 30 ~ 7. 12. 15 (試掘調査) 8. 1. 22 ~ 8. 2. 22 (試掘・本調査)	◎弥生時代 ◎古墳時代 ◎中世 ・近世	溝・土坑・柱 穴・自然水路	縄文土器・弥生土器・ 須恵器・土師器・土師 質土器・石器
25	八幡遺跡	三好郡井川町字八 幡 28 - 3 他	20 m <sup>2</sup> (試掘調査)	8. 3. 22	・古代 ◎中世	柱穴	土師器・土師質土器
26	井出上遺跡(本体) 井出上遺跡 -工事用道路部分-	三好郡井川町西井 川字井出上 687 - 2 他	30 m <sup>2</sup> (試掘調査)	8. 3. 21	・弥生 ◎中世	柱穴	弥生土器・土師質土器
27	相知遺跡	三好郡井川町西井 川字相知 421 他	120 m <sup>2</sup> (試掘調査)	8. 3. 7 ~ 8. 3. 26	◎弥生時代 ◎古墳時代 ◎中世	土坑・柱穴	弥生土器・須恵器・土 師器

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
28	お塚古墳	三好郡池田町字トウジ98他	1,238㎡(本調査)	8.3.6～8.3.31 (次年度継続)			
29	供養地遺跡	三好郡池田町字クヤウジ4151他	1,700㎡(本調査)	7.7.13～8.3.31	○中世・近世	掘立柱建物跡・溝・暗渠・土坑・柱穴・積石墓	土師質土器・陶磁器・瓦
30	山田遺跡(Ⅱ)	三好郡池田町字ヤマダ482-1他	1,230㎡(本調査)	7.6.15～8.3.30	○中世	掘立柱建物跡・土坑・柱穴・集石墓	須恵質土器・土師質土器・瓦器・白磁

○主体となる時期

#### 一般国道192号徳島南環状線関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	矢野遺跡(第1分割)	徳島市国府町矢野字せんだんの木430-1他	4,760㎡(本調査)	7.4.29～8.3.25	○縄文時代 ○弥生時代 ・古代 ・中世	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝・祭壇・土坑・土器棺墓	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・黒色土器・瓦器・陶器・石器・鉄器
2	矢野遺跡(第2分割)	徳島市国府町矢野字いしくし105-1他	7,647㎡(本調査)	7.4.29～8.3.25	○弥生時代 ○古墳時代 ・古代	竪穴住居跡・溝・道路状遺構・欄干・水田跡・土坑・土器棺墓	弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・瓦・陶磁器・石器・鉄器
3	阿南道路	阿南市西路見町～横町	1,200,000㎡(分布調査)	7.4.1～8.3.31	・古代		須恵器

○主体となる時期

#### 本州四国連絡橋関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	土佐泊大谷遺跡	鳴門市土佐泊大字大谷	1,157㎡(本調査)	7.4.28～7.9.30	・古代 ・中世	水田跡	土師器・土師質土器・瓦器・緑釉陶器・青磁・土鍾

#### 一般公共事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	ウエノ遺跡 (池田警察署庁舎新築事業関連)	三好郡池田町ウエノ	400㎡(本調査)	7.4.1～7.6.30	○弥生時代	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝・土坑・不明遺構	弥生土器・石器
2	貞光前田遺跡 (県立西部テクノスクール新築事業関連)	美馬郡貞光町字前田他	3,800㎡(本調査)	7.4.1～8.1.31	・縄文時代 ○弥生時代 ・古墳時代	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝・暗渠・土坑・溝・集石遺構	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・土鍾・石器・鉄器
3	(上飯町高志地区県営公園事業関連)	板野郡上飯町高志地区	1,400,000㎡(分布調査)	8.1.4～8.3.31	・近世		陶磁器
4	石井城/内遺跡-石井-神山地区-(県道石井・神山線改良事業関連)	名西郡石井町石井字城ノ内	1,300㎡(本調査)	7.4.1～7.7.31 7.11.1～7.12.13	・古墳時代 ○近世	土坑	瓦・鉄貨
5	石井城/内遺跡-石井普我団地地区-(県営住宅石井普我団地建設事業関連)	名西郡石井町石井字城ノ内	1,600㎡(本調査)	7.8.1～8.3.28	・縄文時代 ○弥生時代 ・近世	竪穴住居跡・土坑	弥生土器・石器・耳飾り
6	石井遺跡 (教職員住宅石井団地改築事業関連)	名西郡石井町石井字井65-1	84㎡(試掘調査) 1,570㎡(本調査)	7.4.18～7.4.21 (試掘調査) 7.5.16～7.8.31 (本調査)	・中世 ・近世	溝・水田・土壌	土師質土器・陶磁器・鉄貨
7	船鳴遺跡 (看護学院新築事業関連)	徳島市庄町2丁目41	1,800㎡(本調査)	7.5.1～8.1.31	・弥生時代 ・古墳時代 ・古代		弥生土器・土師器

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
8	庄遺跡 一六歳者蔵本住宅 宿舍地点一 (六歳者蔵本住宅 宿舍新築工事関連)	徳島市庄町1丁目 77	608㎡(本調査)	7.9.1~7.11.30	・縄文時代 ○弥生時代 ・古代	溝・井戸・土 坑・柱穴・自 然流路	弥生土器・須恵器・石 器
9	庄遺跡 (県単公園事業関連)	徳島市庄町1丁目 76-2	110㎡(本調査)	7.10.1~7.11.30	○弥生時代 ・古代	溝・土坑・自 然流路・不明 遺構	弥生土器・須恵器・土 師器・石器
10	新蔵町3丁目遺跡 (徳島保健所等改 築事業関連)	徳島市新蔵町3丁 目80	1,210㎡(本調査)	7.7.1~7.12.28	○近世 ・近世	溝・井戸・土 坑・池伏遺構・ 柱穴・不明遺 構	陶磁器・木製品・鉄器・ 銭貨
11	樋口遺跡 (一般国道438号 特殊改良事業関連)	徳島市上八万町樋 口12-1他	500㎡(本調査)	7.4.4~7.6.1			
12	広田遺跡 (おおき字学社会 参加総合交流セ ンター整備事業 関連)	徳島市上八万町広 田380	350㎡(本調査)	7.6.5~7.7.12	・中世	自然流路	土師質土器・瓦質土器・ 土練・木筒・銭貨・桃 核
13	大吉遺跡 (徳島地区県営園 地整備事業関連)	小松島市立江町大 吉	500㎡(園地整備)	7.12.1~8.1.31			
14	立善寺遺跡 (阿南工業高校電 子機械科第2棟新 築事業関連)	阿南市宝田町今市 中新開39-1	450㎡(本調査)	7.8.16~7.10.13	○古代 ・中世	溝・柱穴	須恵器・土師質土器・ 瓦・銭貨
15	野江高園遺跡 (海部地区県営園 地整備事業関連)	海部郡海部町野江 字東原他	500㎡(園地整備)	7.10.16~7.12.15	・中世 ・近世		陶磁器
16	四国横断自動車道	板野郡板野町~鳴 門市	3,200,000㎡ (分布調査)	7.4.3~7.4.28 8.2.1.~8.3.31	・弥生時代 ・古墳時代 ・古代 ・中世		弥生土器・須恵器・土 師器・陶器・瓦質土器

○主体となる時期

### 一般国道192号徳島南環状線関連埋蔵文化財出土品整理業務一覧

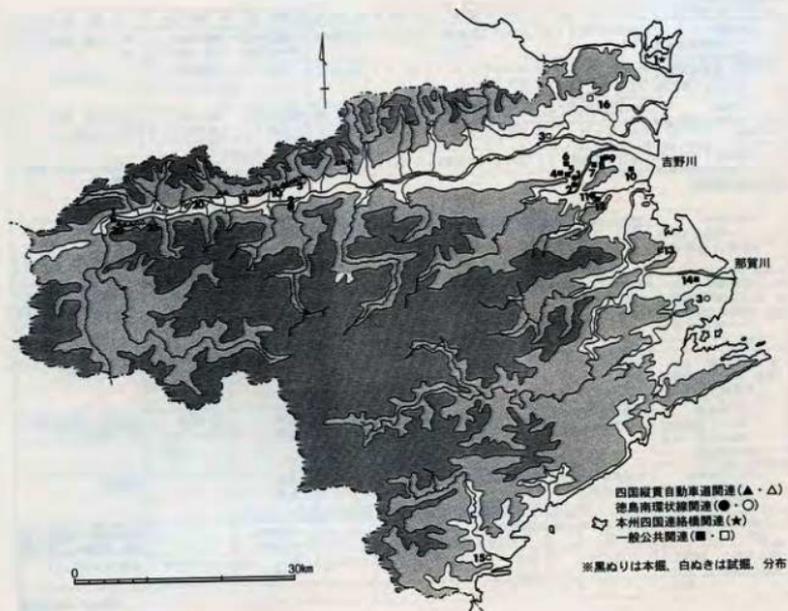
No.	遺跡名	所在地	整理箱数	整理期間	時代	遺構	業務内容
1	矢野遺跡	徳島市国府町矢野 字法師ヶ久保309 他	560箱	7.4.1~8.3.31	○弥生時代 ・古墳時代	竪穴住居跡・ 溝・井戸・土 坑・柱穴	遺物の基礎整理・実測・ トレース・レイアウト

○主体となる時期

### 一般公共事業関連埋蔵文化財出土品整理業務一覧

No.	遺跡名	所在地	整理箱数	整理期間	時代	遺構	業務内容
1	ウエノ遺跡 (池田警察署庁舎 新築事業関連)	三好郡池田町ウエ ノ	74箱	7.4.1~7.9.30	○弥生時代 ○中世	竪立柱建物 跡・竪穴住居 跡・溝・柱穴	遺物の基礎整理・実測・ トレース・レイアウト
2	石井城/内遺跡 -石井・神山地区- (県道石井・神山 線改築事業関連)	名西郡石井町石井 字城ノ内	610箱	7.4.1~8.3.31	○弥生時代 ・古墳時代 ・古代	溝・土坑・柱 穴・不明遺構	遺物の基礎整理・実測
3	中島田遺跡 (都市計画道路常 三島中島田線埋蔵 文化財整理業務)	徳島市中島田町2 丁目	120箱	7.8.1~8.3.31	○中世		報告書原稿の執筆まで

○主体となる時期



発掘調査地

## たねえ 田上遺跡(Ⅱ)

所在地 美馬郡脇町字西田上621他  
調査期間 1995年4月28日～12月12日  
担当者 山田 常村

**調査概要** 本遺跡は、吉野川北岸の段丘上に位置し、新町谷川・滝下谷川に挟まれて天然の要害をなしている。本遺跡に中心部があったと思われる岩倉城は、1267年、小笠原長房の守護所設置に始まり、16世紀には三好康長の築城、長曾我部・豊臣との攻防が行われた後、近世初期に廃城となったといわれている。

**主な遺構** 柱穴600基余りを中心に、多数の遺構を確認した。特に本丸推定地東側の1区に柱穴300基余りが集中し、1間四方の掘立柱建物数棟があったものと思われる。

遺構内の遺物残存状況は悪く、现阶段で岩倉城に関連すると断定できるものは少ない。前年度の調査で一部を検出していた空堀(4区SD1001)は、幅1～2m・深さ20～30cmで南北に延び、北方向には調査区を越えて延びることを確認した。出土遺物から16世紀の遺構であると考えられるが、西側を並行する近世の遺構と思われるSD1002と切り合っており、岩倉城の空堀か否か、さらに詳細な検討が必要である。

**主な遺物** 3区包含層中より、重なるような形で出土した土師質土器の杯5点は、形態や製作技法などから、12世紀末のものと思われ、文献史料上の築城年代を遡ることになる。

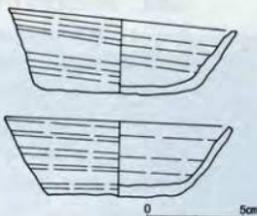
**まとめ** 今回の調査は四国縦貫自動車道建設予定地内に限られたものであったが、前述のように段丘全体に城の範囲が広がっていた可能性がある。4区に隣接する町道の調査を脇町教育委員会が行っており、この成果も併せて詳細な検討を加えることで、岩倉城の姿が明らかにされることを期待したい。(山田)



1 調査地点の位置(脇町)



2 4区SD1001・1002 完掘状況



3 3区出土遺物(土師質土器杯)

たねえ  
田上遺跡(Ⅲ)

所在地 美馬郡脇町西田上756 他

調査期間 1995年4月28日～1995年12月26日

担当者 大北 佐藤 原田

**調査概要** 本遺跡は、吉野川北岸の標高104～107m前後の隆起扇状地上に位置する。調査区は東側にある滝下谷をはさんで中世の山城とされている岩倉城跡と対峙し、『日本城郭体系』によると岩倉城の六坊(望楼)の一つ「宝冠坊」の比定地である。1994年度の調査では大規模に整地された平坦面に近世の宝冠坊跡と考えられる掘立柱建物跡が検出され、その下に中世の遺構面の存在が確認された。調査の結果、中世及び近世の遺構が検出された。

**区画溝** 調査区の北側から南西方向に向かう最大幅約2m、深さ約0.2mのL字形を呈する溝である。遺構内埋土は3層で、下層の暗灰黄色砂質土から瓦片、備前焼、青磁などが出土した。瓦は平瓦、軒丸瓦の二種類が出土している。瓦の遺存状況は悪く、ほとんどが磨滅した小片である。遺物は北から西に向かって折れるところにやや偏って出土している。出土遺物から15～16世紀の年代が与えられ、性格として区画溝の可能性が考えられる。溝の南側で櫓列と思われる柱穴が検出されている。

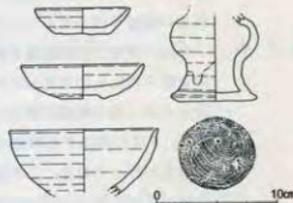
**まとめ** 岩倉城と時期を同一にする古い段階の宝冠坊跡が検出されることが予想されたが、調査の結果、それに比定される建物跡は検出されなかった。調査区は南に向かう緩やかな斜面上にあるが、北側及び南側ではややフラットな面があり、遺跡が調査区外に拡がる可能性が考えられる。古い段階の宝冠坊は検出されなかったが、岩倉城と同時期の遺物が出土しており、調査区外に存在した可能性が考えられる。(大北)



1 調査地点の位置(脇町)



2 SD1004 全景



3 出土遺物

## やくし 薬師遺跡 (薬師地区・芝坂地区)

所在地 美馬郡美馬町字薬師2-6他  
 調査期間 1995年5月15日～1996年3月10日  
 担当者 辻久保

**調査概要** 薬師遺跡は吉野川中流域左岸、阿讃山脈から南流する野村谷川右岸の標高約120mの段丘上に位置している。段丘は北側の上位面と比高差約20mを隔てた下位面にわかれ、西側では阿讃山地からの根根の張り出しが見られる。調査区は段丘下位面の北端を東西300mにわたり横断するかたちで設定し、東側の野村谷川に臨む部分を薬師地区、西側の根根部分を芝坂地区として調査にあたった。

今回の調査では薬師地区で縄文時代後期の屋外炉1基・室町時代の集落跡、芝坂地区では木炭焼成窯8基・土器焼成窯1基等を検出した。

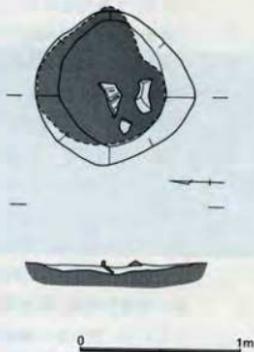
**薬師地区**  
**屋外炉**  
**SF1001**  
 調査区西側で検出した直径約100cmの焼土坑である。深さ5cmを測り、底面から北壁にかけて焼土面が広がっている。埋土中より深鉢形土器の口縁部が出土している。頸部から口縁部にかけての破片であるが、波状口縁で端部を肥厚し、内面に縦位の沈線文を施す。いわゆる緑帯文土器であり、縄文時代後期中葉に位置づけられる。

調査区北東部においてビット700基・土坑200基・掘立柱建物跡10棟以上の集中する集落跡を検出した。集落は出土遺物から14世紀後半～16世紀代にかけて存続したものと考えられる。

**土坑**  
**SK11104**  
 室町時代の集落跡内で検出した直径約110cm、深さ45cmの土坑である。土師質土器釜・鍋・鉢、備前窯産播鉢などの煮炊具、調理具の破片が出土しており、廃棄土坑と考えられる。出土した備前窯産播鉢の型式から15世紀後半頃に位置づけられる。



1 調査地点の位置 (脇町)



2 SF1001 実測図



3 SF1001 出土遺物

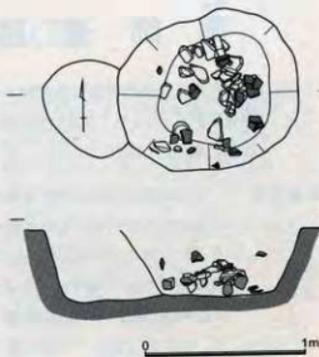
芝坂地区  
縄文土器

芝坂地区と葉師地区の境で小規模な谷状地形を検出した。この谷に北側の段丘上位面より流れ込んで埋積した砂礫層から多量の縄文土器が出土している。縄文土器は浅鉢形土器と深鉢形土器がある。浅鉢形土器は内傾する体部に短く外屈する口縁部をもつもので端部内面に1条の沈線を施す。内外面には緻密なヘラミガキを施している。深鉢形土器は体部最張部から口縁部にかけて内屈し、口縁部で緩やかに外反するものが多い。体部内面は横位の二枚貝条痕、外面はナデまたはケズリを施している。口縁部外面には1条の突帯を貼り付け、上面に押引状の刻目を施す。また突帯下部に山形の沈線文を施す個体も認められる。突帯は体部最張部に貼り付けられる個体もあり、2条突帯のタイプも存在する。これら縄文土器は瀬戸内地方の晩期後葉、前池式に併行する時期のものと考えておきたい。

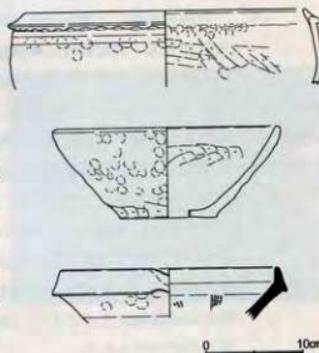
土器焼成窯  
SO1001

前述の谷状地形部分に面した緩斜面で検出した。窯体は耕作等により大きく壊されているが、長軸140cm、短軸45~70cmが残存し、深さは約20cmを測る。窯体の西側にはこれを半円状に取り囲むように広がる直径約400cmほどの灰原を検出した。窯体は直径70cm以上の焼成室と幅45cmの焚口からなり、遺構確認面の黄褐色砂質土層を掘り込み、直接窯壁としている。焚口から焼成室にかけての壁面と焚口の底面には被熱痕跡が認められ、赤色に変色しているが、硬化はしていない。埋土は概ね3層に分層でき、下層ほど炭化物・灰の堆積が多い。

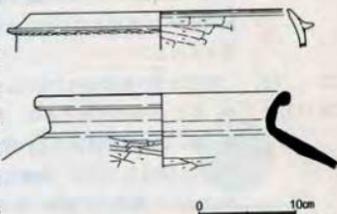
遺物は主に焼成室から焚口にかけての底面から出土しており、鍋・鉢・甕の3器種が確認された。鍋と鉢は土師質焼成、甕は瓦質焼成されている。灰原から出土した器種も大要この3種である。なお灰原から出土した甕は窯体内で出土したものと同一個体と考えられるが、土師質焼成の部分も少なくないことか



4 SK1104 実測図



5 SK1104 出土遺物実測図

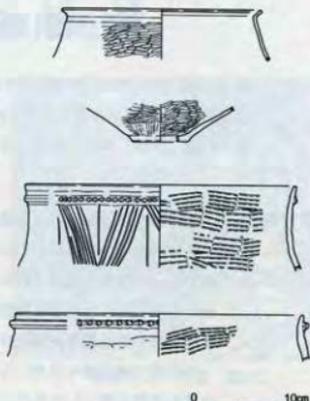


6 SP1374 出土遺物実測図

ら、この窯は土器の土師質焼成を目的としたものと捉えることができる。出土した鍋はやや深めの体部にく字状に外屈する口縁部をもつもので底部外面に平行あるいは格子タタキを施しており、脚を有すると思われる。鉢は内面に摺目を持たないこね鉢である。甕は体部から短く直立する頸部を持ち、口縁部を外反する。体部外面、口縁部外面に格子タタキを施し、内面に無文のあて具痕をとどめるなど、成形技法上讃岐十瓶山窯須恵器との関連を窺わせる。窯の操作時期については遺物の検討が十分でない現時点では中世前期、概ね鎌倉時代前半頃におさまると考えておきたい。

#### まとめ

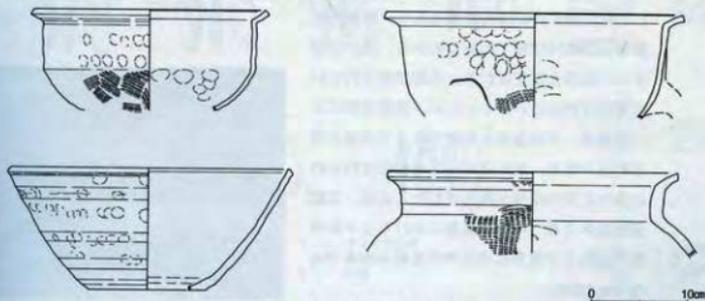
今回の調査で出土した縄文時代後・晩期の遺構・遺物は美馬町内では初出であり、従来不明瞭であった当地域の縄文時代を考える貴重な資料である。晩期の遺物は出土状況から調査区北側の蔵草を中心とした段丘上位面に遺跡の存在することを示唆する。芝坂地区で検出した土器焼成窯は構造上徳島県神宮寺遺跡・香川県国分寺楠井遺跡・広島県沖ノ店遺跡などで報告された煙管状窯に相当する可能性がある。近年この種の窯は地域に根ざした中世の土師器窯として報告例が増加しているが、本例もまた地域色の強い鍋や甕の焼成、小規模な生産体制を窺わせるものであり、当該期の土器生産を考える上で興味深い。(辻)



7 縄文土器実測図



8 SO1001



9 SO1001 出土遺物実測図

## ぼう そう 坊 僧 遺 跡 (坊僧地区)

所在地 美馬郡美馬町字坊僧10他  
 調査期間 1995年8月1日～1996年3月25日  
 担当者 栗林 大北 高柳 谷 横田 佐藤  
 原田

**調査概要** 吉野川左岸の野村谷川と鍋倉谷川に挟まれた中位段丘上の標高約150mの緩傾斜地に立地する。当遺跡周辺は古代の瓦窯跡として周知の遺跡である。南側低位段丘上には段の塚六古墳群や郡里庵寺が所在する。

当遺跡は傾斜地に立地しており堆積作用より流失作用が激しいために、各調査区において包含層は殆ど検出されず、耕作土直下において遺構面が検出された。今回の調査では掘立柱建物跡1棟、炭窯7基、集石遺構2基、溝10条、溜池1基等が検出された。

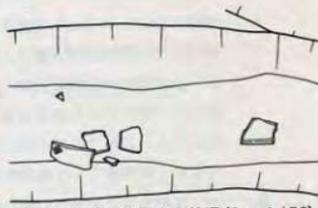
**区画溝 SD1007** 西側調査区で検出された。北西から南東方向に等高線に直行する形で掘削された長さ約30m、幅80cm、深さ30cmの溝である。須恵器長頸壺と平瓦が出土した。須恵器から平城IV式併行期の年代が与えられる。

**溜池 SL1001** 東西18m、南北17mの隅丸方形を呈する。南に向けて取水用の木樋が埋設されており、池内側には石垣が構築されている。時期は近世である。

**まとめ** 3条の溝は平安時代初頭であり、坊僧古窯跡群とほぼ同時期であることから、窯に付随する区画溝と推定される。当初想定されていた窯跡は検出されなかったが、窯業遺跡における選地、付属施設を検討する上で成果が得られた。また、現代においても使用される例の多い近世の溜池が検出されたことは、文献資料のみであった近世農村における土木技術を考える上で重要な考古学的資料となるであろう。(栗林)



1 調査地点の位置 (脇町)



2 SD1007 遺物出土状況 (S = 1 / 50)



3 掘掘状況

## ぼう そう 坊 僧 遺 跡 (東段地区)

所在地 美馬郡美馬町字東段66 他

調査期間 1995年5月22日～12月1日

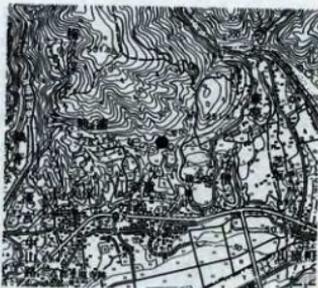
担当者 九十九 武市

**調査概要** 本遺跡は、吉野川中流域の北岸に形成された、標高145m前後の河岸段丘上に位置している。遺跡内からは、国府型ナイフ形石器の製作に伴う一連の石器群が、最低2ヶ所の集中部(ブロック)を形成して検出された。

石材はサヌカイトで、香川県分台周辺からの搬入品である。瀬戸内技法でいう第1工程に関する資料の欠落も、石材消費地遺跡としての当遺跡の性格の一端を示している。

国府型ナイフ形石器は、端正な大形例を一部に含むとはいえ、素材選択や最終形態の内容は一律ではない。また、横長剥片石核は、石材の消耗が著しく、それらが本来、翼状剥片石核の形態を通過したのか不明である。

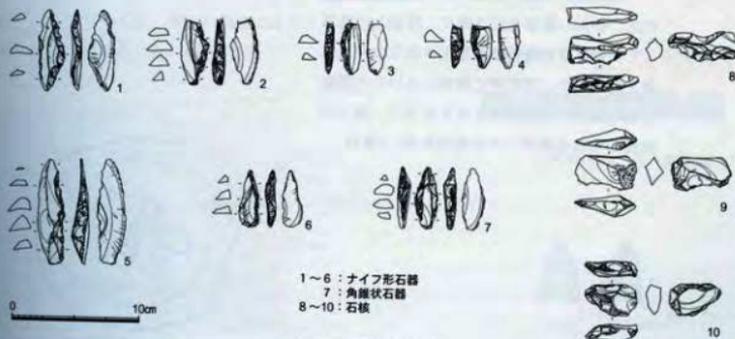
所属時期については、前途の所見に角錐状石器の供伴事実を加算する限り、国府石器群減衰期の可能性がある。(九十九)



1 調査地点の位置 (脇町)



2 南より遺跡を望む



1～6 : ナイフ形石器  
7 : 角錐状石器  
8～10 : 石核

3 出土遺物実測図

たきのみや  
滝ノ宮遺跡

所在地 美馬郡美馬町字滝ノ宮 185-1 他  
 調査期間 1995年5月8日～1996年8月10日  
 担当者 栗林 高柳

**調査概要** 吉野川北岸の野村谷川と鍋倉谷川に挟まれた標高約150mの中位段丘上の最西端部に立地する。当遺跡の南側の段丘突端部には滝ノ宮経塚が所在し、銅製経筒、経筒外巻、和鏡等が出土している。段丘下の扇状地には平野古墳、荒川古墳、海原古墳等の後期古墳が点在している。

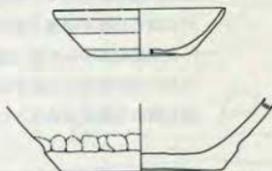
遺跡は段丘上の平坦地に展開しているが、果樹園造成時に削平を受けており、耕作土直下より遺構面が検出された。今回の調査では柱穴70基、土坑20基、炭窯2基が検出された。

**炭 窯** 長軸4.5m、短軸1.7mの長楕円形を呈する。SO1002 東側に焼き口部、西側に煙道部を持つ。焼き口部は窯体からなだらかに傾斜して立ち上がっており、掘り込み等はない。一方、窯体より若干掘りくぼめた上で煙道部に至る。覆土最上層より瓦器碗小片が出土していることから室町時代と考えられる。

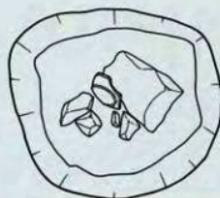
**ま と め** 今回の調査では、主に中世の遺構が検出された。しかし遺構密度は薄く、段丘上に展開していた集落の縁辺部と想定される。今後は滝ノ宮経塚や、扇状地に展開していたと想定される集落との関わりを考えた上で、滝ノ宮遺跡の性格を把握する必要がある。(栗林)



1 調査地点の位置 (脇町)



2 SP1060・SK1002 出土遺物(S=1/3)



3 SK1002 遺物出土状況(S=1/40)

# しも つき だし 下 突 出 遺 跡

所在地 美馬郡美馬町字中横尾60-3他

調査期間 1995年11月20日～1996年2月2日

担当者 九十九 武市

**立地環境** 本遺跡は、吉野川中流域の北岸、標高131m前後の鍋倉谷川によって形成された隆起扇状地上に位置する。南側及び東側は浸食により比高差40mの急傾斜の崖になっている。現状は田畑である。

**遺 構** ビット (SP1003、4、5) は東西方向に170cm間隔で一列に並ぶ。深さは10cm程度と浅く、削平を受けている。SP1005より弥生土器片を検出した。

土坑 (SK1002) は削平を受けているが、土坑 (SK1001) をほぼ垂直に切っており、北西部で炭化物・弥生土器片を検出、全体的にサヌカイトのチップが混じる。

**遺 物** 耕作土より石鏃を、また、土坑から南にかけて、多数のサヌカイト片を検出した。

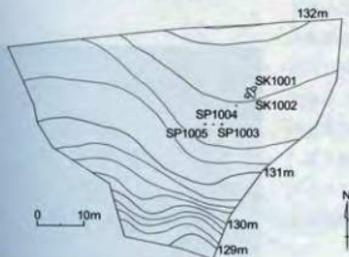
**ま と め** 調査区東部の高い位置で、削平されていたが遺構が残っていた。その他は近世以降の田圃で削平されていた。総合的に判断して、弥生時代の集落が存在し、石器も製作されていたと思われる。詳しい時代、遺跡の規模については、今回の調査では押さえることはできなかった。(九十九)



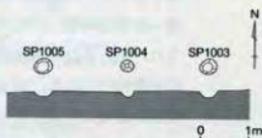
1 調査地点の位置 (脇町)



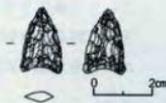
2 北より遺跡を望む



3 全体図



4 SP1003・4・5 実測図



5 出土遺物

## おお たい じり 大 谷 尻 遺 跡

所在地 三好郡三野町大字勢力字北原820-1他  
調査期間 1995年6月19日～1995年12月22日  
担当者 原 伊丹

**調査概要** 大谷尻遺跡は、吉野川北岸の平坦な段丘上に位置し、滝谷川・大谷・勝負谷などの谷によって四方が隔てられ、一つの独立した丘陵を形成している。縁辺部は中小の河川によって侵食され垂直に近い断崖となっており、麓からの比高差は約50mを測る。本遺跡はこの北西から南東に向かって緩やかに傾斜する標高135～145mの平坦な山頂部に位置している。

また、調査地点は中世山城の屋形山（やかたやま）城が存在していたと伝えられており、「阿波国郡村誌」・「阿波古城記」・「阿波志」等にその記載が見えるが、今回の調査ではそのことを裏付ける遺物・遺構は確認することはできなかった。

**調査成果** 調査地点は一部開墾等の影響をうけているが、遺物包含層は調査区全域で比較的安定して堆積していた。調査の結果、本遺跡は山頂部に営まれた環濠を伴う弥生時代の高地性集落であることが確認された。弥生時代中期末葉～後期初頭頃にかけての遺構・遺物が検出され、中心となる時期は弥生時代後期初頭頃に位置付けられる。出土した遺構には山頂平坦部縁辺をとりまいていたと思われる環濠1条をはじめ、円形の竪穴住居跡13軒（石器製作用房跡含む）、炭化種実が出土した祭祀的意味あるいは簡略な上部構造をもつ貯蔵施設としての機能をもつと考えられる遺構4基、土坑（貯蔵穴含む）127基等が検出されたほか、弥生土器・石器類など多量の遺物が出土した。

環濠 SD1001 調査区南部および東部において検出された



1 調査地点の位置（池田）



2 調査地点遠景



3 遺構出土状況

溝である。集落の位置する山頂平坦部全体を取り巻くように延びており、推定規模で直径100 mを超える環濠の可能性がある。断面形は逆台形をしており、上辺約2 m、下辺約0.5 m、上部は削平されているものと思われるが、それでも深さ約0.8 mの規模をもつ。出土遺物から概ね弥生時代中期末～後期初頭頃に位置付けられる。土層の堆積状況などから常時水の流れた痕跡は見られないことなどから、これらは排水を目的としたものではなく、それよりも防衛的機能あるいは集落の外との隔絶を目的としたものであると考えられる。



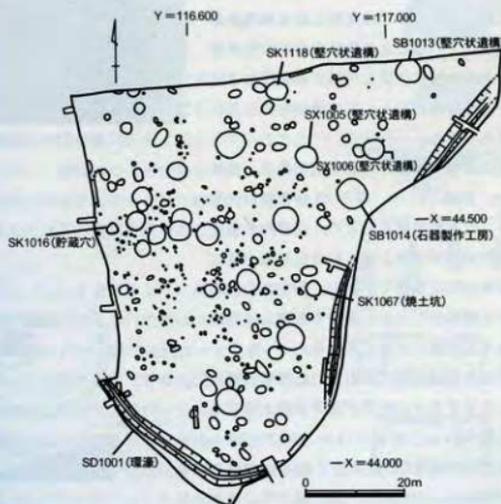
4 環濠 SD1001

#### 竪穴住居跡 SB1014

調査区東部で検出された石器製作工房と考えられる竪穴住居跡である。6本の主柱を持つものと思われ、各柱心間は約2.20 mを測る。ほぼ円形の平面形を呈し、規模は長軸6.85 m、短軸6.80 m、深さ0.53 mである。住居床面は整地されており、床面は固くしまっていた。遺構内埋土および床面は焼土や炭化物が拡



5 石器製作工房 SB1014 全景

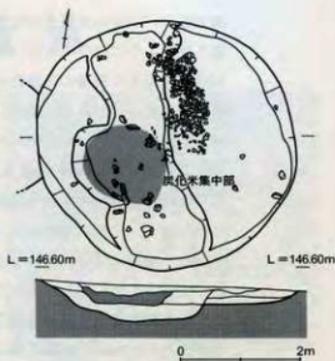


6 大谷尻遺跡 遺構配置図

がっており、焼失したものと考えられる。遺構内からは5cmを越える大形の石鏃・石庖丁・磨製石斧などのほか、2ヵ所で確認された砂岩製台石の周辺からは石器素材となるサヌカイト剥片や二次加工の際のチップが多量に出土しており、弥生時代の石器製作を如実に示す豊富な資料が得られている。

#### 竪穴状遺構 SX1006

調査区東部で検出された遺構である。規模は長軸4.24m、短軸4.23m、最深部で深さ0.48mを測る。形態はほぼ円形の平面プランを呈し、中央部は一段深く掘り込まれ、床面は段状をなす。遺構内からは柱穴は検出されていない。遺構内上層では遺構を覆うように弥生土器片が多量に出土し、土器溜まり中および床面直上（遺構内下層）より、イネなどの炭化種実が出土した。これらの種実は土器中に納められていたものと思われ、埋置した土器が破損した際に遺構内に拡がったものと考えられる。遺構内埋土は炭化物や焼土を含み火の使用があったことが窺われる。この遺構の性格の解釈としては食料となる種実を多量に検出していることや集落の中での位置関係などから、竪穴住居に付随する簡略な上部構造をもつ貯蔵施設としての機能を持つていたと考えられる。



7 竪穴状遺構 SX1006 平・断面図



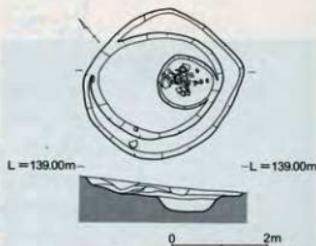
8 SK1016 遺物出土状況

#### 貯蔵穴 SK1016

調査区西側で検出された土坑である。長軸244cm、短軸212cm、深さ28cmを測り、平面プランは不整形円形を呈する。遺構内からは弥生時代後期初頭頃とみられる長頸壺・甕など8個体がほぼ完形で一括出土している。集落内の位置関係などから隣接する竪穴住居跡に付属する貯蔵穴と考えられる。

#### 焼土坑 SK1067

調査区東側縁辺部で検出された円形の平面プランを呈する火の使用が顕著な焼土坑である。長軸3.34m、短軸3.14m、深さ0.24m、断面形は段状をなし、最深部で0.50mを測る。床面には焼土・炭化物が一面に拡がり、また遺構内埋土中にも炭化物と焼土が多量に充填



9 焼土坑 SK1067 平・断面図

していた。深く掘り込まれた土坑内からは弥生後期初頭頃とみられる壺・鉢などが出土している。この土坑は何らかの祭祀が行われた遺構であると考えられるが、遺跡の性格や集落での位置関係などから「のろし台」の機能を有する遺構の可能性も考慮する必要がある。

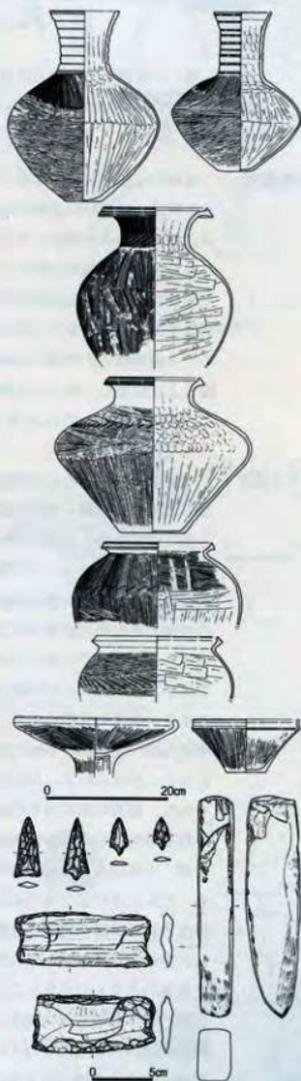
## まとめ

今回の調査により、本遺跡は遺跡の時期・立地および地形的条件・防衛施設と捉え得る溝の存在等から、山頂部に営まれた弥生時代中期末～後期初頭頃の環濠を伴う高地性集落であることが明らかになった。高地性集落で環濠を伴う例としては四国で初例である。

集落の中心は遺構の分布から調査区のさらに北側に展開するものと考えられ、集落の範囲は平坦な山頂部全体に広がるものと予想される。その推定規模は約10,000㎡に及ぶ大規模なものであり、おそらく平坦な緩斜面の頂部から斜面部にかけて同時期に10軒前後の竪穴住居跡が存在していたものと推定される。

高地性集落は一般的に軍事的性格の強い非日常的な集落とされているが、本遺跡からは祭祀的遺構や石器製作工房跡、イネやマメ類などの穀物を貯蔵したと想定される遺構のほか、石器類では石鎌のほかにも石庖丁・石斧・磨石などの生産用具が多く出土していることなどから、継続的に生産活動が営まれた集落、現段階では畑作を中心とした防衛的機能を兼ね備えた日常の農耕生産集落と位置付けられる。

四国では、本遺跡のように具体的に高地製集落の構造が捉えられた例は少ない。本遺跡では環濠のほか、竪穴住居群・土坑群・5m以下の小形竪穴住居（貯蔵施設）群などそれぞれ集中しており、遺構の分布から集落内での機能分担も想定される。今後、周辺の台地上に展開する遺跡や低地性遺跡との比較を通して土地利用形態の分析や集落構造など、より詳細な検討をしていく必要がある。（原）



10 出土遺物

まる やま  
丸 山 遺 跡

所在地 三好郡三野町勢力字丸山

調査期間 1995年9月26日～1996年3月31日

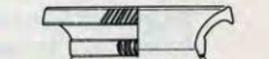
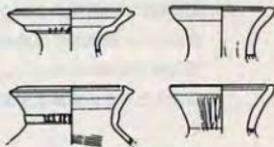
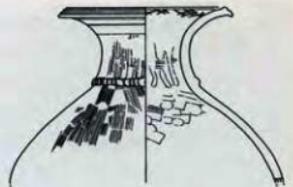
担当者 久保 隆 下内 伊丹 原 相原

**調査概要** 吉野川上流域に位置する三野町は、地形上、北の阿讃山地沿いの急峻な山間丘陵部と、南の吉野川沿いの沖積地に大きく分けられる。この丘陵部と沖積地の境には、吉野川によって形成された中小の河岸段丘が拡がり、所々に数十mの比高差を持つ段丘崖が発達している。本遺跡はこの阿讃山地南麓に形成された段丘上に位置し、段丘の先端部は南の沖積地との間に約70mの比高差をもつ段丘崖となっている。

**竪穴住居跡** 本遺跡は、一部の包含層出土遺物や火葬墓などに中世の遺構・遺物を含む以外は住居跡と掘立柱建物跡・土坑によって構成される弥生時代の集落を中心とする遺跡である。いずれも中期中葉の畿内第Ⅲ様式並行の時期のものが殆どを占め、20基検出されている住居跡のうち、この時期以外のものは僅か1基だけである。検出された住居跡はその規模から①直径7m前後の大型のもの、②4～5mの中型のもの、③2m～3mの小型のもの3つに大きく分けられる。何れも床面中央部に炉をもち、周囲の床には台石に使われたと考えられる砂岩製の円礫が据え付けられている。大型・中型のものは壁際に周溝が巡らされるが、なかには拡張を繰り返したものがあり、検出された炉跡や周溝が複数で柱穴の数が非常に多い例がある。これ以外にも火災をうけた痕跡のあるものが多いことも注目され、住居跡の約半数から厚い焼土の堆積や広範な炭化物の拡がりが見出されている。全体的に住居跡内からの遺物の出土量は少ないが、火災住居跡 SB1003 では住居跡廃絶後に投棄され



1 調査地点の位置 (池田)

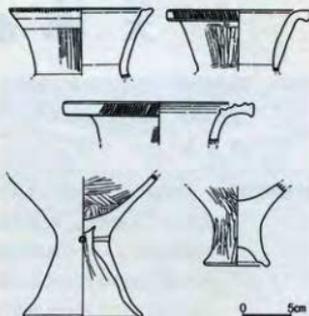


0 5cm

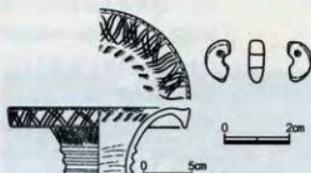
2 住居跡 SB1003 出土遺物

**区画溝** た土器片がまとまって出土している。住居跡や土坑以外では、調査区北東部を北西から南東に向かって弧を描くように走る溝が一条検出されている。幅約2m、深いところで1m近く掘り込まれた溝からは、周辺から流れ込んだ円礫に混じって多数の遺物が出土している。遺物は他の遺構同様、畿内第Ⅲ様式段階の弥生土器であるが小片が多く、礫と同様、周辺から流れ込んだものと考えられる完形の個体が少なく、埋土中からほぼ均等に出土していることを考えると、いくつかの例外を除けば意図的に投棄されたものではなく、礫同様に周辺から流れ込んだものと考えられる。この溝の性格としては、隣接する大谷尻遺跡のように高地性集落に伴う防衛を目的とするものと比較すると規模が小さいことや、溝の周辺の遺構の分布をみると溝を境にして北側では住居跡や土坑などの遺構が比較的濃密に分布しているのに対し、南側では遺構の分布がいったん途切れていることから、何らかの意図をもって集落内を区画する性格をもった遺構であろうと思われる。

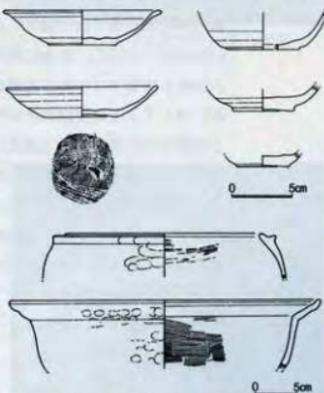
**まとめ** 本遺跡の東側には谷を一つ隔てた段丘上に同じ弥生時代に属する大谷尻遺跡が位置している。本遺跡に先行して実施された調査で、台地周辺に環濠を巡らせる弥生時代中期後半から後期にかけての高地性集落であることが明らかになり、両者がどのような関係にあるかが注目されていた。しかし、今回の調査の結果は、本遺跡が出土遺物から大谷尻遺跡よりも若干先行する弥生時代中期中葉を中心とする時期に形成された遺跡であることが明らかになった。本遺跡と同時期の集落遺跡としては吉野川北岸地域では阿波町日吉谷遺跡以外、類例が極めて少なく今後の両遺跡の比較によって不明な部分の多い中期中葉段階の遺構・遺物の性格の一端が明らかになるものと考えられる。(久保隆)



3 溝 SD1001 出土遺物



4 土坑出土遺物



5 調査区内出土中世遺物

# おお がき 大 柿 遺 跡 (大船戸地区)

所在地 三好郡三好町昼間

調査期間 1996年1月22日～1996年2月22日

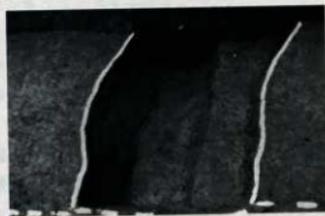
担当者 石井 中南

**調査概要** 大柿遺跡は、吉野川左岸の海拔80m前後の台地上に位置する。阿讃山地から南流する小川谷川等の小河川の堆積作用によって形成された複合扇状地の扇端部にあたり、かつ吉野川の河川水によって開析された河岸段丘の低位段丘面に相当する。調査対象地の北辺を中央構造線が東西に走っており、中央構造線を境に北方の山側は典型的な扇状地の堆積を示すが、調査対象地を含む中央構造線南側はこの近辺では数少ない沖積層が形成されている。なお、昭和50年に実施された吉野川北岸農業水利事業に伴う発掘調査では、縄文時代から室町時代にかけての遺構が確認されており、今回の調査対象地はこの延長にあたりと考えられる。

**調査成果** 今回の調査は、現道を拡幅する工事用進入路部分が対象となったが、柱穴158基、土坑10基、溝6条、流路2条が確認された。遺構の年代については、第1工区北側で検出された流路(SR1001)を境に傾向が異なる。この流路の南側では中世の遺構が大半を占めるのに対して、北側では弥生時代から中世に至る複数年代の遺構が同一面上に展開している。これらの遺構のうち溝(SD1001)と溝(SD1006)は同一方向であること、断面形状が同一であること、遺構内遺物の時期が近似すること、両溝間の間隔が109mであることから、条里制に関係する遺構である可能性が高いと思われる。(石井)



1 調査地の位置 (池田)



2 SD1001



3 第2工区遺構群

# く よう ち 供 養 地 遺 跡

所在地 三好郡池田町字クヤウジ4151他  
調査期間 1995年7月13日～1996年3月31日  
担当者 逢坂 石本

**調査概要** 本遺跡は池田町の吉野川を見下ろす河岸段丘上の標高120m付近に位置する。

標高が最も高い南の端では近世における削平が著しく、墓、瓦を焼いたと思われる窯、集石不明遺構（いずれも近世）を検出した。

調査区中段、下段では中世の遺物包含層、遺構面とも良好な遺存状態であった。

**中世墓** 中世墓の可能性が考えられる遺構は5基検出したが3タイプに分けることができる。

「タイプ1」は長軸10m、短軸2m、最深度1mを測る溝に20～80cmの砂岩を不規則に集石する。最下層で煮沸具が100点あまり集中的に出土している。

この遺構は溝状をしている点からすると、これ自身が墓ではなく、この集石を伴う溝から北側（傾斜面の下部）を墓域として区分しようという意図があった可能性も考えられる。

「タイプ2」は長軸2.5m、短軸2mを測り、20～80cmの砂岩（川原石が混じる）、結晶片岩を基壇状に1.5m程積み上げる。その集石の中に納骨器を埋葬したと見られる施設（主体部）を積み石の中層と下層の2ヶ所で検出している。

中層の主体部は20cm程度の砂岩で囲まれた直径60cmの円形をしている。この部分では釜の体部と足が出土している。

一方基底部に近い主体部は、握りこぶし大の石でつくられた直径30cm程の大ききで、その中心部で煮沸具が集中的に出土した。

この遺構は、傾斜約30°の斜面に60～80cmの比較的大きめの石英質の岩と結晶片岩を配して地面の傾きを矯正したあと、大小の石



1 調査地点の位置（池田）



2 中世墓「タイプ2」検出状況



3 中世墓「タイプ2」主体部

を基壇状に積み上げる造作がなされている。

埋土はシルト質で非常によく締まっていた積み石相互の隙間は全くない。

もともとの形態は方形に近い形であったと思われるが、開墾等によって東西の縁部の遺存状態が悪く、若干南北に長い形をしている。

「タイプ3」はベースとなる地山面に結晶片岩、石英質白色円礫によって長軸4m、短軸2mの「コ」の字型の基底部をもつ。

この上に大小様々の砂岩を集石する。明確な主体部は確認できなかったが、「コ」の字の閉じた部分に煮沸具が多く出土している点から、本来この部分に主体部があったものと考えられる。

## まとめ

今回の調査で吉野川上流域の中世墓の一端が明らかにされた。いずれのタイプも出土遺物から火葬墓と推定されるが、火葬施設は検出できなかった。次年度にはすぐ東で「お塚古墳」の発掘調査が予定されているので、今後一層資料が積み上げられていくことを期待したい。(石本)



4 中世墓「タイプ2」土器出土状況



5 中世墓「タイプ3」土器出土状況



6 中世墓「タイプ3」検出状況

# やま だ 山 田 遺 跡 (Ⅱ)

所在地 三好郡池田町字ヤマダ  
調査期間 1995年6月5日～1996年3月30日  
担当者 小泉 佐藤

**調査概要** 本遺跡は吉野川南岸上流域、標高117mを測る、北に向かって緩やかに傾斜する河岸段丘上に位置する。遺跡周辺の段丘面は浸食が進み、深い谷に区切られた舌状の地形を呈している。文献資料によるとこの付近に西法寺跡の所在が記されている。調査の結果、鎌倉時代から室町時代にかけての集石遺構、掘建柱建物跡、土坑、溝が検出された。

**集石遺構** 調査区の北西端部に位置し、長軸5.6m、短軸4mを測る集石遺構である。遺構は直径20～30cmの川原石と直径2cmの白色円礫を積み重ねた状態で検出された。平面プランは楕円形状を呈するが、南西部のみやや突出していることから、本来は規模がさらに大きい。川原石を除去すると直径30～50cmの砂岩と川原石を使い3重の区画石列を長方形に巡らしている。規模は外側の石列が、長軸4m、短軸3.6m。中央石列は、長軸2.6m、短軸2.4m、内側が長軸1.8m、短軸1.4mを測る。外側の石列は田畑の造成時に抜き取られており、東西に数基残るのみである。集石遺構中央部には、直軸1.6m、短軸1m、深さ0.2mの土壇を作り出している。主軸方位は、ほぼ東西である。土壇内からは木棺の痕跡や骨片等は、確認できなかったが土師器の小皿3点が出土した。また、内側の石列は直径50cm大の砂岩と河原石で囲まれているが、南側中央部1ヶ所のみ直径20cm大の川原石と白色円礫を円形状に組み合わせて囲まれており、その川原石を除去すると、人骨片が焼土とともに出土しており、追葬が行われたものと思



1 調査地点の位置 (池田)



2 集石遺構検出状況



3 集石遺構掘下げ状況

われる。集石遺構の構築過程は、地山面には岩盤が露出しており、岩盤を利用しながら土器細片を含む砂質土を敷き、中央部に土嚢を造り、その後、3重の区画石列を並べ、川原石と白色円礫で石列の周囲を固めていったものと思われる。集石遺構の構築年代であるが最初に敷き詰めた埋土より口禿げの白磁皿が出土しており13世紀中葉～14世紀代に位置づけられるものと思われる。



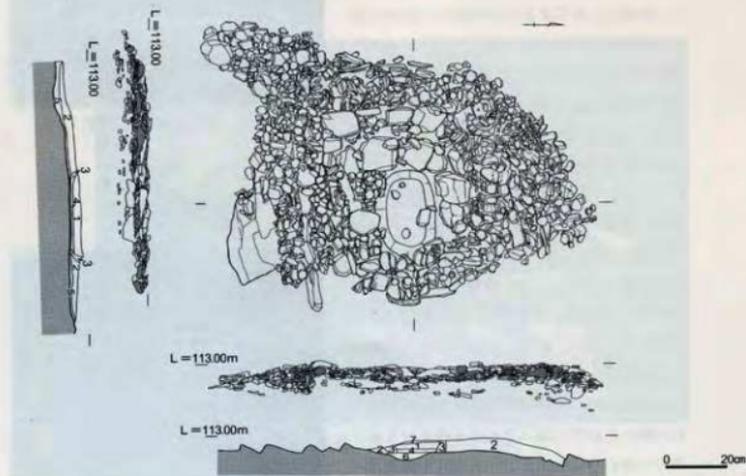
4 人骨出土状況

**掘立柱建物** 調査区の中央付近より検出された遺構である。梁間4間、桁行2間を測る。柱間距離は梁間6m、桁行2.5mを測る。主軸方位は、東西に向いている。柱穴平面プランは円形を呈し直径20～40cm、深さは30～50cmを測る。柱穴内からは土師器の杯、皿、瓦質土器が出土し13～14世紀代に位置づけられる。



5 建物完掘状況

**まとめ** 今回の調査により、西法寺跡を示す資料は検出されなかった。集石遺構は、県下では類例が少なく、香川県や草戸千軒町遺跡で検出されており、県下での中世墓の様相を知る上での貴重な資料となろう。(小泉)



6 集石遺構断面図

# 縦貫道関連試掘調査

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 発掘調査一覧表参照

担当者 武市 谷 伊丹 九十九 高柳 石井  
 中南 久保 辻 佐藤 常村 山田  
 原田 小泉 原 栗林 大北 佐藤

**田上遺跡(Ⅰ)** 脇町東田上534-1他に所在し、吉野川北岸の新町谷川の東側に隣接する標高約120mの中段段丘上に位置する。昨年度未調査部分に着手した。宅地造成時の削平が著しく、表土直下に地山が露出しており、遺構、遺物を確認することはできなかった。

**薬師遺跡** 美馬町字薬師2-6他に所在し、吉野川北岸の標高120mの中段段丘上に立地する。段丘は比高差約20mほどの上位面・下位面の2段分かれており、更に西側の坊僧遺跡(中黒地区)との境には尾根上に高まりがある。今年度買収部分の試掘調査を実施した。本調査実施地区と同様に薬師地区では室町時代の柴坂地区においては縄文時代晚期及び室町時代の遺構面が検出された。

**坊僧遺跡(中黒地区)** 美馬町子ゲジ字中黒23他に所在し、吉野川左岸の標高130mの中段段丘上に位置する。対象地は東側の小尾根と西側の比高差約20mの段丘に挟まれた谷状地形に展開する。当初、本調査を実施する予定であった。しかし再試掘調査の結果、昨年度検出された遺構は近世であり、調査区全域において近世以降の削平が及んでいることから本調査を中止した。

**坊僧遺跡(坊僧地区)** 美馬町字坊僧10他に所在し、吉野川北岸の標高150mの中段段丘上に位置する。昨年度未実施部を本調査に先行して試掘調査を実施した。東側では遺構構築面が検出されたが、遺構は未検出であり、急勾配であり、遺構が構築される可能性は非常に低いと考えられる。中央部は、坊僧池堤防の構築の際に土取りさ



1 調査地の位置



2 田上遺跡(Ⅱ) 土層堆積状況



3 坊僧遺跡(中黒) 土層堆積状況

れていたことが判明した。

**坊僧遺跡 (東段地区)** 美馬町字東段66他に所在し、吉野川北岸の標高145mの中位段丘上に立地する。昨年度に引き続いての試掘調査である。遺構は確認できなかったが、旧石器包含層と想定されるシルト質土からサヌカイト製剥片が多量に出土したため、本調査を実施した。

**滝ノ宮遺跡** 美馬町滝ノ宮181-2他に所在し、吉野川北岸の標高150mの中位段丘縁辺部に位置する。1992年度未調査部の試掘調査を実施した。遺構、遺物ともに未検出である。

**下突出遺跡** 美馬町字中横尾60-3他に所在し、吉野川北岸の標高130mの中位段丘上に立地する。眼下の鍋倉谷川の形成した扇状地とは比高差約40mある。段丘中央部からは弥生時代包含層と遺構面が検出できた。しかし段丘縁辺部は宅地造成により地山層まで削平されていた。

**荒川遺跡** 美馬町荒川字塚坂13-2他に所在し、吉野川左岸の標高110mの扇状地に立地する。地形は西から東に緩やかに傾斜しているが、小河川によって寸断されており、複雑な地形を呈する。周辺には平野古墳、海原古墳、荒川古墳などが点在している。調査の結果、2枚の遺構面が確認された。また未買収地には「お塚」と呼ばれるマウンド状の高まりがある。



4 坊僧遺跡 (東段) 土層堆積状況



5 下突出遺跡透景



6 荒川遺跡土層堆積状況



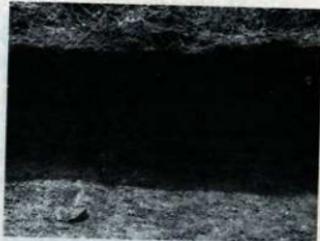
7 調査地点の位置

**吉水遺跡** 美馬町字吉水77他に所在し、吉野川北岸の標高115mの中位段丘上に立地する。『美馬町史』では縄文～中世にかけての散布地として記載されている。黄褐色砂質土層内より弥生土器、土師質土器、瓦片が出土しており、弥生時代及び中世の遺構面が確認できた。



8 吉水遺跡遺物出土状況

**西屋敷遺跡** 美馬町字里西屋敷に所在し、吉野川北岸の標高135mの中位段丘上に位置する。対象地の東西は小河川による谷地形であり、比高差は約40mの急崖となっている。耕作土直下から地山にかけては北側の阿讃山地からの押し出し土が堆積している。遺物はすべて客土から出土しており、遺構も未検出である。



9 中山遺跡土層堆積状況

**中山遺跡** 美馬町字中山に所在し、吉野川北岸の標高140mの中位段丘上に位置する。東西を阿讃山地からの小河川によって分断されている。耕作土及び客土下から炭化粒を含むにふい黄褐色粘性砂質土が検出された。しかし遺物は検出されず、また地山層の明黄褐色土層からも遺構は未検出である。



10 西大佐古遺跡土層堆積状況

**西大佐古遺跡** 美馬町字突落5他に所在し、吉野川北岸の標高約135mの隆起扇状地上の大佐古谷によって形成された小扇状地上に立地する。調査の結果、大佐古谷の堆積作用による砂層と礫層が互層状に堆積しており、遺構、遺物等は検出されなかった。

**塩塚遺跡** 三野町加茂野宮字塩塚1336-3他に所在



11 調査地点の位置

し、吉野川北岸の加茂野宮扇状地の扇頂部に立地する。対象地内は扇状地と比高差約15mの独立丘陵が存在する。扇状地は礫層と砂層が互層状に堆積しており遺構、遺物は未検出である。一方、独立丘陵は町指定の史跡であり、『三野町史』にも、「一もっこ」として紹介されている。頂上部のトレンチ調査の結果、地表下約0.5mの灰黄褐色砂質土層内より割石の石組みが検出された。なお、遺物は未検出である。

#### 丸山遺跡

三野町大字勢方字丸山1205他に所在し、吉野川北岸の標高約140mの隆起扇状地上と阿讃山地南側山麓に立地する。分布調査ではサヌカイト製石鎌、須恵器、土師質土器等が採集されている。隆起扇状地部分の基本層序は第1層耕作土、第2層にぶい黄褐色粘質土、第3層にぶい黄褐色粘質土、第5層灰黄褐色粘質土である。第3層中より弥生土器と若干の土師質土器が出土しており包含層と考えられる。第4層上面より竪穴住居跡、土坑、柱穴等が検出された。時期は弥生時代中期である。一方、山麓部分においては耕作土直下より地山である灰黄褐色粘質土が検出された。遺構、遺物は未検出である。

#### 花園遺跡

三野町太刀野字花園窪119他に所在し、吉野川北岸の標高123mの河内谷川によって形成された隆起扇状地上と標高103mの低位段丘上に立地する。分布調査では弥生土器、紡錘車等が表採されている。また対象地北方の花園中地区では中世の花園窯が所在する。東側隆起扇状地は砂礫層が堆積しており遺構、遺物は検出されなかった。一方、低位段丘部では、耕作土下の黄褐色砂質土層よりサヌカイト製石鎌や土師質土器が出土し、遺構構築面と想定されるにぶい黄色砂質土層では柱穴等が検出された。

#### 大刀野山遺跡(Ⅱ)

三野町太刀野字西久保1228-1他に所在し、吉野川北岸の標高約80mの堂の谷川が形



12 塩塚遺跡調査前風景



13 丸山遺跡遺物出土状況



14 花園遺跡土層堆積状況

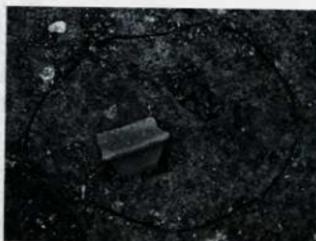


15 太刀野山遺跡(Ⅱ)土層堆積状況

成した小扇状地の西南部分に立地する。1994年度未調査部を対象とした。基本層序は砂層と砂礫層が互層状に堆積している。現地表下約1.3mの地点で地山が検出されたが、遺構、遺物は未検出である。

#### 東原遺跡

三好町足代字東原763他に所在し、吉野川北岸の標高約75mの黒川原谷川が形成した扇状地扇端部に立地する。前年度未調査部を対象地とした。対象地東側縁辺部では、前回試掘調査時同様に、耕作土直下より中世の遺構、遺物が検出された。また、西側においても弥生時代の包含層が検出された。



16 東原遺跡遺構検出状況

#### 西原遺跡

三好町足代字西原776他に所在し、吉野川北岸の標高約75mの黒川原谷川が形成した扇状地扇端部に立地する。東原遺跡とは黒川原谷川を挟む形で展開している。前年度未調査部を対象地とした。前回試掘調査時同様黒川原谷川を臨む対象地東側縁辺部で耕作土直下より弥生時代の遺構、遺物が検出された。



17 西原遺跡遺構検出状況

#### 円通寺遺跡

三好町足代字円通寺1382-1他に所在し、吉野川北岸の標高約85mの黒川原谷川と子守谷川によって形成された複合扇状地の扇端部と吉野川の堆積作用によって形成された沖積地に立地する。調査対象地内には1978年に吉野川北岸農業水利事業に伴って発掘調査がおこなわれた地点も含まれており、中世および弥生時代中期の遺跡として知られている。扇状地部では耕作土直下のにぶい黄褐色砂質土層より土師質土器、弥生土器、サヌカイト剥片等が検出されており包含層と推定される。包含層下のにぶい黄色粘質土層上面より炭炭、柱穴等の遺構が検出された。一方、沖積地部では耕作土直下のにぶい黄褐色粘質土層内より土師質土器、銅銭等が出土した。遺構構築面はにぶい黄褐色粘性砂質土層と想定される。



18 円通寺遺跡遺構検出状況

#### 土井遺跡

三好町大字昼間字土井1007に所在し、吉野川北岸の標高約98mの中段段丘上に立地する。前年度未調査地部を対象地とした。対



19 土井遺跡遺構検出状況

象地西側縁辺部では耕作土、客土下の包含層と推定される暗灰黄色砂質土層内より土師質土器、スラッグ等の鋳造関連遺物が出土した。遺構構築面にはぶい黄色砂質土層である。段丘中央部では耕作土及び床土直下より包含層及び遺構構築面が検出された。両層とも前回試掘調査と同様で、暗灰黄色砂質土層と黄灰色砂質土層である。包含層中よりスラッグ等の鋳造関連遺物が出土した。段丘東側縁辺部では耕作土、床土下には暗灰黄色砂質土層や黄褐色礫層が堆積しており、遺構、遺物は検出されなかった。

大柿遺跡

三好町大字昼間字大柿他に所在し、吉野川北岸の標高約75mの中州性微高地上に立地する。今回の対象地は1975年吉野川北岸農業水利事業に伴う発掘調査がおこなわれた地点から約南に200mの地点である。現況を観察すると対象地中央部がやや低いために当初微高地は流路を挟んで東西2箇所あったものと想定される。東側微高地東側縁辺部は耕作土下に5~6枚の水田土壌が堆積しており、出土遺物から古代から近世にかけての水田と想定される。水田土壌下にはオリーブ褐色粘質土層が堆積しており、須恵器、土師器等古墳時代後期の遺物が出土している。東側微高地中央部では耕作土直下より中世、古代、古墳時代後期、弥生時代後期の遺構面が検出さ



20 大柿遺跡土層堆積状況



21 大柿遺跡遺構検出状況



22 大柿遺跡遺物出土状況



23 調査地点の位置

れた。西側微高地北側からは耕作土直下より中世、古代の遺構面が検出された。1975年度に発掘された集落の南側縁辺に相当する。現況では西側微高地は吉野川に向かって棚田状に落ち込んでおり、対象地のほとんどがこの棚田地区にあたる。耕作土下約2mにわたって水田土壌が10層程度堆積しており、層中より近世、中世、古代、古墳時代後期の遺物が出土した。当該期の水田と想定される。

#### 八幡遺跡

井川町字八幡28-3他に所在し、吉野川南岸の標高約90mの河岸段丘下位段丘面上に立地する。現地地表下約40cmの暗灰色粘性砂質土層中より古代から中世にかけての遺物が出土しており、包含層と考えられる。遺構構築面と想定されるのは黄褐色砂質土層である。

#### 井出上遺跡

井川町西井川字井出上687-2他に所在し、吉野川南岸の標高約125mの河岸段丘上位段丘面上に立地する。耕作土下褐色粘質土層中より弥生土器、土師質土器が出土しており、包含層と想定される。遺構構築面と想定される明褐色粘質土層からは柱穴等が検出された。

#### 相知遺跡

井川町西井川字相知421他に所在し、吉野川南岸の四国山地山裾から河岸段丘上位段丘面にかけての傾斜地に立地する。そのため最大比高差は約12mになる。傾斜地のため包含層は一定していないが、地表下約40cmの褐色砂質土層内より大量の弥生土器、須恵器、土師器等が出土した。また、オリブ褐色粘性砂質土層上面では柱穴等が検出された。

(栗林・谷)



24 八幡遺跡遺構検出状況



25 井出上遺跡遺物出土状況



26 相知遺跡遺物出土状況

# 矢野遺跡

所在地 徳島市国府町矢野字せんだんの木430-1  
 調査期間 1995年4月29日～1996年3月25日  
 担当者 藤川 上藤 西岡 稲村 (第1分割)  
 近藤玲 佐野 瀧山 (第2分割)

**調査概要** 矢野遺跡の調査は、銅鐸が埋納状態で出土した平成4年度の調査を皮切りに今年度で四年次目を迎える。調査区は銅鐸出土地点を中心に大きく南北に展開しており、北側の一群を第1分割、南側の一群を第2分割として調査を実施した。

## 第1分割

第1分割では、奈良～平安時代を中心とする第1遺構面、弥生時代の第2遺構面がほぼ全面で検出されたほか、一部の調査地の下層では縄文時代の良好な堆積が確認された。第2分割では、古代～中世の遺構面、弥生時代～古墳時代の遺構面が検出された。

## 縄文時代の層位

縄文時代文化層は、標高5.7mから8mまでの2m以上に及ぶ。文化層の形成は、後期初頭から後期前葉までの期間に限られ、細砂・砂質土・粘性砂質土など、鮎喰川によって供給された微粒の水性堆積物で充填される。

文化層からは、中津Ⅰ式・中津Ⅱ式・福田KⅡ式・緑帯文成立期の各土器群が、良好な層位的上下関係をもって出土している。また、中津Ⅰ式期および緑帯文成立期に時期の特定が可能な、最低3枚の遺構面を検出した。

## 縄文時代の遺構

長軸径が3mを超える円形ないし楕円形の浅い掘り込み20基以上、炉および焼土面約50基(土器敷き炉1基)、土坑約170基、ピット約40基、集石2基である。この内、長軸径が3mを超える浅い掘り込みは、各種遺物の集中状況や、一部で焼土が認められることから、竪穴住居の可能性もあるが、柱穴は一切認められず、検討の余地が多い。

## 縄文土器

詳細な点数は不明ながら、コンテナ約500



1 調査地点の位置  
 (●は第1分割 ▲は第2分割)



2 縄文時代包含層の土層堆積状況



3 土器を敷きつめた炉 (SH4012)

箱分の出土があった。土器では、中津1式～緑帯文成立期に相当する磨消縄文を文様構成の基本とする各土器型式が出土した。中津1式及び緑帯文成立期の一部の遺構で良好な同一個体資料が、精製・粗製を含め複数点のセットで出土するという成果があった。文様面のみならず、形態・組成等の観点からも研究上重要な資料群である。



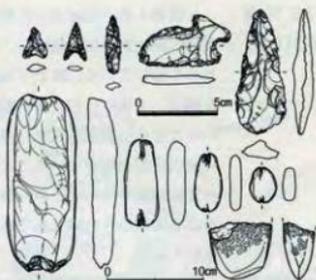
4 縄文土器の廃棄状況 (SX4027)

## 石 器

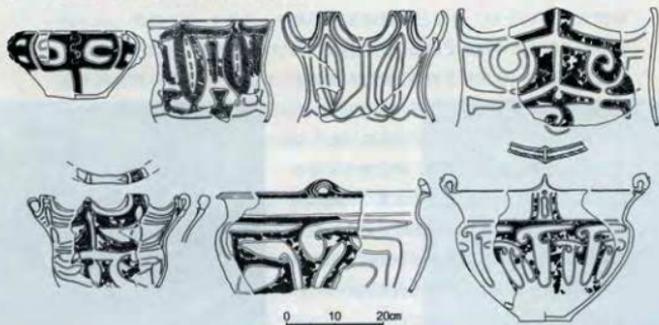
石器類では石鏃、尖頭器、石匙、石錐などの剥片石器類と、磨製石斧、石錘、磨石・石杵類、石皿などの礫石器類が、それぞれ出土した。剥片石器類はすべて搬入系石材のサヌカイト製で、これに対し礫石器類はチャート・頁岩・結晶片岩といった在地系の石材を多用している。この内50点以上出土した石錘は、当遺跡の主要ツールであり、形態上あるいは重量上の豊富なバリエーションは、漁網の種類や結合部位、使用方法など、用途に応じた作り分けの存在を示唆するものである。

## 朱の精製

また、中津1式期に伴う磨石・石杵類の一部に、赤色顔料の付着が認められる。ベンガラに混じって2点に水銀朱が付着していることが判明した。朱によって内外面に赤彩された土器もあり、矢野遺跡周辺での朱の生産活動が、少なくとも後期初頭には、既に行われていたことを窺わせる事例である。



5 縄文時代の石器



6 縄文時代の土器

**弥生時代の遺構配置** 弥生時代の遺構面は調査地のすべてにおいて確認されている。南端に弥生後期以降の自然流路があり、この流路以北住居第1群に調査地点の大部分が該当する。密度は周囲の各地点と比較すると、低いものとなっている。

**2号建物 SA2001** 1間×6間の規模を有し、北西方向に主軸をとる。柱穴の掘り方の平面プランは円形を基調としている。埋土からの遺物は、土器の細片と鉄鏃である。出土遺物のみでは、年代を確定するにはいたらないが、隣接地の同規模の建物と主軸の方向が一致することから、後期の初頭とするのが妥当であろう。

**70号溝 SD1070** 住居第1群の南縁近くに検出された溝で、東西方向に調査区を縦断し、北方向に枝分かれして伸びている。幅2～3m、最大深度1.4mを測る。上層には包含層が陥没して堆積していることから識別された。弥生時代後期前半の竅穴住居を切っていること、出土遺物からみて後期後半のものと思われる。溝の底面付近より讃岐からの搬入品である壺形土器が出土している。

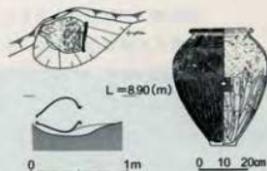
**土器棺墓 SK2006** 土器棺墓はその他の遺構の密集度にかかわらず、各所に点在している。SK2006は壺形土器の底部を穿孔し、横倒し時の下部にさらに穿孔を行なって棺に転用している。土器は原形をとどめており、内部に埋土同様の砂が流入していたが、骨などは遺存していなかった。年代は中期末である。この他に、自然流路の南側（住居第II群側）には、中期末と後期後半の土器棺墓が1基づつ並んでいた。

**土器だまり SK2060** 長軸2.5m、短軸2mの不正円形を呈し、深さ0.25mを測る土坑である。炭化物や灰層をはさんで、数々にわたっての大量の土器の廃棄が行なわれている様子が観察された。廃棄されていた土器には各種の器形が含まれているが、土器そのものに祭祀を表すものはみられなかった。年代は中期末である。

**古代の遺構** 奈良時代～平安時代にかけての遺構も、調



7 1号建物 (SA2001) 完整状況



8 土器棺墓 (SK2006) 平・断面図及び出土遺物



9 土器だまり (SK2060) 土器廃棄状況

査地点全体から検出されている。北側の調査区は、昨年度竪穴住居が密集して検出された地区の隣接地にあたるが、区画溝の外側に相当し、遺構の検出状況はやや様相が異なる。区画溝の中には大量の土器を廃棄している箇所があった。溝の中にはわずかではあるが、瓦器を含んでいるものもあり、再掘削ののち中世まで継続的に利用されている。この区域では、年代は9世紀を中心としている。

#### 61号土坑 SK1061

上記の区画溝の外縁に位置する土坑で、長軸49cm、短軸44cm、深度20cmを測る。土師器の甗および須恵器の杯が納められていた。甗は体部の側面に一对の把手を有するものである。底部は本来円孔を6つ穿っているものであるが、棧の部分を持ち抜いている。底部穿孔と同様の意図をもつものであり、何らかの儀礼にともなうと考えられる。

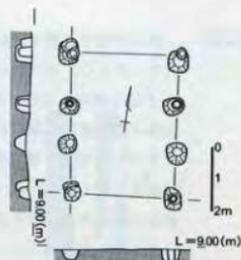
#### 掘立柱建物

南側の調査区においては、掘立柱建物が12棟確認された。これらはいずれも主軸を南北あるいは東西にそろえている。柱穴の掘り方は方形または長方形で、規格性は高い。建物によっては掘り方の掘削、柱の固定、廃絶時の柱の抜き取りに至る過程が明瞭に観察できるものがあつた。

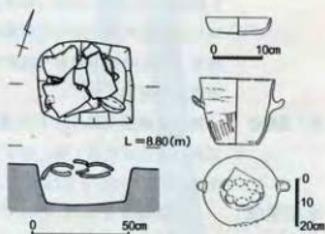
#### 8号建物 SA1008

建物群のなかでは南寄りに位置しており、1間×3間の規模を有するもので、柱間で長軸4.5m、短軸3.3mを測る。柱の掘り方は隅丸の方形である。出土遺物は、いずれも土師器や須恵器の細片で、単独での細かい年代特定は困難である。他の遺構での遺物の出土状況からは、8世紀後半から9世紀の初頭とみることが出来る。

建物群は南北両側とも拡がっておらず、この区域において一定のまとまりをもつことが確認されている。国府推定域の南縁に位置しており、その強い規格性からみても、国衙との関連性が窺われる。(稲村・藤川)



10 8号建物 (SA1008) 平・断面図



11 土坑(SK1061)平・断面図及び出土遺物



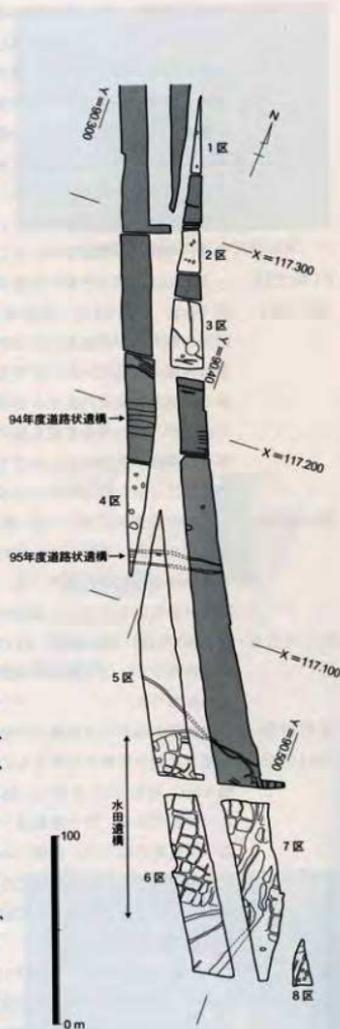
12 掘立柱建物群 完掘状況

**第2分割** 第2分割では第1分割の南約500mの調査区を1区とし、そこから南へ2、3、4、5、6、7、8区と便宜上名付けた。1区北端から8区南端までの直線距離は約480mである。現状はすべて水田で、標高約11～12m、高低差は最大で約1.5mしかないが、沖積層特有の微妙な起伏がある。昨年度の調査で、弥生時代中期末から古墳時代はじめの遺物包含層の堆積が、試掘の予想よりも60～80cmほど深いことがわかったので、4区から8区は第2遺構面を二段階に分けて掘削することにした。したがって、1区から3区は第1遺構面（古代～中世）、第2遺構面（弥生時代中期末から古墳時代はじめ）の2枚、4区から8区は第1遺構面（古代～中世）、第2遺構面A（弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭）、第2遺構面B（弥生時代中期末～後期前半）の3枚の遺構面を発掘した。

**第1遺構面** 第1遺構面で見出された遺構は、水田51区画、道路状遺構1条、池1基、柵列1列、土坑49基、ピット632基などである。

**水田遺構** 水田遺構は5、6、7、8区で平面的に捉えることができた。なかでもとくに遺存状態が良かったのは、6区と7区である。断面を詳細に観察すると、水田床土の微妙な起伏があり、これは耕作の跡と考えられる。水田の時期は、水田耕作土中の遺物や、遺構の切り合い、土層の堆積状況から奈良時代後半～平安時代前期と考えられよう。水田の区画は、畦畔の方向が一定でなく、従来から指摘されているN11°Wという条里方向にはのらない。よって、水田1区画の大きさもさまざまであり、最も大きな水田は6区SI1016で面積は約80㎡（調査区外へ延びているため復原では100㎡）、最も小さな水田は6区SI1005で面積は約36㎡である。

**道路状遺構** 昨年度の道路状遺構から南へ約74mの4区と5区で見出された。両調査区とも路面は水



13 第1遺構面主要遺構配置図  
（※網掛け部は94年度以前の調査区）

田遺構の削平を受け、遺存状態はあまり良くない。主軸は  $N77^\circ E$  の方向を指し、検出面で道路の幅 5.8m、道路の南北両側に幅 0.8m と 1.6m の側溝を伴い、道路中央にも幅 1.6m の排水溝がある。昨年度発掘された国分寺へ向かう道路状遺構と構造は非常によく似ているが、規模が約 60% ほどに縮小されている点が異なる。時期は道路中央の排水溝より出土した杯蓋などの須恵器片から奈良時代後期～平安時代前期と思われる。

### 第2遺構面

第2遺構面は昨年度の調査で弥生時代中期末～古墳時代前期初頭の包含層が非常に分厚く、かつ複雑に堆積していることがわかった。したがって、今年度の調査は弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭を第2遺構面A、弥生時代中期末～後期前半を第2遺構面Bとして遺構検出することにした。

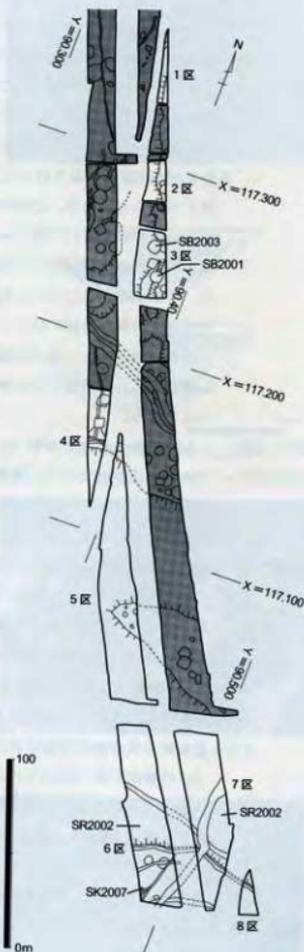
### 第2遺構面A

第2遺構面Aで検出された遺構は、竪穴住居跡 8 軒、集石遺構 1 基、溝 19 条、土坑 54 基（土器棺墓 2 基を含む）、ピット 80 基、自然流路 7 条などである。

### 竪穴住居跡

#### SB2001

3区で検出された長軸 6.8m × 短軸 6.3m の方形の竪穴住居跡である。床面から 20 cm の高さで、周壁の内側に沿って、幅 20 ～ 60 cm のテラス状の高床部をもつ、やや特異な形態を示す。遺構の残り具合は良好で、覆土は 60 ～ 80 cm あり、上層、中層、下層の大きく 3 層に分層できる。いずれの層からも比較的多くの土器片が出土している。しかし、そのほとんどが細片で、住居跡の時期を決定するには慎重を帰さなければならないが、古墳時代前期初頭と考えられる。柱穴は八つ見つかったが、屋根を支える主柱は四本の四本柱であったと考えられる。主柱穴の直径は約 30 cm、深さは 20 ～ 30 cm である。炉は住居の中心に作られているが、その構造は複雑である。長軸 1.9m、短軸 1.6m、深さ 7 cm の不整な円形の浅い落ち込みの中のやや北に偏ったところで、



14 第2遺構面主要遺構配置図  
(※網掛け部は94年度以前の調査区)

焼土が長軸 0.6m、短軸 0.5m の楕円形の拡がり、その焼土のすぐ南側に、長軸 1.2m、短軸 0.6m、深さ 0.3m、炭化物を含んだ長楕円形の掘り込みを備える特殊な形態を示す。いっぽう、土器以外の出土遺物は、炉内から鉄片が 40 点以上も出土し、住居床面直上でよく使い込まれた砥石が 2 点見つかった。また、住居床面よりやや浮いた状態であったが、細頸壺の中に砂鉄が約 200g 貯蔵されて見つかったのは特筆すべきことである。古墳時代前期で土器の中に砂鉄が貯蔵されて見つかったのは、千葉県の一本松南遺跡に次いで全国で 2 例目であり、その使用方法について科学分析を含めて、今後詳細な検討を試みたい。以上のように炉の特殊な構造や、一般の住居跡では見られない遺物から、この竪穴住居跡は鍛冶遺構と考えられよう。

#### 竪穴住居跡 SB2003

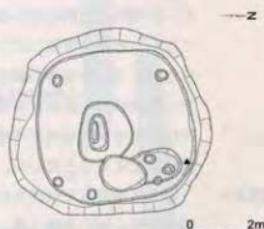
3区で検出された長軸 7m、短軸 6.7m の方形の竪穴住居跡である。遺構の遺存状態は良好で、覆土は 40～60cm あり、上層、下層の 2層に大別できる。柱穴は、全部で六つ見つかったが、主柱穴は四つで四本柱構造と思われる。全ての柱穴の直径、深さは約 30cm である。炉は住居の中心に構築され、大きさは長軸 2.2m、短軸 1.5m の楕円形で、深さは約 30cm を測る。また、たくさんの炭化材が住居の中心に向かって倒れ込んだ状態で見つかり、炉のすぐ南の床面付近が、長軸 2m、短軸 1m の範囲で赤く焼けていたので焼失住居と推測できる。出土土器は、壺、甕、鉢、高杯などの日常雑器がほぼ完全な形で数多く発掘された。これらの遺物から住居跡の時期は、弥生時代後期終末～古墳時代前期初項である。

#### 土器棺墓 SK2007

6区で検出された。土壌の規模は直径 0.8m の円形で、深さは検出面から 0.3m である。土壌の上面は現代の水田により削平されているので、本来の深さは 0.5m～0.6m であったと推測される。土器出土状態の観察から、土

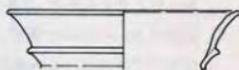
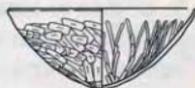
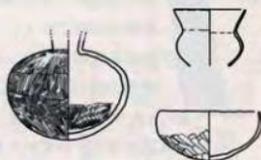


15 SB2001 全景



16 SB2001 平面図

(▲は砂鉄入りの壺出土地点)



0 10cm

17 SB2001 出土土器

を掘削したのち、壺の口縁部三点を土壌底に台座として置き、体部直径45cmのやや大形の壺を横に寝かせた状態で据えた遺構であることがわかった。また、壺の体部には直径3cmの水抜き孔が穿たれていた。壺の中には骨片は入っていなかったが、壺の形態や出土状況から乳幼児を埋葬した土器棺墓と考えられる。時期は弥生時代後期終末である。

#### 第2遺構面B

第2遺構面Bで検出された遺構は、自然流路13条である。

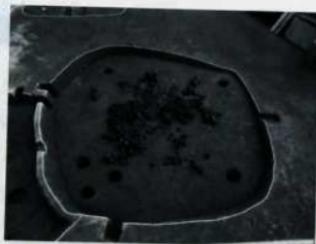
#### 自然流路 SR2002

6区、7区で検出された自然流路である。幅は約50m、深さは1m以上ある。細砂、中砂、粗砂が交互に堆積し、層序は非常に複雑である。流路の主軸は、N74°Wという方向で傾きをもっている。おそらく鮎喰川につながる一支流と考えられる。埋没時期は、弥生時代後期後半前葉である。

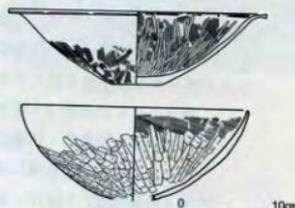
#### まとめ

第1遺構面で、昨年度に引き続き道路状遺構、水田遺構が見つかったことは大きな成果である。道路状遺構、水田遺構の時期は、切り合い関係からすると、水田遺構の方が新しい。道路状遺構は、従来から指摘されている条里の方向にほぼ一致しているが、水田遺構は条里の方向にのらない。このような事実は今後、条里制について考古学の立場から考える良い材料となるであろう。

第2遺構面では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竅穴住居跡が8軒見つかり、うち7軒は、2・3・4区で集中して見つっている。このことは、前年度までの調査結果とよく合致しており、弥生時代後期後半の集落の規模、範囲が限定されることを意味している。また、とくに注目される遺構としては、古墳時代前期初頭の鍛冶遺構が挙げられる。遺構の残りが良かったため、鉄製品が多量に出土したことや、鍛冶炉そのものの構造が把握できたことは、古墳時代の鉄器製作技術の復原に役立つであろう。(近藤玲)



18 SB2003 全景



19 SB2003 出土土器



20 SK2007 土器出土状況



21 SR2002 全景

# と さ どまり おお たに 土佐泊大谷遺跡

所在地 鳴門市土佐泊浦字大谷

調査期間 1995年4月28日～9月30日

担当者 久保脇 下内

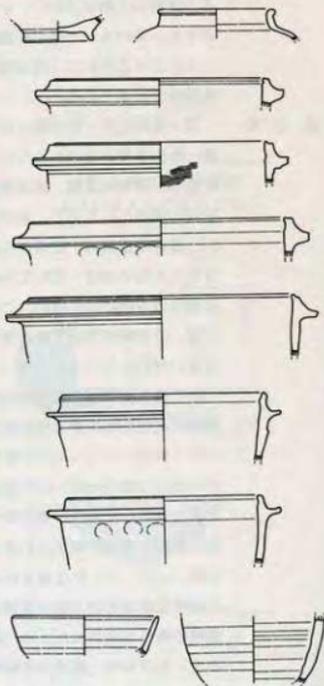
**調査概要** 本遺跡が位置する大毛島は鳴門海峡上に浮かぶ周囲16km余りの小島である。島の中央部には三石山などの急峻な山が連なり、海岸線には周囲に発生する潮流によって浜堤や砂丘が発達し、所によっては後背湿地を形成している。本遺跡はこの山麓部の沖積地上に位置する水田遺構を主体とする遺跡である。

調査された水田面は5枚で、それに伴って畦畔・鋤跡・稲株跡・杭跡などが検出されている。ただ、調査区全域に水田面が広がるのは第3面までで、4面目・5面目は調査区内を蛇行して流れる自然流路内に作られている。出土遺物は小片であるが、土師器の土釜や椀・杯・緑釉陶器皿・須恵器片・瓦器椀・青磁碗など各種の土器類や管状や棒状有孔・有溝土錘が比較的多く出土している。各遺構面の年代は出土遺物から第1遺構面・第2遺構面が室町時代以降の時期に、第3遺構面は10～11世紀の平安時代、第4遺構面は8～10世紀段階と考えられる。また、第5遺構面は今回検出された水田跡の中で最も古いもので、遺物が全く出土していないため正確な時期は不明だが、立地条件を考慮すると、第4遺構面の年代と大きくかけ離れた時期のものではないと思われる。

今回検出された水田面で第4・第5面のように、新たに水田を作る際、自然流路が埋没する過程で生じた窪地などの自然地形をそのまま利用していることは、古代の新田開発の方法を考えるうえで興味深い。(久保脇)



1 調査地点の位置(鳴門海峡)



0 5cm

2 出土遺物

## ウエノ遺跡

所在地 徳島県三好郡池田町ウエノ

調査期間 1995年4月1日～6月30日

担当者 近藤理 横田

**調査概要** 本遺跡は平成6年度に4,000㎡、平成7年度に400㎡、合わせて4,400㎡の発掘調査を実施した。その結果弥生時代終末期の集落跡や、室町時代の櫓列と思われる遺構を検出し、それにとまう遺物も多量に出土している。本遺跡は、池田高校の西に隣接したウエノ台地にあり、大正時代より遺跡の存在が明確であった場所である。

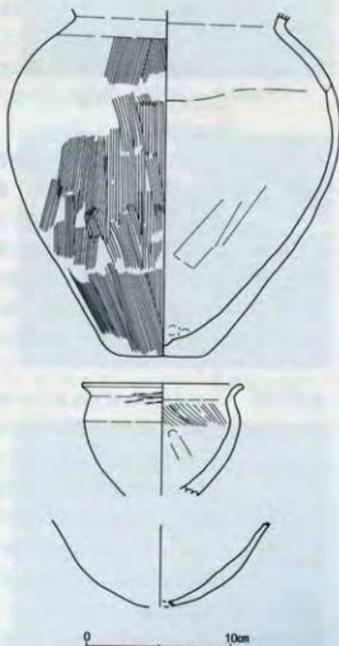


1 調査地点の位置 (池田)

**竪穴住居跡**  
**SB2008**

今回の調査では、弥生時代後期前半から中葉にかけての竪穴住居跡1棟のほか、掘立柱建物跡1棟、土坑18基、溝状遺構2条などが新たに検出された。竪穴住居跡は北端が調査区外へ延びているため全体の規模については不明であるが、ベッド状の高まりを持ち、東西の直径は約6.0mを測る。また平面プランは不整形であり、中央部に炉を伴っている。中央やや東で長軸約1.3mを測る炉跡と、その西側に長軸約0.9mを測る炉跡を検出した。ともに土器片を多量に含むものの、前者は多くの炭化物を含むのに対し、後者はほとんど含まれていなかった。壁際には幅約15cm、深さ約26cmの断面V字形の周溝が確認された。支柱は8本ある。住居跡内からは、壺・甕・高杯・石錐のほか讃岐系の壺形土器片も出土している。

この住居跡は、出土した遺物などから昨年度検出された住居群より若干古く位置づけられ、当地域における弥生時代の集落の成立・変遷を考える上で貴重な資料といえる。なお、ウエノ遺跡は大正時代より縄文遺跡としても知られていたが、今回の調査ではそれらの遺構・遺物は確認されなかった。(近藤理)



2 SB2008 出土遺物実測図

# さだ みつ まえ だ 貞 光 前 田 遺 跡

所在地 徳島県美馬郡貞光町字前田他

調査期間 1995年4月1日～1996年1月31日

担当者 泊 石田

**調査概要** 本遺跡は、県立職業訓練校西部校建設に伴い、平成6年度(第1次調査)に1,200㎡、平成7年度(第2次調査)に3,800㎡の合わせて5,000㎡の発掘調査を実施した。調査の都合上調査地をA～Lの14の調査区に別けて調査を行った。その結果、縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世に至る遺構と遺物を検出した。

遺跡は、吉野川中流域南岸の剣山系から流れる貞光川下流域西岸の河岸段丘と西の山から押し出された扇状地先端部緩斜面上に位置する。中世の主な遺構としては、掘立柱建物跡とそれに関わる溝を、縄文時代・弥生時代・古墳時代の主な遺構としては、竪穴住居跡を多数検出した。

**第1遺構面** 調査区全面で、掘立柱建物跡6棟、溝7条土坑25基、集石遺構1基、柵列1列、暗渠2条、不明遺構12基を検出した。

**Ⅱ A 区 掘立柱建物跡 SA1001** 桁行4間、梁行2間の掘立柱建物跡で、棟方向は東西と思われる。北側が一部調査区外に存在する。柱穴からは、地鎮のための12～13世紀の土師質土器の小皿・杯・碗が出土した。

**溝 SD1001** 調査区の西側に南北に走る幅約2.5m深さ約0.5mの溝跡を検出した。溝の底からSA1001の柱穴から出土した土器と同じ時期の杯・羽釜が出土した。Ⅱ B 区(南側の調査区)のSD1002の底から出土した土師質土器の杯が、それと同じ時期の物で、流れていた方向や位置、規模等から考えて、2つの溝は繋がるとと思われる。

**第2遺構面** 第2遺構面は、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺構で、竪穴住居跡11軒、掘立柱



1 調査地点の位置(脇町)



2 Ⅱ A 区 SD1002 土器出土状況



3 Ⅱ A 区 SB2001 平面図及び断面図

建物跡1棟、ピット602基、土坑14基、不明遺構14基を検出した。

**II B 区 竪穴住居跡 SB2003 SB2005**  
 直径約10.5mのほぼ円形のSB2003の中に、一辺が約6mの方形のSB2005が切り合って構築されていた。堆積していた土層から考えて、SB2005のほうが新しい。どちらの遺構もまとまった資料が出土し古墳時代前期初頭の時期が与えられる。今後の整理業務で2つの遺構の時期差が確認できると考えている。遺跡の特徴として、住居跡に多数の遺物が廃棄されており、住居として活用しなくなった跡を廃棄土坑として使用したことがうかがえる。SB2004とSB2006についても同じような状況で検出された。

**II A 区 竪穴住居跡 SB2001**  
 最大径約9mの隅丸長方形の住居跡であるSB2001が、土の堆積状況から、一辺が約7mの隅丸方形の住居を西側に約2m拡張したために隅丸長方形になったと考える。この遺構からも多数の遺物が出土したが他の住居跡とは多少異なる。廃棄された土器は完形品が多く300点近くになる。大型の甕に小型の甕や鉢を入れた状態で出土しているものやミニチュア土器等が出土し、祭祀に関わる遺構か、集落が廃絶される時に、いっきに多量の土器を廃棄された土坑等が考えられる。

**II Le 区**  
 遺構の西側を調査区外に、東側は、町道でSB2001削平を受けていた。全体の形状がはっきりしないが、最大径約8mを計る。中央部に炉を1基とその周辺に3基構築しており中央部の炉は周溝と繋がっていた。床面に20cm大の石とサヌカイトチップや石鏝・石鏝・石錘等がちらばり、製作工房跡の可能性もある。

### 第3遺構面

調査区によって多少の違いが見られるが、縄文時代後期～弥生時代中期頃の遺構が確認された。調査地の北東部の隅に近い調査区ほど古い遺構が多く存在する。包含層から縄文時代中期の船元式・里木式の土器片も数点出土した。徳島県としては3例目となる縄文時



4 II B 区 SB2003～6 完掘状況



5 II A 区 SB2001 土器出土状況



6 II C 区 SB3001 土器出土状況



7 II C 区 SB3001 完掘状況

代後期の竪穴住居跡が1軒検出された。それ以外に掘立柱建物跡1棟、集石遺構3基、ピット360基、土坑24基、不明遺構36基を検出した。

## II C 区 SB3001

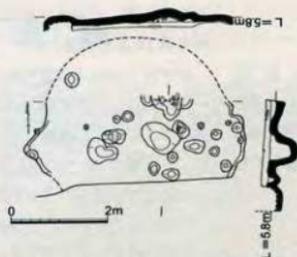
遺構の南側が調査区外に存在し、北側の一部も第2遺構面の溝跡に切られている。残っている遺構から推定して、最大径約4.5mを計る円形の竪穴住居跡で、覆土や床面から多量の遺物が出土した。多くは縄文時代後期の土器片で、それ以外にも石鏝や石錘が数点出土した。炉は北部寄りに、第2遺構面の溝に半分切られるようにして検出され、東西約60cm、南北不明、最深部約15cmを計る。壁に焼土が拡がり、埋土から石鏝と縄文時代後期の土器片が出土した。

## まとめ

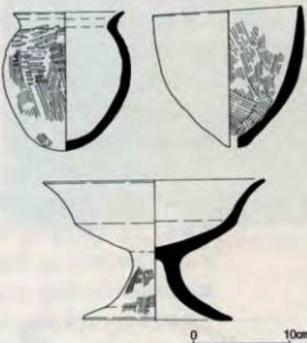
徳島県では、過去に吉野川中流域南岸での発掘調査はあまり行われていなかった。遺跡の東の山腹には江の脇古墳、西の山腹には西山古墳の存在は知られていたが、今回、この地域で縄文時代から室町時代にいたる数多くの遺物や遺構が確認できた意義は大きい。

遺跡は西の山から緩やかに真光川に向かって傾斜しているところに位置し、山側に近くて比高差が高い所に、比較的新しい時代の遺構が多く、川に近づくほど、古い時代の遺構が多いようである。今回の調査では、集落を囲った環濠や土壇墓が検出されておらず、遺跡はもっと広範囲に拡がるものと思われる。

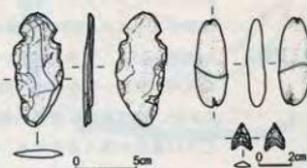
遺跡は、剣山系から北流し吉野川に合流する真光川下流域西岸に位置することから、漁猟を中心とした生活を送る絶好の立地条件を備えている。そのことは、各遺構面から土鏝・石鏝が、多数出土していることで裏付けられる。また、吉野川を利用する交通の拠点としての存在価値も考えられる。そのことについては、今後の研究課題としたい。(泊)



8 II C 区 SB3001 平面図及び断面図



9 II B 区 SB2001、SB2003 出土遺物



10 第3遺構面 出土遺物

# いし い じょう の うち 石 井 城 ノ 内 遺 跡 (石井・神山線地区)

所在地 名西郡石井町石井字城ノ内

調査期間 1995年4月1日～7月31日

1995年11月1日～12月13日

担当者 荒瀬 宮本

**調査概要** 本遺跡は、県道石井・神山線道路改築に伴う第4次調査で、今年度の4月～6月の発掘で山裾部分1,200㎡を、8月～12月の発掘で平地部分100㎡の調査を実施した。

山裾部分では、近世に上部が擾乱を受けており、遺構の底の部分をかろうじて確認できたものが多い。西側の高台とその東側の湿地に潜り込む斜面、そして北側の斜面ではそれぞれ遺構の残存状況が異なっている。

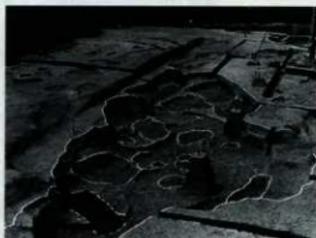
西側の高台は近世の遺構であり、土坑8基、溝1条を検出した。東側の斜面には溜池と思われる遺構があり、その底部から土坑を7基検出した。したがって、当初の土坑群を後世その隔壁を除去し溜池として利用した可能性が強い。その東側にあたる傾斜地の末端部で2条の溝を検出したが、その内部から中世末期の羽釜と焙烙が出土している。北の斜面からは16基の土坑を検出し、そのうち14基は袋状の形態をしている。

平地部分は100㎡あまりの調査地ではあったが、古墳時代前期初頃の大形土坑を4基検出した。内部からは、二重口緑壺、甕、鉢、有孔鉢、高坏が出土した。土坑は立ち上がり垂直で、土層の堆積状況から短期間の内に意図的に埋められた祭祀土坑である可能性が大きい。

第3次調査で道を隔てた東側から検出された溝が、レベル的にみて、この大きな土坑を切った溝である可能性がある。今回検出された土坑が第3次調査区まで延長可能かどうか、今後の課題である。(荒瀬)



1 調査地点の位置 (川島)



2 山裾部完掘状況



3 平野部土器出土状況

# いし い じょう の うち 石 井 城 ノ 内 遺 跡 (石井曾我団地地区)

所在地 名西郡石井町石井字城内

調査期間 1995年8月1日～1996年3月28日

担当者 宮本 湯浅文

**調査概要** 本遺跡は、県営石井曾我団地立て替え工事に伴い、今年度の8月から3月にかけて発掘した遺跡で、今回はその第4次調査にあたる。調査面積1,600㎡、南を前山古墳のある山裾に接し、北東方向に清成遺跡、西に石井城内遺跡石井神山線地区がある。

第1遺構面は近世後半から近代にかけての遺構で、田の底に細長い溝を堀り、その内部に柴を入れ排水に用いたものである。第2遺構面は古墳初頭、第3遺構面は弥生前期で、長径6mを測る住居跡を1棟検出した。内部からは阿方式土器、石鏃をはじめ炭化物が多く出土しており、同遺構面上から石鏃も出土している。

海拔6.6m付近には鉄分を多量に含む灰色シルト層がある。これは調査地において縄文と弥生を分ける層であり、遺物を全く含有しない。この下層に第4遺構面があり、幅20mを測る流路と幅25m以上を測る流路を2条検出した。流路内部は灰色粘土層と腐植土層が交互に堆積しており、腐植土層内部からは太さ20cm程の流木が折り重なって出土した。

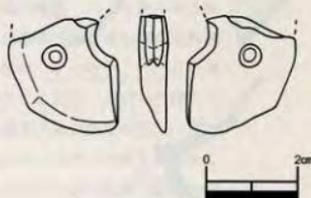
遺物は灰色粘土層から出土する。その中には缺状耳飾もあり、同層からは片刃の石匙と条痕調整された土器が出土している。

第4遺構面では硬質の緑灰色粘性砂質土層上面でヘラ描された土器が出土しているが、ヘラ描で区画された内部には縄文が見られない。

石井町において、縄文時代の遺構が確認されたのは初めてのことである。(宮本)



1 調査地点の位置 (川島)



2 缺状耳飾



3 弥生前期住居跡

## 石井遺跡(石井団地地区)

所在地 名西郡石井町石井字石井65-1

調査期間 1995年5月16日～8月31日

担当者 森本 荒瀬

### 調査概要

教職員住宅石井団地改築に伴い、本年度の調査は、昨年度調査した地点の南東部にあたり、第2次調査となる。

本調査地は、西側を流れる飯尾川、そして南側と東側を流れる渡内川によって形成された沖積地の微高地に位置している。特に飯尾川は、調査地の西側を接するように流れているため、常に水害の危険性にさらされる地域であったように思われる。なお、調査地は30年ほど前から宅地化されていたが、それ以前は水田地帯であった。



1 調査地点の位置(川島)

### 第1遺構面

第1遺構面では、溝3条、水田畦畔3条を検出した。遺構に伴う遺物は、SD1003からのみ検出されたが、点数が5点と少なく、しかも土師質土器の細片であるため、それらにより遺構の時代を断定するのは困難である。しかし、ベースの土から検出された遺物を見る限り、近世以降のものと思われる。また、全ての遺構が東に約10度傾き平行に並んでいる。このことから、溝と畦畔は多少の時代差があるものの、近世に計画的な地割りが行われたことが窺われる。



2 水田畦畔 地境を示す石出土状況

### 第2遺構面 土 墳 墓 ST2001

第2遺構面では、西調査区の南壁に接する地点から、埋葬施設と思われる遺構が検出された。このST2001は、調査区外となる南側を除くと楕円形状で、埋土中から腐敗が激しいため断定は困難であるが、大腿部か上胸部と思われる骨が検出された。さらに骨の約20cm上から中世の土師質土器の杯が、完形でしかも意図的に置かれたような状態で検出された。これらの点から、人間を埋葬した遺構と考えられる。(森本)



3 ST2001 骨出土状況

あ　　　　く　　い  
鮎　　喰　　遺　　跡

所在地 徳島市庄町2丁目41番地

調査期間 1995年5月1日～1996年1月31日

担当者 逢坂 石本

**調査概要** 今回の調査は、看護学院新築に伴う発掘調査で、調査面積は約1,800㎡である。

鮎喰川は剣山系、雲早山に源を発し、広大な沖積地を形成しながら吉野川に注ぐ。鮎喰川が作る微高地に本遺跡は立地している。

今回の調査地点の約20m東で、国道拡幅に伴い実施された1985年度の発掘調査では、弥生時代の遺構・遺物、奈良時代の遺構、遺物が大量に出土している。

また、南へ約1kmのところにある名東遺跡では弥生時代中期～後期および中世の集落跡が確認されている。

このように鮎喰川流域には、阿波国分寺跡、国分尼寺跡、国府跡など重要な遺跡が点在することから、奈良時代以降阿波国の中心であったと思われる。調査地点付近の堆積は鮎喰川よりほど厚く、東に向かって薄くなることが過去の発掘調査で確認されている。

本発掘に先立ち実施された試掘調査で、調査区北東隅トレンチで高杯の杯部が出土したため、国道拡幅時に検出された水路の延長部分の把握や、遺跡と鮎喰川との関係が一層明確になるものと期待された。

しかしながら遺構は全く検出できず、他所からの流れ込みと思われる遺物が数点出土するにとどまった。

この結果、鮎喰遺跡が立地する微高地は、調査区東側の徳島市道を境に急激に落ち込み、今回の調査地点は川岸もしくは水没地といったような低湿な場所で、集落の立地には不適當な場所であったと推測できる。(石本)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 調査区基本土層



3 出土遺物実測図

## しょう 庄 遺 跡 (大蔵省蔵本住宅宿舎地点)

所在地 徳島市庄町1丁目77

調査期間 1995年9月1日～11月31日

担当者 森本 荒瀬

**調査概要** 大蔵省蔵本住宅改築に伴い、約600㎡の調査区を設定した。この調査地点は、県内最大級の弥生時代の遺跡である庄遺跡の南西部にあたり、調査区の東側を流れる鮎喰川の堆積作用によって形成された標高約4.5mの微高地上に位置する。

**第1遺構面** 第1遺構面から、土坑19基、ピット4基、溝2条、井戸1基、自然流路1条を検出した。しかし、近世以降の擾乱を強く受けていたため、遺構の大半が近世以降のものであり、それらを除くと、古代の自然流路が1条、弥生時代前期の土坑2基、同時代の井戸1基を検出するにとどまった。遺物は弥生時代および古代の土器や石器が多数出土した。

また、今回の調査では、庄遺跡からあまり確認されてこなかった縄文時代晩期の自然流路が1条検出された。このSR2001は調査区の南東部をかすめるように検出され、幅が3.3m～3.5m、深さが0.5m～0.8mでU字形を呈している。そして、その堆積土中から浅鉢など土器類のほか、石鍬、スクレイパーなどの石器も多数出土した。

**まとめ** 今回の調査によって、以下のような興味深い事実が明らかになった。第1点は、弥生時代の井戸と縄文時代の自然流路が平面的に一致している点から、弥生時代に縄文時代晩期の自然流路を何らかの方法によって知り得たことが窺える点である。第2点は、古代の自然流路の流れる方向がいずれも東から西で一致している点から、縄文時代晩期から平安時代にかけて本調査地は周辺地より相対的に低い、集落の周辺地であったことが窺える点である。(森本)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 SK1001 遺物出土状況



3 SR2001 完掘状況

## しょう 庄 遺 跡 (県単公園事業関連)

所在地 徳島市庄町1丁目76-2

調査期間 1995年10月1日～11月30日

担当者 逢坂 石本

**調査概要** 本遺跡は徳島市庄町を中心に展開する。眉山の北に位置する鮎喰川が形成した沖積地であり、その前面には徳島平野が開けている。

今回の発掘場所はその鮎喰川流域にあり、本県でも有数の遺跡密度の高い地域である。

発掘調査は、徳島県蔵本運動公園内の相撲場（以下「相撲場区」とする）と運動公園西側の駐車場（同「貯水槽区」）の2ヶ所で発掘調査を実施したが、相撲場区では住居跡の発見にはいたらなかったものの、近辺の集落に関連すると見られる溝状遺構を合計6条検出した。

一方、貯水槽区は低湿地にあたる場所と見られ、自然流路を1条検出するにとどまった。

古代の河川は蛇行や氾濫をくり返し、生活に適した微高地と低湿地を複雑に形成していたことを物語っている。

相撲場区は運動公園造営、相撲場建設に伴い、幾度となく掘削、盛り土がなされているが、現地表面から1mあまり下に厚さ40cmほどの弥生時代から古代の包含層がある。

第2遺構面で幅約2m、最深部では約80cmを測るU字形の溝を検出した。

遺物は弥生土器、土師器を2011点出土しているが、約60%は土師器である。

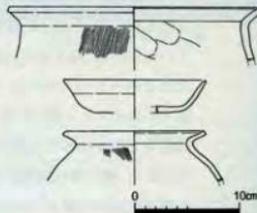
埋土は3層からなるが、どの層にも弥生土器、土師器が含まれていることから、この溝は何回となく掘削がなされ利用されたと考えられる。後方に山地、前方に広大な吉野川平野を有し、鮎喰川、吉野川の水運に恵まれ連続と人々の生活が続いてきたことを裏付けるような遺構である。（石本）



1 調査地点の位置 (徳島)



2 相撲場区 SD 発掘状況



3 出土土器実測図

# 新 蔵 町 3 丁 目 遺 跡

所在地 徳島市新蔵町3丁目80

調査期間 1995年7月1日～12月28日

担当者 近藤理 横田 湯浅文

**調査概要** 本調査は、徳島保健所等改築事業関連埋蔵文化財発掘調査である。遺跡は、新町川と福島川によって形成された三角州上に立地している。現地標高は、1.3mを測る。この遺跡周辺は、蜂須賀入国後の天正十三年藩士の侍屋敷が存在した区域である。平成5年度に行った1次調査では、建物の基礎・土坑・溝等を検出した。また、京焼の乾山、注連縄文碗と共に、家紋入軒丸瓦も出土しており、当時の侍屋敷の様子を探ることができる。

今年度は、2次調査として前回調査地の北側に隣接する1,210㎡の発掘調査を行った。

「御山下絵図」「徳島城下絵図」等によると調査地は、元禄期には瀧川・中山、享保期には池田、安政期には岩田・西尾の屋敷が存在した場所である。今回の調査でもそれらに関連が深いと考えられる遺構を検出し、遺物も多量に出土した。しかし、攪乱部分が多く、遺構は調査地の一部しか確認できなかった。

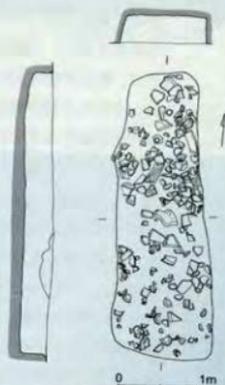
**第1遺構面** 第1遺構面は、調査地北側の一部にしか遺存していない。溝4条、土坑15基、ピット10基、不明遺構1基が検出されている。主な遺構は、石を敷き詰めた建物の基礎と思われる溝(SD1002)、多くの遺物が出土している用途不明な遺構(SX1001)、瓦だまりなどである。出土した播鉢、陶磁器、碗、銅銭(寛永通宝)などから、第1遺構面は幕末～明治のものと考えられる。第2遺構面第2遺構面は、調査地の北側と西側のみに遺存している。検出された遺構は、溝9条、土坑50基、ピット79基である。多くの土坑を検出しているが、なかでも調査地西側の土坑



1 調査地点の位置(徳島)



2 古伊万里・木製品出土状況



3 SK2009 遺物出土状況図

(SK2009) は、長軸約3.6 m、短軸約1.2 m、深さ30cmを測る隅丸方形形状の遺構である。遺構内からは、多量の廃棄木材と共に、炭化物に混って京焼風陶器の碗、素焼きの焙烙、まるす、灯明皿など多量の生活用品が出土したことから、ゴミ捨て場の用途に利用されていたと思われる。出土遺物から江戸時代中期～幕末にかけての遺構と考えられる。

### 第3遺構面

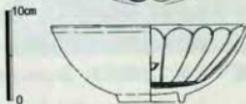
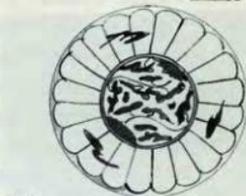
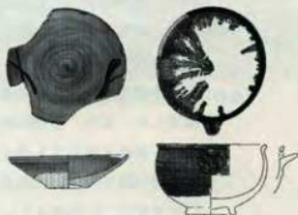
第3遺構面は、調査地南側中央部を除くほぼ全域に遺存している。検出した遺構は、溝3条、池状遺構1基、土坑10基、ピット24基である。大溝(SD3004)は、調査地東端を南北に延びる溝で、幅約3 m、深さ約1 m、検出部分の長さ9.8 mを測る。屋敷境を区画する溝と考えられる。底部分からは、初期伊万里・古伊万里の皿や鉢が多量に出土し、これらと共伴して古唐津の片口碗、古九谷の大皿、漆器やキセル、装飾に用いられたと思われる金箔なども出土している。出土遺物等からこの溝は、江戸時代前期に掘削されたものと考えられる。当時の徳島藩侍屋敷の区画を考える上で重要な遺構である。出土遺物から第3遺構面を江戸時代初期～中期であると考えている。

### まとめ

今回の調査では、井戸が7基検出された。この中の1基は、石組と木組を併用した円形井戸で、堀方は径約2.5 m、深さ約2.7 mを測る。いずれも上層が攪乱しているため、正確な年代を把握することが出来ないが、今後その形態から年代を考えてみたい。また、初期伊万里・古唐津・古九谷などが出土したことから、藩政初期の侍の生活の一端を探ることができると共に、近世の物の流通を見ることができる。検出した屋敷を区画する溝は、徳島藩の城下町の成立と展開を考える上で重要な手がかりである。(近藤理)



4 古唐津出土状況



5 出土遺物

ついで  
樋口遺跡

所在地 徳島市上八万町樋口12-1他

調査期間 1995年4月4日～6月1日

担当者 石尾 福良

**調査概要** 本遺跡は、一般国道438号線改築工事（上八万バイパス）に伴うもので、園瀬川を北にのぞむ標高30～35m前後の尾根の北斜面に位置する。調査区北側裾野の平野部では弥生時代から近世にかけての複合遺跡が確認されており、特に内面に朱の付着した土器片なども出土している。また、南斜面裾野でも6世紀頃に比定される横六式石室を持つ樋口古墳群（1号墳は両袖式、2号墳は片袖式）が調査されており、集落と墓城の関わりを考える上でも注目される場所である。さらに樋口古墳群の南の山間からは星河内美田銅鐸が出土している。今回の調査区でも、墳丘等は見られないものの調査区添いに石積があり、古墳または中世墳墓の存在が試掘段階で想定されていた。

地形測量の後、表土掘削に取り掛かったが表土を除去した段階で、緩傾斜から急傾斜に移行する部分で東西に長くのびる石列が検出できたが、これは人工的なものではなく、地元の「生え岩」と呼称されている自然の岩盤の並びであることが確かめられた。

また、周溝なども検出されず、調査区添いの石積も「山の神さん」と地元で呼ばれている比較的新しい石であり、調査区の乗る尾根には多数存在していることも確かめられた。

**まとめ** 以上のように、調査の結果本調査地点は当初想定されていた古墳や中世墳墓でないことが明らかとなった。（石尾）



1 調査地点の位置（徳島）



2 調査区遠景（北より）



3 積石の状況

# ひろた 遺 跡

所在地 徳島市上八万町広田380

調査期間 1995年6月5日～7月12日

担当者 石尾 福良

**調査概要** 本遺跡は、おおぎ学園社会参加交流センター建設に伴って調査されたもので、湧水の豊かな谷の最奥部に位置する。このような条件を利用して、調査区の位置するこの谷間一帯では、現在概ね水田が営まれている。

このような場所では、平安時代後期から鎌倉時代にかけて迫田・谷戸田が形成されはじめ、それに加えて在地領主層の館も営まれる場所にあたる。条里地割内の耕地が不安定な状況下で律令制が弛緩してくると、このような谷地形の部分に開発の手が延びたものと考えられ、鎌倉中期以降沖積低地の開発が安定化していく前段階の開発の一端を示している。

したがって、今回の調査でも在地領主層の館跡、または人工的な堀などが検出されるものと期待されたが、自然流路を検出するのみに終わった。しかし、その流路内より多量の土師質土器をはじめ、瓦器椀・瓦質土器・国内産陶器・青磁片・漆器椀・北宋銭（「聖宋元宝」＝初鑄年1101年）などが出土した。なお、桃核も多量に出土したが、桃には邪気を払う力があると考えられており、呪術的な意味あいも想定される。これらの出土遺物より考えて、今回の調査区の近傍には領主館が存在していたものと考えられる。

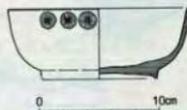
**まとめ** 今回の調査区からは明確な遺構が検出できなかったが、自然流路内より出土した遺物より、この谷間にも中世初期に開発の手がのびていたものと判断できる。(石尾)



1 調査地点の位置（徳島）



2 調査地遠景



3 漆椀実測図

# 立善寺跡 遺跡

所在地 阿南市宝田町今市中新開 39-1

調査期間 1995年8月16日～10月13日

担当者 石尾 福良

**調査概要** 本遺跡は、阿南工業高校電子機械課第2棟新築工事に伴って調査されたもので、那賀川や岡川・桑野川が形成する標高4m台の沖積平野上に位置する。この付近は旧来より古瓦が出土・採集できるところで、白鳳期の寺院跡の所在が推定されてきた。

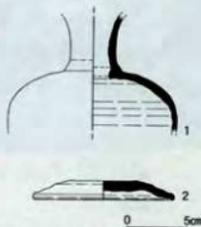
今回の調査でも白鳳期から奈良時代にかけての軒丸瓦・軒平瓦・平瓦等が出土し、寺院跡の存在を想定させるものであったが、遺構に関しては溝・ピットなどが検出されたものの、寺院跡をうかがわせるものは検出されなかった。

**出土遺物** 凸面格子目叩きの平瓦片・縄目叩きの平瓦片の出土がもっとも多く、白鳳期から奈良時代頃の寺院跡を示す出土状況である。他に須恵質の長頸壺や杯蓋、さらに包含層から「永楽通宝」など室町期の遺物も出土した。しかし、平安・鎌倉期頃の遺物がなく、遺跡としての継続性は認められない。

**まとめ** 今回の調査区近傍は、那賀川の氾濫源に位置し、これまでに幾度となく洪水の被害を被ってきた場所であるため、礫層の堆積が顕著であり、現在のところ、今回の調査を含めて近傍で寺院跡の遺構は確認されていない。しかし、古瓦等の出土量は多く、こうした状況は江戸時代からも見られたようで、阿波藩の国学者野口年長の『阿波の落礎』にも「那賀郡立善寺村に掘出すもの石のごとくかたしといへり（中略）里人に問へば近きころは甚まれにして得がたしとぞ」と記されており、江戸時代半ばまでにも相当採集・出土していたものと考えられる。（石尾）



1 調査地点の位置（富岡）



2 出土須恵器実測図



3 出土軒丸瓦

## 圃場整備事業関連等発掘調査・試掘調査・分布調査

所在地 分布調査一覧表参照

調査期間 1995年4月1日～1996年3月31日

担当者 逢坂 福良 近藤理 湯浅文 石本  
森本 荒瀬 泊 石田 九十九 武市

**阿南道路** 本調査は、阿南市内の交通渋滞緩和のため建設が予定されている国道55号バイパスの路線内において、遺跡の所在を確認するために実施したものである。調査面積は、阿南市西路見町から才見町、見能林町、津ノ峰町を経て、橘町に至る道路予定地の範囲やその周辺、約1,200,000㎡であった。

王子山古墳の周辺では、須恵器を中心とした古代の遺物が採集され、当時の遺跡の存在が予想される。また牛屋崎、見能林町の林崎周辺は微高地となっており、多量の遺物が採集されたことから、集落跡の存在が推定される。さらに、津ノ峰町では遺物採集量は少なかったが、東部には国高山古墳をはじめとする内原古墳群や白鳳期立善寺の瓦を焼いた窯跡が存在しており、考古学的に重要な地域である。

**上板町 高志地区** 本調査は県営圃場整備事業に伴う精密分布調査である。調査地は、宮川内谷川と吉野川に挟まれた高志地区の1,400,000㎡である。この地域は両河川によって形成された低湿地であり、かつては吉野川の旧河道が調査地中央を通り、洪水の氾濫に再々悩まされてきた地域でもある。採取された遺物は、大半が江戸末期から明治以降にかけての陶器・磁器の小破片や磨滅した土師器片、瓦等であり、近世以前の遺跡が存在する可能性を見出すことはできなかったが、当該地に条里が存在するという可能性は町史でも指摘されており、今後の発掘調査によせる期待は極めて大きいと思われる。

**四国横断道** 板野町から鳴門市間約16kmについて遺跡



1 調査地点の位置 (阿波富岡) 阿南道路



2 調査地点の位置 (川島) 上板圃場

の精密分布調査を実施した結果、採集遺物等から遺跡の所在が推定される箇所と、地形的条件から確認調査が必要であると考えられる範囲を認めることができた。四国横断自動車道の予定路線は、阿讃山脈の南側山麓を横断するかたちで計画されており、この地帯は大正年間から多くの古墳時代関連の遺跡が知られている。しかも、その多数が南麓に沿って、東西に分布していることから、以前より新たな遺跡の存在が予想されているところである。

今回の踏査では、周知の遺跡の周辺で、古墳の可能性が考えられる数カ所のマウンド状地形や尾根頂上付近において、長辺約1.2m大の平面形砂岩2枚が1/3ほど重なった状態で露出している様子を確認している。

また、各時代にわたり幅広く遺物が採集されたが、富ノ谷川による扇状地形を呈している地区においては、中世から古墳時代にかけての土師器・須恵器・陶器・瓦質土器等の採集遺物が見られた。板東谷川等の庄園状地や低位段丘が形成されている地形状況下では、弥生土器・土師器・須恵器が採集され、弥生、古墳、古代の遺跡が展開されると推察される。

以上のことから道路建設工事を着工する事前には、遺跡の保護・内容等を明確にするために、確認調査および発掘調査が必要であると思われる。(石田)



3 鳴門市大麻町姫田所在の横穴式石室



4 表採遺物



5 横断分布調査対象地

# おおよし 大吉遺跡

所在地 小松島市立江町大吉

調査期間 1995年12月1日～1996年1月31日

担当者 荒瀬

**調査概要** 本遺跡は、県営圃場整備事業（立江・柳刈工区）に伴って調査されたもので、次年度以降に継続する事業の第1次調査である。

本調査地点は現在の立江集落の西側、柳刈の集落を谷奥にひかえたところに位置し、水田が広がる低平な地形が展開している。調査地のある谷間の北辺には立江川が流れるが、河口の赤石地区の方が標高が高く、流れの乏しい河川である。旧来の入り江が狭まっていく中で現在の流路に固まっていったものと思われる。

本地点は地形的に現況でも排水の困難な湧水地帯であるが、中世段階には、近傍に「立江荘」や「柳刈荘」などの荘園村落が形成されていたことが文献史料より知り得る。

しかし、10ヵ所のトレンチ掘り下げによる調査からは、本地点がかつての海であったことを確認し得るにとどまった。

いずれのトレンチも耕作土・床土直下から滲水性の砂層が続き、遺構を認めることはできなかった。

次年度以降には、調査対象地がさらに西に延び、石清水八幡宮領柳刈荘の荘域に近付いていくため、今後中世の遺構・遺物の検出が見られるものと考えられる。なお、調査地近傍には「湊」「かんどり免」「藤ヶ崎」などという海に関係する地名が多く残るが、このこともかつて海であったことを示していると考えられる。（荒瀬）



1 調査地点の位置（阿波富岡）



2 調査地遠景



3 トレンチ掘り下げ状況

# の え たか そね 野 江 高 園 遺 跡

所在地 海部郡海部町野江字東河原他  
調査期間 1995年10月16日～12月15日  
担当者 石尾 福良

**調査概要** 本遺跡は、海部地区県営園場整備事業に伴うもので、本年度が3年計画の最終年度にあたる。調査地は、海部川と母川が形成する標高7m台の沖積平野に位置する。調査区も出水に際してその都度流路を変えたといわれる海部川の氾濫原にあたり、「野江字東河原」という字名を持つ場所である。

掘り下げた各トレンチとも安定した土層は確認できず、散見された出土遺物も遺構に伴うものではなく、流れ込みによるものと考えられる。遺物は、中世末期の青磁片、近世初頭の高唐津などが見られた。

**まとめ** 高園という地名の「そね」は元来「塙」という字があてられており、「石根の略、石まじりの瘦地」(広辞苑)という意味を表している。また、野江という地名も川入江の多い野原という地形から付いたとも言われている。事実かつては田舟による農作業がこの近傍では行われていたとのことであるし、海部川が増水した時には各々の田から湧水があったとも伝えられている。また、正保3(1646)年の「阿波淡路両国絵図」(国立史料館蔵)を見ても、海部川河口は現在の状況とは異なっており、決して安定したものではなかったものと考えられる。

しかし、海部川河口の稍は、15世紀の『兵庫北関入船納帳』にもあるように材木の積み出し港であったし、河口左岸の大里では埋納された大量の渡来銭が出土しており、海上交易が活発な地域であった。(石尾)



1 調査地点の位置 (甲浦)



2 調査前風景



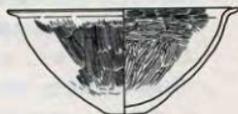
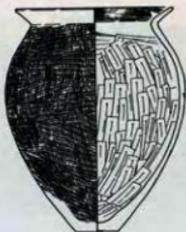
3 トレンチ土層断面

# 矢野遺跡

所在地 徳島市国府町矢野字法師ヶ久保309他  
 調査期間 1995年4月1日～1996年3月31日  
 担当者 湯浅・小林・氏家

**整理概要** 本遺跡は平成4年度より調査が継続中であり、整理の対象となったのは平成5年度に調査が行われた12,804㎡内より出土した遺物である。矢野遺跡は銅鐸埋納坑が集落のほぼ中心部に存在する弥生時代後期の集落跡で、調査成果から自然流路により区画された竪穴住居跡群のまとまりを第Ⅱ群集落と呼称している。集落内からは蛇紋岩製勾玉の工房跡や水銀朱精製関連遺物も検出されている。整理作業にあたっては、遺構の統一番号への付け替えが行われ、その後遺物の洗浄・注記、接合・復元、遺物の分類等の基礎整理及び遺物の実測、仮レイアウトが行われた。

竪穴住居跡は昨年度整理分を合わせると39軒が存在しており、それらは自然堤防上の微高地に沿った形で大きく4つの群に別れて存在している。出土遺物は甕形土器、鉢形土器が中心であり、特に鉢形土器は床面直上付近からの完形での出土例が目立っている。また竪穴住居跡群の周辺部に存在する浅い窪地や自然流路内には、主に廃棄により形成されたとみられる土器溜まりが点在している。ここでは甕形土器の完形例や比較的大型の壺形土器の存在が特徴的であり、竪穴住居跡内の出土遺物とはやや違った傾向をみせる。第Ⅱ群集落は出土した土器の年代からみて、後期の全般にわたって存続していると考えられるが、その盛行期は中葉～後葉にかけてである。集落規模の拡大に伴い、鮎喰川流域の拠点集落として青銅器祭祀をはじめ、勾玉や朱などの特定生産物の生産・流通に深く関わっていたものと推定される。(氏家)



0 10cm

SB2023 出土土器

## ウエノ遺跡

所在地 徳島県三好郡池田町ウエノ  
 調査期間 1995年4月1日～9月30日  
 担当者 相原 石尾

## 整理概要

本遺跡は、池田警察署新築工事に伴って、平成6年度に4,000㎡が、また平成7年度に400㎡が発掘調査されたもので、池田町ウエノの台地上に所在する弥生時代と室町時代を主体的な時期とする複合遺跡である。

2次にわたる調査によって、弥生時代の竪穴住居8棟をはじめとして、掘立柱建物跡や溝状遺構・柱穴、また室町期の柵列などが検出されている。特に平成6年度の調査成果のなかで注目されるのは、ほぼ50cm間隔で見つかった13基のピットからなる室町期の柵列で、この台地上に所在したと伝えられる大西城との関わりが窺われる。また、そのピット群の1つからは17枚の宋銭が重なって出土していることも注目される。

一方、弥生時代の遺構として注目される点に、直径10mを越える大型の竪穴住居跡が4軒検出されたことがあげられる。

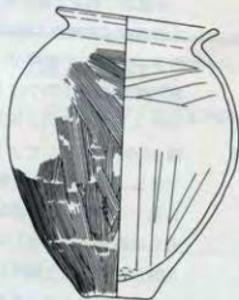
なお、平成7年度の調査概要については本年報のなかで報告されているので参照願いたい。

本年度の整理作業は、平成6年度発掘調査分を対象とし、遺物の洗浄・注記・復元・実測・トレースを行い、さらに遺構実測図のトレースも行って、報告書作成にむけてのレイアウト作業もあわせて実施した。

なお、平成7年度発掘調査分については、来年度に整理作業を行う予定である。これについては、2次にわたる調査分の遺物の写真撮影、遺物観察表の作成も含めて作業を行い、本文執筆も進めて報告書の刊行につなげる予定である。(石尾)



1 SB2001 発掘状況



0 10cm

2 出土遺物実測図

いし い じょう の うち  
石 井 城 ノ 内 遺 跡 (石井・神山線地区)

所在地 名西部石井町石井字城ノ内

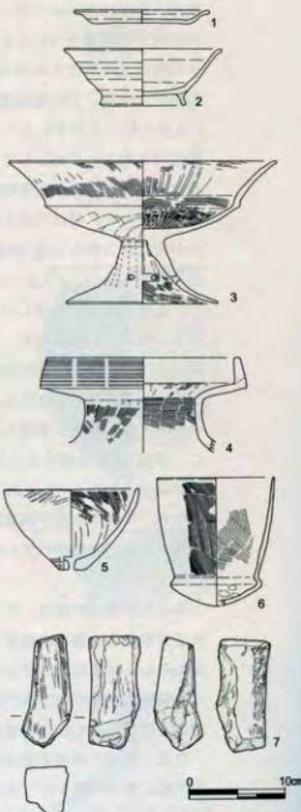
調査期間 1995年4月1日～1996年3月31日

担当者 渡邊

**整理概要** 県道石井・神山線道路改築に伴い、本遺跡の調査は1次(平成4年度850㎡)、2次(平成5年度1,700㎡)、3次調査(平成6年度2,700㎡)を行い、本年度は4次調査を、来年度以後に5次調査を行う予定で発掘調査継続中の遺跡である。1～3次までは県教委文化課が調査を担当した。

本年度の整理業務は、1～3次調査のうち、主として遺構から出土した土器を中心に接合、注記、および実測作業を行った。

本遺跡の調査で検出された遺構の内訳は、1次調査(遺構面2枚、溝13条、土坑10、ピット92、不明遺構4)、2次調査(遺構面2枚、溝19条、土坑70、ピット20、不明遺構10、土器だまり2)、3次調査(遺構面2枚、溝26条、土坑33、ピット101、不明遺構12)である。1次及び2次調査区内渡内川以北では古代の土師器、須恵器などが、渡内川以南から3次調査区にかけては弥生終末期から古墳初頭にかけての土器等が多数出土している。2次調査区の土坑は遺構の並びから土壌墓であると考えられ、骨らしき白片も確認されている。また、2、3次調査区からは水銀朱付着の鉢や、これまで同遺跡あるいは周辺の遺跡で出土したものに比べて大形の小型丸底鉢の出土が確認された。次年度は遺構、包含層出土の遺物実測等の作業を中心に引き続き行う予定である。(渡邊)



1次調査出土遺物 1. SP1202 2. 1230  
2次調査出土遺物 3・4・5. H-44, 45土器だまり及び包含層  
3次調査出土遺物 6. SK3212 7. SK3210

# なかしまだ 中島田遺跡

所在地 徳島市中島田町2丁目

調査期間 1995年8月1日～1996年3月31日

担当者 石尾

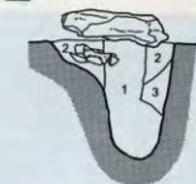
## 整理概要

本遺跡は、平成3年度から5年度にかけて都市計画道路常三島中島田線改良工事に伴って発掘調査されたもので、県道徳島鴨島線改良事業に伴って昭和60年から63年にかけて調査された場所の東側に位置する。

今年度は、昨年度までに未整理であった遺物の洗浄・注記・接合・実測・トレースなどを含め、整理済みの遺物・遺構トレースとあわせてレイアウトを行った。さらに、遺物写真の撮影及び原稿の作成も行い、平成8年度には報告書を刊行する。

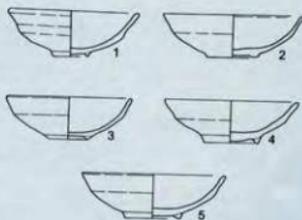
中島田遺跡は、出土遺物から13世紀後半から14世紀前半にかけての集落遺跡であることが確認されている。これまでの調査で、集落の規模は東西300m以上の広がりが見られた。また、鎌倉前期以前の生活の痕跡が検出されていないことから考えて、鎌倉中期になってこのような大河川下流域の沖積低地の開発が進められたことが確認できた。これは愛知県の土田遺跡や高知県の田村遺跡・滋賀県横江遺跡をはじめとする全国の沖積低地で確認できることでもあり、本遺跡の成果もその一事例に加えることができよう。

本遺跡から出土した多くの遺物は、輸入陶磁器をはじめとして、全国各地の窯で焼かれたものであり、当時の商品流通の実態が解明できる資料となる。(石尾)



- 1 灰オリーブ 5Y4/2 粘土質 炭化物含む
- 2 黄褐色 2.5Y5/3 粘質土
- 3 オリーブ褐色 2.5Y4/3 粘質土

1 SP3100 平・断面実測図



2 出土遺物 (1～5 吉備系土師器椀、6 土師質鍋)



埋蔵文化財速報展関連

期日	内 容	講 師	参加人数
8,3 / 12 ~ 3 / 31	埋蔵文化財速報展『縄文の彩り』		1,542名
8,3 / 16	縄文文化セミナー『縄文人のくらし』	湯浅 利彦	50名
8,3 / 17	" 『縄文土器文様再現』	辻 佳伸	13名
8,3 / 23	" 『縄文人の石材利用』	氏家 敏之	40名
8,3 / 24	平成7年度調査成果報告会		37名
8,3 / 30	縄文文化セミナー『縄文人の狩り』	久保脇美朗	37名
8,3 / 31	" 『石器をつくろう』	原 芳伸	20名

▶ 縄文土器文様再現



▲ 縄文文化セミナー



▲ 石器をつくろう

埋蔵文化財速報展

# 縄文の彩り

平成7年度埋蔵文化財速報展



**開催概要**  
 開催期間 8月12日～31日(土日祝日) 会場 埋蔵文化財速報展センター  
 観覧料 観覧無料(8月12日～17日) 観覧料100円(18日～31日)  
**平成7年度調査成果報告会**  
 8月24日(日) 午後1:00～4:00  
 会場 埋蔵文化財速報展センター 観覧料100円  
**縄文文化セミナー『縄文の彩り』** 午後1:30～3:00  
 第1回 8月16日(土) 講師 湯浅利彦  
 第2回 8月17日(日) 講師 辻佳伸  
 第3回 8月23日(土) 講師 氏家敏之  
**縄文文化セミナー『縄文人の狩り』** 午後1:30～3:00  
 第1回 8月30日(日) 講師 久保脇美朗  
 第2回 9月6日(土) 講師 原芳伸

主催 埋蔵文化財速報展センター  
 協賛 埋蔵文化財速報展センター  
 協賛 埋蔵文化財速報展センター  
 協賛 埋蔵文化財速報展センター

## (2) 資料の貸出

No	貸出先機関等	目 的	貸 出 資 料	期 間
1	徳島県立博物館	平成7年度第1回企画展 展示資料	庄遺跡出土木製品・モモ核・ク ルミ核・名東遺跡出土石片	4/19~5/31
2	中四国縄文研究会	第6回中四国縄文研究会参考資料	矢野遺跡出土土器	6/2~6/5
3	株式会社徳間書店	『大和朝廷の大秘密政策』掲載 (仮題)	稲持遺跡出土勾玉・ 勾玉未製品写真	5/30
4	朝日新聞 アエラ発行室	アエラムック第9号掲載 『芸術学がわかる』	名東遺跡出土石片写真	6/19~8/21
5	株式会社講談社	『歴史発掘第8巻』掲載	矢野遺跡銅鐸出土状況写真	10/3~10/23
6	国立歴史民俗博物館	『銅鐸の美』展展示・図録掲載	矢野遺跡出土銅鐸 発掘調査状況写真	9/28
7	株式会社講談社	『歴史発掘第9巻』掲載	高蒲谷西山A遺跡出土 人物形埴輪写真	11/20
8	朝日新聞社 アサヒグラフ編集部	アサヒグラフ掲載	矢野遺跡復元した銅鐸木製容器 銅鐸底部写真	12/22
9	板野町	彩りの館パネル展示	黒谷川郡頭遺跡(第3次調査) 朱の工房跡写真	12/22
10	徳島市教育委員会	第16回埋蔵文化財資料展展示	庄遺跡徳大蔵本団地区出土 木製祭祀具・粘喰遺跡出土土馬	1/16~2/27
11	高松市教育委員会	史跡石清尾山古墳群解説書掲載	萩原1号墓丘写真	2/13~3/31

## (3) 現地説明会等の開催

No	遺 跡 名	説 明 内 容	期 日	参加人数
1	新蔵町3町目遺跡	平成7年度調査成果の公表	7, 12/9	150名
2	大谷尻遺跡	平成7年度調査成果の公表	7, 12/16	380名
3	貞光前田遺跡	平成7年度調査成果の公表	7, 12/17	200名
4	矢野遺跡	平成7年度調査成果の公表	8, 2/17	100名



◀ 貞光前田遺跡  
現地説明会風景

## (4) 埋蔵文化財センターの見学

期 日	団 体 名
7, 7 / 28	群馬県埋蔵文化財調査事業団 (4名)
8 / 22	財団法人東京都埋蔵文化財センター (1名)
11 / 17	海部郡文化財保護審議会連絡協議会委員 (28名)
18	阿南市桑野愛郷会 (30名)
29	川島町ふるさとをさぐる会 (45名)・三加茂町生涯学習課 (16名)
12 / 5	岡山県落合町教育委員会 (12名)
12	徳島県高等学校教育研究会地歴学会 (20名)
24	阿南市教育委員会 (16名)
8, 2 / 14	藍住町文化財保護審議会委員 (9名)・県社会教育委員 (10名)
21	財滋賀県文化財保護協会 (1名)
28	上那賀町教育委員会 (14名)
8, 3 / 6	新潟県教育庁文化行政課文化係 (1名)
8	山城町教育委員会 (15名)
9	高知県中村市中村文化財愛護友の会 (35名)
13	山川町ふるさと探訪 (75名)
16	関西近世考古学研究会 (4名)
19	三好町郷土史研究会 (24名)
21	財団法人埋蔵文化財調査研究センター (1名)
24	寒川町文化財保護審議会委員 (6名)

## (5) 平成7年度来館者数

月	開館日数	来 館 者 数				計
		一 般	高校生	中学生	小学生	
11	24日	3,610	19	87	898	4,614
12	22日	987	8	15	131	1,141
1	22日	904	6	36	132	1,078
2	24日	811	131	20	78	1,040
3	26日	1,727	27	46	252	2,052
計	118日	8,039	191	204	1,491	9,925

## (6) 職員の対外活動

No	期 間	人 員	内 容
1	7. 5 / 20 ~ 5 / 22	研究員 1	日本考古学協会第 61 回総会 (平塚市)
2	7. 6 / 3 ~ 6 / 4	研究員 1	第 6 回中四国縄文研究会事例報告 (徳島市)
3	7. 6 / 7 ~ 6 / 9	所長・課長・技師 1	全埋協第 16 回総会 (名古屋市)
4	7. 7 / 14 ~ 7 / 15	研究員 1	同志社大学公開講座講師 (縦喜郡田辺町)
5	7. 7 / 20	研究員 1	国府中学校埋蔵文化財発掘体験指導 (徳島市)
6	7. 8 / 10 ~ 8 / 12	研究員 1 研究員 2・主事 1	全埋協研修会講師 (高知市)
7	7. 9 / 21 ~ 9 / 23	研究員 2	全埋協コンピューター等研究委員会 (鳥取県) 中国・四国・九州ブロック地区委員会 (鳥取県)
8	7. 10 / 6	研究員 3	勝浦高校発掘体験学習指導 (徳島市・名西郡)
9	7. 10 / 13	研究員 1	文化女性学級講演 (徳島市)
10	7. 10 / 25	研究員 1	美馬町ふれあい教養講座 (美馬郡)
11	7. 11 / 3	研究員 2	四国放送「おはよう徳島」出演
12	7. 11 / 9 ~ 11 / 10	所長・係長 2	全埋協中国・四国・九州ブロック会議 (松山市)
13	7. 11 / 15	係長 1	県市町村教育委員会教育委員等研修会講師 (徳島市)
14	7. 11 / 25	係長 1	四国放送「OUR 徳島」出演
15	7. 12 / 2 ~ 3	研究員 2	古代学協会四国支部第 9 回徳島大会発表 (徳島市)
16	8. 2 / 8 ~ 2 / 9	研究員 1	保存科学研究集会 (奈良市)
17	8. 2 / 14 ~ 2 / 21	研究員 2	板野高校外部講師招へい事業講師
18	8. 3 / 5	係長 1	シルバー大学講師 (三加茂町)
19	8. 3 / 13	係長 1	シルバー大学講師 (穴吹町)
20	8. 3 / 21	係長 1	シルバー大学講師 (鴨島町)

## (7) 刊 行 物

『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.6 1994 年度』	7 年 7 月
徳島県立埋蔵文化財総合センター開館記念シンポジウム『弥生の精華—銅鐸に迫る—』	7 年 11 月
徳島県立埋蔵文化財総合センター・(財) 徳島県埋蔵文化財センター要覧	7 年 11 月
埋蔵文化財速報展『縄文の彩り』	8 年 3 月

# V 受 贈 図 書

書 名	寄 贈 者 等 名
<b>北 海 道</b>	
塩谷6遺跡Ⅱ	北海道小樽市教育委員会
神居古潭7遺跡Ⅲ	旭川市教育委員会
神居古潭7遺跡Ⅳ	旭川市教育委員会
旭町1遺跡	旭川市教育委員会
平取町ピバウシ2遺跡	北海道平取町教育委員会
荷負2遺跡	北海道平取町教育委員会
平取町カンカン2遺跡	北海道平取町教育委員会
釧路市東釧路貝塚調査報告書	北海道釧路市埋蔵文化財調査センター
釧路市北斗遺跡Ⅴ	北海道釧路市教育委員会
古平町 浜町遺跡	古平町教育委員会
H 317 遺跡	札幌市教育委員会
T 71 遺跡	札幌市教育委員会
K 39 遺跡北 11 条地点	札幌市教育委員会
K 113 遺跡北 34 条地点	札幌市教育委員会
調査年報 7	札幌市教育委員会
豊浦町高岡 1 遺跡(2)	財団法人北海道埋蔵文化財センター
千歳市キウス 5 遺跡・キウス 7 遺跡(2)・ケネフチ 8 遺跡 7 版大中山 13 遺跡(2)	財団法人北海道埋蔵文化財センター
滝里遺跡群Ⅴ芦別市滝里 4 遺跡(1)	財団法人北海道埋蔵文化財センター
ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ美沢 15 遺跡	財団法人北海道埋蔵文化財センター
千歳市オサツ 2 遺跡(1)・オサツ 14 遺跡	財団法人北海道埋蔵文化財センター
<b>青 森 県</b>	
家ノ前遺跡Ⅱ・鷹架遺跡Ⅱ	青森県教育委員会
黒森下(1)遺跡発掘調査報告書	青森県教育委員会
野尻(2)遺跡	青森県教育委員会
湯舟(1)・(2)遺跡	青森県教育委員会
森田(4)・(5)遺跡	青森県教育委員会
畑内遺跡Ⅱ	青森県教育委員会
泉山遺跡	青森県教育委員会
青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅶ	青森県教育委員会
塔ノ沢山(2)遺跡発掘調査報告書	青森県教育委員会
中崎遺跡発掘調査報告書	青森県教育委員会
三内丸山遺跡「応援メッセージ」集	青森県教育委員会
青森県埋蔵文化財調査センター所報「理文あおもり」14	青森県埋蔵文化財調査センター
<b>岩 手 県</b>	
石田Ⅱ遺跡	跡水沢市埋蔵文化財調査センター
常盤広町遺跡	跡水沢市埋蔵文化財調査センター
姉体車堂Ⅱ遺跡	跡水沢市埋蔵文化財調査センター
常盤小学校遺跡	跡水沢市埋蔵文化財調査センター
「柳之御所遺跡発掘調査展」 はばたき 36	岩手県立埋蔵文化財センター
岩手県立博物館だより 66・67	財団法人岩手県文化振興事業団
岩手県立埋蔵文化財センター所報「わらびて」 67～70	財団法人岩手県文化振興事業団 岩手県立埋蔵文化財センター
<b>宮 城 県</b>	
下草古城跡ほか	宮城県教育委員会
藤田新田遺跡	宮城県教育委員会
高田 B 遺跡 一第 2 次・3 次調査一	宮城県教育委員会
仙台市宮城地区大倉遺跡範囲確認調査報告書	仙台市教育委員会
年報 15	仙台市教育委員会
伊古田遺跡	仙台市教育委員会
郡山遺跡	仙台市教育委員会
東北歴史資料館年報 平成 6 年度	東北歴史資料館
仙台平野の遺跡群ⅣⅩ	仙台市教育委員会

書 名	寄 贈 者 等 名
<p>四郎九郎跡発掘調査報告書 中田南遺跡 下ノ内浦遺跡 富沢・泉崎浦・山口遺跡 年報 16 平成6年度 高崎遺跡-第11次調査報告書- 山王遺跡・市川橋遺跡 山王遺跡-第17次調査-出土の漆紙文書 野田館跡-第1次発掘調査報告書- 宮城の文化財 98</p>	<p>仙台市教育委員会 仙台市教育委員会 仙台市教育委員会 仙台市教育委員会 仙台市教育委員会 多賀城市教育委員会 多賀城市教育委員会 多賀城市教育委員会 多賀城市教育委員会 財団法人宮城県文化財保護協会</p>
<p><b>秋 田 県</b> 秋田県埋蔵文化財センター年報 13 平成6年度 東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅨ-古野遺跡- 寒沢遺跡 中の沢遺跡 家の下遺跡(1) 払田橋跡-第102次調査- 遺跡詳細分布調査報告書 秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第10号</p>	<p>秋田県埋蔵文化財センター 秋田県教育委員会 秋田県教育委員会 秋田県教育委員会 秋田県教育委員会 秋田県教育委員会 秋田県教育委員会 秋田県埋蔵文化財センター</p>
<p><b>山 形 県</b> 年報平成6年度 寒河江市内遺跡発掘調査報告書(2) 宮の前遺跡発掘調査報告書 お仲間林遺跡発掘調査報告書 古風敷遺跡発掘調査報告書 畑田遺跡・中野遺跡発掘調査報告書 大坪遺跡第2次発掘調査報告書 北白長田遺跡・楡付遺跡・堂田遺跡発掘調査報告書 上高田遺跡・木戸下遺跡発掘調査報告書 西谷地遺跡第2次・西ノ川遺跡発掘調査報告書 廻り屋遺跡発掘調査報告書 亀ヶ崎城跡第3次発掘調査報告書 作伴遺跡発掘調査報告書 新発見考古速報展'95 埋文やまがた 創刊号・2・3</p>	<p>新山形県埋蔵文化財センター 寒河江市教育委員会 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 新山形県埋蔵文化財センター 山形県教育委員会 財団法人山形県埋蔵文化財センター</p>
<p><b>福 島 県</b> 根岸遺跡 茶畑A遺跡 宮畑遺跡発掘調査報告 男坂B遺跡・下ノ平E遺跡 摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要Ⅲ 倉ノ前遺跡 勝口前畑遺跡 月崎A遺跡(第7~9・11~13次調査) 月崎c遺跡 高船跡 落合遺跡 東北横断自動車道開通遺跡Ⅰ 泉第三土地区画整理事業地内埋蔵文化財予備調査報告 いわき市教育文化事業団年報5 国営総合農地開墾事業母畑地区遺跡発掘調査報告35 国営総合農地開墾事業母畑地区遺跡発掘調査報告36 東北横断自動車道遺跡調査報告26 東北横断自動車道遺跡調査報告27 東北横断自動車道遺跡調査報告28 東北横断自動車道遺跡調査報告29 原町火力発電所開通遺跡調査報告V 一般国道6号相馬バイパス遺跡発掘調査報告Ⅰ 相馬開発開通遺跡調査報告Ⅲ 国営総合農地開墾事業母畑地区遺跡発掘調査報告37</p>	<p>いわき市教育委員会 福島市教育委員会 福島市教育委員会 福島市教育委員会 福島市教育委員会 福島市教育委員会 福島市教育委員会 福島市教育委員会 福島市教育委員会 いわき市教育委員会 いわき市教育委員会 いわき市教育文化事業団 福島県教育委員会 福島県教育委員会 福島県教育委員会 福島県教育委員会 福島県教育委員会 福島県教育委員会 福島県教育委員会 福島県教育委員会 福島県教育委員会</p>

書 名	寄 贈 者 等 名
<p>福島県内遺跡分布調査報告1  原町火力発電所関連遺跡調査報告VI  常磐自動車道遺跡調査報告4  南諏訪原遺跡  月崎A遺跡(第10・15・17・18次調査)  字塚遺跡群  勝口前畑遺跡  太平・後園遺跡  浜井場遺跡・山ノ下遺跡・大平遺跡  外大貝遺跡  隈ヶ城跡  麦地石遺跡  勝口前畑遺跡  山ノ下遺跡  宮畑遺跡(岡島)  下ノ平D遺跡・弓手原A遺跡(第1次)  大森城跡・大島城跡2  大島城跡3  富山遺跡  八郎内遺跡  摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要IV  いわき市教育文化事業団  木村館跡  いわき市教育文化事業団研究紀要第7号  研究紀要第1号  文化財ニュースいわき47</p>	<p>福島県教育委員会  福島県教育委員会  福島県教育委員会  福島市教育委員会  財団法人いわき市教育文化事業団  郡山市教育委員会  財団法人いわき市教育文化事業団  財団法人郡山師埋蔵文化財発掘調査事業団  財団法人いわき市教育文化事業団</p>
<p>茨 城 県  武田Ⅷ  茨城県権勢生涯学習センター建設用地内埋蔵文化財調査報告書  一般国道6号(日立バイパス)改築工事地内埋蔵文化財調査報告書  研究学園都市計画板築崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(IV)  土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ  一般県道水戸那珂湊線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書  主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書  一般県道長高野筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書  主要地方道水戸鉦田在原線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書  (仮称)真壁町南椎尾地区住宅団地事業地内埋蔵文化財調査報告書  年報14平成6年度  研究ノート4号  ひたちなか市埋蔵文化財調査センター年報第1号  茨城県遺跡・古墳発掘調査報告書Ⅷ(平成4・5年度)  鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅹ  鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅺ  国神遺跡Ⅴ  鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅻ  鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅹ  鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅹ  鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅻ  鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅻ  鹿島町内遺跡発掘調査報告Ⅻ  惣大行事日記(文久四年・元治元年)  西谷A遺跡  春内遺跡  片岡遺跡発掘調査報告書I  筑波大学先史学・考古学研究第6号  ひたちなか市埋蔵文化財調査センター報「ひたちなか埋文だより」3・4</p>	<p>諏ひたちなか市文化・スポーツ振興公社  茨城県教育委員会  建設省  住宅・都市整備公団つくば開発局  住宅・都市整備公団つくば開発局  茨城県  茨城県  茨城県  茨城県土木部道路建設課  茨城県住宅供給公社  財団法人茨城県教育財団  財団法人茨城県教育財団  ひたちなか市埋蔵文化財調査センター  茨城県教育委員会  茨城県鹿島町教育委員会  茨城県鹿島町教育委員会  茨城県鹿島町教育委員会  茨城県鹿島町教育委員会  財団法人鹿島町文化スポーツ振興事業団  財団法人鹿島町文化スポーツ振興事業団  茨城県鹿島町教育委員会  茨城県鹿島町教育委員会  茨城県鹿島町教育委員会  財団法人鹿島町文化スポーツ振興事業団  財団法人鹿島町文化スポーツ振興事業団  財団法人鹿島町文化スポーツ振興事業団  筑波大学歴史・人類学系  ひたちなか市埋蔵文化財調査センター</p>

書名	寄贈者等名
玉里村立史料館参考展示解説「村内古墳出土品展」	玉里村立史料館
<p><b>栃木県</b> 埋蔵文化財センター年報 第5号(平成7年度) 栃木県立なす風土記の丘資料館年報 第2号(平成5年度版) 下野国分寺跡Ⅳ 栃木県埋蔵文化財保護行政年報 17 平成5年度 鶴田中原遺跡 猿河遺跡 下野国分寺跡Ⅲ 那須官衙関係遺跡Ⅱ 長福城跡 乙畑・大久保古墳群 横倉宮ノ内遺跡 塙平遺跡Ⅱ 槻沢遺跡Ⅱ 馬門南遺跡 谷近台遺跡 栃木県文化振興事業団年報 平成6年度 十三塚遺跡 小佐越遺跡 谷船野東・谷船野西・上芝遺跡 寺野東遺跡 金山遺跡Ⅲ 横倉遺跡 八幡根東遺跡 研究紀要第3号 東国火葬事始 豊かな恵みの中で 写コビ—文化再考 栃木県埋蔵文化財センター通信「やまかいどう」 12</p>	<p>栃木県文化振興事業団 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県文化振興事業団 栃木県文化振興事業団 栃木県文化振興事業団 栃木県文化振興事業団 栃木県文化振興事業団 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県文化振興事業団 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 栃木県立博物館 栃木県教育委員会 栃木県立博物館 栃木県埋蔵文化財センター</p>
<p><b>群馬県</b> 荒砥大日塚遺跡 黒熊栗崎遺跡 下田中道遺跡 下田中川久保遺跡 下高瀬上之原遺跡 小角田前Ⅰ・Ⅱ遺跡 群馬県立歴史博物館所蔵資料目録 考古 群馬県立歴史博物館所蔵資料目録 考古-Ⅱ 中大瀬金井分遺跡 大八木熊野堂Ⅱ遺跡 岩押町Ⅰ遺跡 飯塚西金井遺跡 元島名瓦井遺跡 浜川芦田貝戸遺跡Ⅲ 高関村前Ⅱ遺跡 高関東沖・村前遺跡 高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書9 東町Ⅳ遺跡 長根遺跡群発掘調査概報 長根遺跡群発掘調査報告書 ヌカリ沢A竪穴発掘調査報告書 黒熊海道端遺跡発掘調査報告書 白倉下原・天引向原遺跡Ⅱ 堤上遺跡 諏訪西遺跡 町内遺跡Ⅲ 中高瀬観音山遺跡A(本文編) B(写真編) C(資料編) 内匠日向地遺跡・下高瀬山遺跡・下高瀬前田遺跡 飛石の砦跡・東平井塚間遺跡・東平井官正前遺跡・東平井土井下遺跡・西平井久保代</p>	<p>群馬県教育委員会 群馬県教育委員会 群馬県埋蔵文化財調査事業団 群馬県教育委員会 群馬県教育委員会 群馬県立歴史博物館 群馬県立歴史博物館 高崎市遺跡調査会 高崎市遺跡調査会 高崎市遺跡調査会 高崎市遺跡調査会 高崎市遺跡調査会 高崎市教育委員会 群馬県高崎市教育委員会 高崎市教育委員会 群馬県高崎市教育委員会 吉井町教育委員会 吉井町教育委員会 吉井町教育委員会 吉井町教育委員会 群馬県教育委員会 群馬県教育委員会 群馬県教育委員会 群馬県埋蔵文化財調査事業団 群馬県埋蔵文化財調査事業団 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団</p>

書 名	寄 贈 者 等 名
二之宮谷地遺跡 研究紀要 12 『石とヒトの来た道～石器作りの材料をもとめて～』 群馬県立歴史博物館要覧 第3回岩宿フォーラム/シンポジウム 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団情報誌「埋文群馬」 23・24 笠懸野宿文化資料館「オリジン」1～22 遺跡に学ぶ 6	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 新群馬埋蔵文化財調査事業団 笠懸野宿文化資料館 群馬県立歴史博物館 笠懸野宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 笠懸野宿文化資料館 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
<b>埼 玉 県</b> 中世石造遺物調査概報(3) 埼玉県文化財目録平成7年 遺跡調査年報Ⅶ平成6年度 行田市郷土博物館研究報告第3集 館報第16号 行田市郷土博物館報第6号 田島・棚田 森下・戸森松原・起会 城北遺跡 前・居立 清水上遺跡 根路・横間栗・関下 柳戸/新山/向山/青棚/光山遺跡群 向山/上原/向原 西久保/金井上 修理山遺跡 上内手遺跡 海老沼南遺跡 坂山遺跡 年報 15 平成6年度 蕨市金山遺跡調査報告書 最新出土品展 みんぶんだより 52 也加多 34・35 埼玉県立博物館だより 89・90 文化財だより 15・16 行田市郷土博物館だより「ミュージアム行田」 15・16 埋文さいたま 19～22 全国埋文協会報 42・43	埼玉県教育委員会 埼玉県教育委員会 立正大学熊谷校地遺跡調査室 行田市郷土博物館 埼玉県立歴史資料館 行田市郷土博物館 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 埼玉県蔵市 行田市教育委員会 埼玉県立民俗文化センター 埼玉県立歴史資料館 埼玉県立博物館 鳩山町教育委員会 行田市郷土博物館 埼玉県立埋蔵文化財センター 全国埋蔵文化財法人連絡協議会事務局
<b>千 葉 県</b> 長生郡市文化財センター年報 №8 一平成4年度一 台遺跡 堀口横穴墓 和合遺跡 田向遺跡 中原遺跡 宮島遺跡 押日遺跡群 要害遺跡・要害城跡 山武町胡麻手台16号墳発掘調査報告書 千葉県中近世城跡研究調査報告書第15集 市原市永田窯跡群第2次発掘調査報告書 流山市上新宿貝塚発掘調査報告書 石川阿地遺跡 上野遺跡・出口遺跡発掘調査報告書 高岡遺跡群Ⅲ 木戸先遺跡 印旛村道山田平賀塚予定地内埋蔵文化財調査報告書 宗吾南地区確認調査報告書 上福田向台遺跡発掘調査報告書	財団法人 長生郡市文化財センター 財団法人 長生郡南部開発公社跡沢支部 千葉県住宅供給公社 茂原市民生部福祉事務所 株式会社 大京 千葉県長生土木事務所 茂原市土地開発公社 玉川地所株式会社 長柄町産業課 財団法人 千葉県文化財センター 新千葉県文化財センター 訪千葉県文化財センター 訪千葉県文化財センター 新印旛郡市文化財センター 四街道市 財印旛郡市文化財センター 財印旛郡市文化財センター 印旛村 財印旛郡市文化財センター 新印旛郡市文化財センター

書名	寄贈者等名
千葉県印旛郡酒々井町 本佐倉城跡発掘調査報告書	群印旛郡市文化財センター
千葉県印旛郡本笠村 宮内遺跡発掘調査報告書	本笠村
新地遺跡第1地点発掘調査報告書	八街市
千葉県印旛郡印旛村 井ノ崎台遺跡Ⅱ	銜米野建村
千葉県印旛郡富里町 獅子六Ⅱ遺跡	富里町
遠塚横穴、ヤグラ群発掘調査報告書	緑ヶ丘土地区画整理組合
山中台遺跡	銜平賀建村
市原市文化財センター年報平成2年度	群市原市文化財センター
市原市姉崎東遺跡C地点	群市原市文化財センター
市原市能満上小貝塚	群市原市文化財センター
市原市郡本遺跡(第2次)	群市原市文化財センター
市原市中高根南山遺跡	群市原市文化財センター
市原市上総国府推定地確認調査報告書(1)	群市原市文化財センター
平成6年度山武町内遺跡発掘調査報告書	山武町教育委員会
山王台遺跡	群山武郡市文化財センター
下総国府遺跡第42地点(その2)	市川市教育委員会
平成6年度東金市内遺跡発掘調査報告書	東金市教育委員会
高城跡発掘調査報告書	群東総文化財センター
九条塚・亀塚古墳・青木亀塚・神明原・富士見台遺跡	群君津郡市文化財センター
千葉県長生郡長柄町地壇下谷遺跡	長柄町教育委員会
市立市川考古学博物館年報第21号	市立市川考古学博物館
市立市川考古学博物館年報第22号	市立市川考古学博物館
大寺山洞穴 第2次発掘調査概報	千葉大学文学部考古学研究室
下男山遺跡	群香取郡市文化財センター
鶴崎天神台遺跡	群香取郡市文化財センター
織幡妙見堂遺跡Ⅱ	群香取郡市文化財センター
キサキ遺跡	群香取郡市文化財センター
谷津遺跡	群香取郡市文化財センター
岩部遺跡	群香取郡市文化財センター
事業報告Ⅲ 平成4年度	群香取郡市文化財センター
事業報告Ⅳ 平成5年度	群香取郡市文化財センター
千葉県八日市市場亀田泥炭遺跡	千葉県八日市市場建設課
砂田中台遺跡	群山武郡市文化財センター
大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅱ-藤田観光ゴルフ場建設工事に伴う埋蔵文化財調査-	群藤田観光
大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅲ-藤田観光ゴルフ場建設工事に伴う埋蔵文化財調査-	群藤田観光
上笠上谷遺跡	袖ヶ浦市
戸崎城山遺跡Ⅲ M地点	群君津郡市文化財センター
狐塚遺跡発掘調査報告書	群君津郡市文化財センター
境遺跡発掘調査報告書	袖ヶ浦市
君津郡市文化財センター年報No.12	群君津郡市文化財センター
千原台ニュータウンⅥ	群千原県文化財センター
千葉県文化財センター年報No.20平成6年度	財団法人千葉県文化財センター
松戸市岩瀬塚田遺跡	財団法人千葉県文化財センター
船橋市古作中台遺跡	財団法人千葉県文化財センター
成田市三里塚資料牧場遺跡	財団法人千葉県文化財センター
成田市大袋塔之下遺跡	財団法人千葉県文化財センター
新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ	財団法人千葉県文化財センター
下総町新シ山・柳和田遺跡 青山中峰遺跡 青山宮脇遺跡	財団法人千葉県文化財センター
袖ヶ浦市文協遺跡	財団法人千葉県文化財センター
佐倉市六拾部遺跡	財団法人千葉県文化財センター
佐倉市池田遺跡	財団法人千葉県文化財センター
芝山町大谷遺跡	財団法人千葉県文化財センター
流山市野々下貝塚確認調査報告書	財団法人千葉県文化財センター
四街道市堂ノ後遺跡	群印旛郡市文化財センター
高岡遺跡群Ⅳ	群印旛郡市文化財センター
一之瀬Ⅰ・鉄砲作遺跡発掘調査報告書	群印旛郡市文化財センター
公津東遺跡群Ⅱ	群印旛郡市文化財センター
大蛇石橋台遺跡発掘調査報告書	群印旛郡市文化財センター
臼井台大名宿遺跡	群印旛郡市文化財センター

書 名	寄 贈 者 等 名
白井屋敷跡遺跡 木村留古墳群 7・8号墳 森台遺跡群の調査 (第2次) 市原市文化財センター年報 10年の軌跡 シンポジウム『洞六遺跡の諸問題』発表要旨 平成7年度東金市内遺跡発掘調査報告書 市原市文化財センター研究紀要Ⅲ 研究連絡誌第43号 研究連絡誌第44号 シンポジウムよみがえる藤本城跡 文化財かわら版 5 私たちの文化財 22 歴博 71～75 房総の文化財 7～8 財団法人君津都市文化財センター広報誌「きみさらづ」7・8	財印藤都市文化財センター 財印藤都市文化財センター 青山学院大学森台遺跡調査団 財団法人市原市文化財センター 財団法人市原市文化財センター 千葉大学文学部考古学研究室 東金市教育委員会 財市原市文化財センター 財団法人千葉県文化財センター 財団法人千葉県文化財センター 財団法人東総文化財センター 財山武都市文化財センター 財団法人市原市文化財センター 国立歴史民俗博物館 財団法人千葉県埋蔵文化財センター 財市原市文化財センター
<b>東 京 都</b> 江戸城外堀跡 赤坂御門・喰違土橋 武蔵国府関連遺跡調査報告 武蔵国府関連遺跡調査報告 武蔵国府関連遺跡調査報告 武蔵国府関連遺跡調査報告 武蔵国府関連遺跡調査報告 武蔵国府関連遺跡調査報告 武蔵台遺跡Ⅱ-資料編1- 武蔵台遺跡Ⅱ-資料編2- 武蔵台遺跡Ⅱ-資料編3- 武蔵台遺跡Ⅱ-資料編4- 武蔵台遺跡Ⅱ-資料編5- 東京都新宿区上落合二丁目遺跡 武蔵国分寺関連遺跡の調査 VI	帝都高速度交通営団 日本製鋼所遺跡調査会 日本製鋼所遺跡調査会 日本製鋼所遺跡調査会 日本製鋼所遺跡調査会 日本製鋼所遺跡調査会 日本製鋼所遺跡調査会 都立府中病院内遺跡調査会 都立府中病院内遺跡調査会 都立府中病院内遺跡調査会 都立府中病院内遺跡調査会 都立府中病院内遺跡調査会 新宿区上落合二丁目遺跡調査団 武蔵国分寺関連 (府中都市計画道路3・2・2の2号線) 遺跡調査会
汐留遺跡 尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅲ 中里遺跡3 - 遺構- 中里遺跡4 - 遺物1- 中里遺跡5 - 遺物2- 中里遺跡6 - 遺物Ⅱ- 浅草松清町遺跡調査報告書 武蔵台東遺跡発掘調査概要5 多摩地区所在古墳確認調査報告書 竹橋門 大久保山Ⅲ 考古学博物館 館報№10 物見処遺跡1993 物見処遺跡1994 柳又遺跡A地点 宮堀北遺跡 都立五日市高校遺跡 多摩ニュータウン遺跡 多摩ニュータウン遺跡 玉川上水現況調査報告書 三長西遺跡 木曾森野遺跡Ⅲ 歴史時代編2 東京都埋蔵文化財センター年報 15 上野お国遺跡 (国立科学博物館たんけん館地点・屋外展示模型地点) 発掘調査報告書 東京都埋蔵文化財年報 2 1993年度世田谷区埋蔵文化財調査年報 西谷戸横六群Ⅱ	財東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター 東北新幹線中里遺跡調査会 東北新幹線中里遺跡調査会 東北新幹線中里遺跡調査会 東北新幹線中里遺跡調査会 東北新幹線中里遺跡調査会 台東区文化財調査会 都営川越住宅宅遺跡調査会 多摩地区所在古墳確認調査団 東京国立近代美術館遺跡調査委員会 早稲田大学 明治大学考古学博物館 國學院大学文学部考古学研究室 國學院大学文学部考古学研究室 國學院大学文学部考古学研究室 宮堀北遺跡等調査会 宮堀北遺跡等調査会 東京都教育委員会 東京都教育委員会 東京都教育委員会 三長西遺跡調査団 町田木曾森野地区遺跡調査会 財東京都教育文化財団 国立科学博物館上野地区埋蔵文化財発掘調査委員会 東京都教育委員会 世田谷区教育委員会 世田谷区教育委員会

書 名	寄 贈 者 等 名
後谷戸遺跡 喜多見中通西遺跡 八幡山稲荷前遺跡 祖師谷大道北遺跡Ⅰ 宮之原遺跡Ⅰ・相之原遺跡Ⅱ 武藏台遺跡Ⅲ 国立歴史民俗博物館研究年報3 東京外かく環状道路練馬地区関連遺跡 もみじ山遺跡Ⅰ もみじ山遺跡Ⅱ 丸山東遺跡Ⅰ 丸山東遺跡Ⅱ 丸山東遺跡Ⅲ 愛宕下遺跡・比丘尼橋遺跡・宮ヶ谷戸遺跡 東京外かく環状道路練馬地区関連遺跡（歴史時代編・総括編） 東京外かく環状道路練馬地区関連遺跡（自然科学分析編） 多摩ニュータウン遺跡 学芸研究紀要第11集 書陵部紀要第46号 東京都埋蔵文化財センター研究論集XⅣ 東京大学文学部考古学研究室紀要第13号 平成7年度東京都埋蔵文化財センター要覧 シルクロード 19 江戸東京博物館NEWS 9 港区立港郷土資料館「資料館だより」29 港区指定文化財 平成7年度 美術館連絡協議会会報 46 日本考古学50年の足跡 銅鐸の美	世田谷区教育委員会 世田谷区教育委員会 世田谷区教育委員会 世田谷区教育委員会 世田谷区教育委員会 都立府中病院内遺跡調査会 国立歴史民俗博物館 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会 東京都教育文化財団 東京都教育委員会 宮内庁書陵部 東京都埋蔵文化財センター 東京大学文学部考古学研究室 財団法人東京都教育文化財団 財団法人文化財保護振興財団 財団法人江戸東京歴史財団 東京都港区立港郷土資料館 港区教育委員会 美連協事務局 明治大学考古学博物館 毎日新聞社
<b>神 奈 川 県</b> 神奈川県埋蔵文化財調査報告37 かながわ考古学財団年報No.1（平成5年度） 麩の池子の歴史 長津田遺跡群Ⅰ 青根上野田遺跡 池子遺跡群Ⅱ No.1—D地点 宮ヶ瀬遺跡群Ⅴ 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 甘縄神社遺跡群発掘調査報告書 花見山遺跡 桜並遺跡 財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター 年報5 海老名市史叢書1 海老名市史叢書2 海老名市史研究第7号 海老名市史資料所在目録第7集 海老名市史資料所在目録第8集 海老名市史資料所在目録第9集 大和市文化財調査報告書第61集 専修大学第27号 弥生の“いくさ”と環濠集落 幻の縄文土器の時代	神奈川県教育委員会 財団法人かながわ考古学財団 財団法人かながわ考古学財団 財団法人かながわ考古学財団 財団法人かながわ考古学財団 財団法人かながわ考古学財団 財団法人かながわ考古学財団 鎌倉市教育委員会 鎌倉市教育委員会 横浜市教育委員会 横浜市教育委員会 財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 海老名市 海老名市 海老名市企画部史史編さん室 海老名市 海老名市 海老名市 大和市教育委員会 専修大学歴史学 横浜市歴史博物館 横浜市歴史博物館
<b>新 潟 県</b> 鉄砲町遺跡 百塚東D遺跡 高畑城跡 宮平遺跡・虫川城跡・中ノ山遺跡 蟹沢遺跡・上城遺跡	財新潟県埋蔵文化財調査事業団 財新潟県埋蔵文化財調査事業団 財新潟県埋蔵文化財調査事業団 財新潟県埋蔵文化財調査事業団 財新潟県埋蔵文化財調査事業団

書 名	寄 贈 者 等 名
<p>新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成6年度 研究紀要1995 埋文にいがた 10～13</p>	<p>財新潟県埋蔵文化財調査事業団 財新潟県埋蔵文化財調査事業団 財新潟県埋蔵文化財調査事業団</p>
<p><b>富 山 県</b> 能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告-NEJ08 遺跡- 埋蔵文化財年報(6) 平成6年度 富山市飯野新屋遺跡発掘調査概要 小杉町白石遺跡発掘調査報告 小杉町東山Ⅱ遺跡発掘調査報告 水見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ 江馬氏城館跡 富山県埋蔵文化財センター年報 米作りの始まり 富山市考古資料館 27・28 富山県埋蔵文化財センター所報「埋文とやま」 47～51</p>	<p>財富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 財富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 富山市教育委員会 富山県小杉町教育委員会 富山県小杉町教育委員会 水見市教育委員会 神岡町教育委員会 富山県埋蔵文化財センター 富山県埋蔵文化財センター 富山市考古資料館 富山県埋蔵文化財センター</p>
<p><b>石 川 県</b> 社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報5 曾祚C遺跡発掘調査報告書 石川県埋蔵文化財保存協会年報6 平成6年度 金沢大学考古学紀要第22号 漆芸美術館だより 14 漆影 46</p>	<p>財石川県埋蔵文化財保存協会 財石川県埋蔵文化財保存協会 社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会 金沢大学文学部考古学講座 石川県輪島漆芸美術館 石川県立埋蔵文化財センター企画調整課</p>
<p><b>福 井 県</b> 一乗谷朝倉氏遺跡1994 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告V 朝倉氏遺跡資料館紀要1994</p>	<p>福井県立一乗朝倉氏遺跡資料館 福井県立一乗朝倉氏遺跡資料館 福井県立一乗朝倉氏遺跡資料館</p>
<p><b>山 梨 県</b> 城下・原田遺跡 山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書 兄川 村之内Ⅱ・Ⅲ遺跡 高台・中谷井遺跡 宮沢中村遺跡 大師東丹保遺跡2 村前東A遺跡概報2 十五所遺跡 宮の前遺跡 年報11 平成6年度 天神遺跡 縁塚古墳 日影田遺跡 研究紀要11 帝京大学山梨文化財研究所研究報告第6集 第6回「考古学と中世史研究」シンポジウム 山梨県立考古博物館だより 33～35 帝京大学山梨文化財研究所報 23～26</p>	<p>山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 明野村教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県埋蔵文化財センター 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県考古博物館 帝京大学山梨文化財研究所 帝京大学山梨文化財研究所 山梨県立考古博物館 帝京大学山梨文化財研究所</p>
<p><b>長 野 県</b> 長野県埋蔵文化財センター年報10 長野県埋蔵文化財センター年報11 長野県埋蔵文化財発掘調査要覧その5 猪平遺跡・宮ノ下遺跡 小島柳原遺跡群宮西遺跡 浅川扇状地遺跡群徳間本堂原遺跡 浅川扇状地遺跡群本村東沖遺跡Ⅱ 松原遺跡Ⅲ 和田東山古墳群 長野県立歴史館研究紀要第1号</p>	<p>財長野県埋蔵文化財センター 財長野県埋蔵文化財センター 長野県教育委員会 長野市埋蔵文化財センター 長野市埋蔵文化財センター 長野市埋蔵文化財センター 長野市埋蔵文化財センター 長野市埋蔵文化財センター 長野市教育委員会 長野県立歴史館</p>

書名	寄贈者等名
赤い土器のクニ 長野県立歴史館たより 2～5 長野市埋蔵文化財センター所報 4～6 長野県埋蔵文化財ニュース 39～41	長野県埋蔵文化財センター 長野県立歴史館 長野市教育委員会、長野市埋蔵文化財センター 長野県埋蔵文化財センター
<b>岐阜県</b> 国道360号線バイパス改修工事に伴う発掘調査概報 戸入村平道跡 長吉道跡・普賢寺跡 仲追間道跡 文化財保護センターだより 13・15 各務原市埋蔵文化財調査センターだより「かかみはらの埋文」3	岐阜県宮川村教育委員会 岐阜県文化財保護センター 岐阜県文化財保護センター 岐阜県文化財保護センター 財団法人岐阜県文化財保護センター 各務原市埋蔵文化財調査センター
<b>静岡県</b> 内荒道跡（遺物編） 川合道跡遺物編2 駿府城三の丸跡・駿府城内道跡 木の行寺道跡 牛岡道跡Ⅰ・頭地道跡 上反方道跡 長崎道跡Ⅳ（遺物・考察編） 静岡県埋蔵文化財調査研究所 年報Ⅻ 御殿・二之宮道跡 第6次発掘調査報告書 堂山古墳 梵天古墳群・匂坂中下4道跡発掘調査報告書 長江崎道跡 第5次・第6次発掘調査報告書 後山古墳群 第3次発掘調査報告書 匂坂下原古墳群 第5次発掘調査報告書 御殿・二之宮道跡 第17次発掘調査報告書 国分寺・国府古道跡発掘調査報告書 中半端道跡発掘調査報告書 石ノ形古墳 長者平道跡Ⅻ 袋井宿Ⅰ 一東（田代）本陣一 山田中渡道跡Ⅰ・Ⅱ 川田・藤蔵洲道跡Ⅱ 新堀道跡 牛岡道跡Ⅱ 岳美道跡Ⅰ（遺構編） 下原道跡Ⅰ 静岡県史 資料編12近世四 静岡県史 資料編22近現代七（統計） 静岡県史 別編1民俗文化史 静岡の原像をさぐる 静岡の原像をさぐる 静岡県史だより 21	静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県教育委員会 富士宮市教育委員会 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県埋蔵文化財調査研究所 御殿・二之宮道跡調査会 磐田市教育委員会 磐田市教育委員会 磐田市教育委員会 磐田市教育委員会 磐田市教育委員会 磐田市教育委員会 磐田市教育委員会 袋井市教育委員会 袋井市教育委員会 袋井市教育委員会 袋井市教育委員会 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県埋蔵文化財調査研究所 静岡県 静岡県 静岡県 静岡県教育委員会 静岡県教育委員会 静岡県教育委員会史編さん室
<b>愛知県</b> 高蔵道跡 扇田町道跡 春日野町道跡 古沢町道跡 志賀公園道跡 石神道跡・玉ノ井道跡・高蔵道跡（第7次）発掘調査報告書 瀬戸市埋蔵文化財センター年報 晩窓跡 水南中堂跡 清州城下町道跡Ⅴ 牛ノ松道跡 島田陣屋道跡 吉田城道跡Ⅱ	名古屋市教育委員会 名古屋市教育委員会 名古屋市教育委員会 名古屋市教育委員会 名古屋市教育委員会 名古屋市教育委員会 名古屋市見晴台考古資料館 財団法人埋蔵文化財センター 財団法人埋蔵文化財センター 財団法人埋蔵文化財センター 財団法人埋蔵文化財センター 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター





書 名	寄 贈 者 等 名
<b>大 阪 府</b>	
平成5年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会
堀新遺跡発掘調査概要	貝塚市教育委員会
津田遺跡発掘調査概要	貝塚市教育委員会
貝塚市遺跡群発掘調査概要 17	貝塚市教育委員会
第VIII市文化財調査研究会事業報告	第VIII市文化財調査研究会
財団法人VIII市文化財調査研究会報告 45	第VIII市文化財調査研究会
田井中遺跡	第VIII市文化財調査研究会
八尾南遺跡	第VIII市文化財調査研究会
大里遺跡発掘調査報告書	大阪府能勢町教育委員会
能勢町埋蔵文化財調査概要	大阪府能勢町教育委員会
西浦遺跡	河内長野市遺跡調査会
宮の下遺跡	河内長野市遺跡調査会
寺元遺跡	河内長野市遺跡調査会
古市遺跡群XVI	羽曳野市教育委員会
文化財のしおり	羽曳野市教育委員会
豊田市埋蔵文化財年報 3	豊田市教育委員会
長原・瓜破遺跡発掘調査報告V	財団法人 大阪市文化財協会
長原・瓜破遺跡発掘調査報告VI	財団法人 大阪市文化財協会
長原・瓜破遺跡発掘調査報告VII	財団法人 大阪市文化財協会
日本古代の葬制と社会関係の基礎的研究	大阪大学文学部
南恵我之荘地区試掘調査報告書	羽曳野市遺跡調査会
錦織南遺跡	錦織南遺跡調査会
錦織南遺跡II	錦織南遺跡調査会
枚方市文化財年報 15	枚方市文化財研究調査会
中佐領須恵器窯跡発掘調査概要	富田林市教育委員会
平成3年度富田林市内遺跡群発掘調査概要	富田林市教育委員会
平成4年度富田林市内遺跡群発掘調査概要	富田林市教育委員会
貴志西遺跡発掘調査概要II	富田林市教育委員会
平成5年度富田林市内遺跡群発掘調査概要	富田林市教育委員会
甲田南遺跡	富田林市教育委員会
平成6年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書	富田林市教育委員会
国立民俗博物館国内資料調査委員調査報告集	国立民俗博物館情報管理施設
枚方市文化財年報 14 (1992年度分)	枚方市文化財研究調査会
田井中遺跡発掘調査概要・V	大阪府教育委員会
池上・曾根遺跡-弥生ムラその成立と解体-	大阪府立弥生文化博物館
大阪府下埋蔵文化財研究会 (32回) 資料	
弥生人の食卓	大阪府立弥生文化博物館
弥生文化博物館要覧	大阪府立弥生文化博物館
邪馬台国への海の道	大阪府立弥生文化博物館
旧石器人のアトリエ	羽曳野市遺跡調査会
発掘速報展大阪'96	大阪府立弥生文化博物館
アスカディア・古墳の森 2~3	大阪府立近つ飛鳥博物館
月刊みんぱく 212・218	財団法人千里文化財団
大阪市文化情報「葦大」 55~60	財団法人文化財協会
ひらかた文化財だより 23~26	枚方市文化財研究調査会
弥生倶楽部 8~10	大阪府立弥生文化博物館
大阪市文化財地図	大阪府教育委員会
<b>兵 庫 県</b>	
西紀町遺跡分布地図	西紀・丹南町教育委員会
本山北遺跡	六甲山麓遺跡調査会
玉津田中遺跡発掘調査報告書II	淡神文化財協会
西本6号遺跡発掘調査報告書	淡神文化財協会
神戸市東灘区 本山中野遺跡	六甲山麓遺跡調査会
平松遺跡	南淡町教育委員会
御旅山13号墳	姫路市教育委員会
上沢遺跡発掘調査報告書	神戸市教育委員会
西求女塚古墳	神戸市教育委員会
平成4年度神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
下小名田遺跡 (その4)	淡神文化財協会

書 名	寄 贈 者 等 名
簡江遺跡群 I	兵庫県教育委員会
板井ヶヶ谷遺跡	兵庫県教育委員会
堂田・八反長発掘調査報告	兵庫県教育委員会
柏原陣屋跡(奈良時代遺構の調査)	兵庫県教育委員会
岡遺跡	兵庫県教育委員会
長尾・神田遺跡(Ⅱ)岡ノ平遺跡	兵庫県教育委員会
浄谷遺跡・南山古墳群・玉津田中遺跡南大山地	兵庫県教育委員会
国領遺跡(Ⅱ)	兵庫県教育委員会
内場山城跡	兵庫県教育委員会
大田町遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
石垣山古墳群・石垣山遺跡	兵庫県教育委員会
下加茂遺跡	兵庫県教育委員会
御坂遺跡	兵庫県教育委員会
六角遺跡	兵庫県教育委員会
玉津田中遺跡	兵庫県教育委員会
山崎山古墳群発掘調査報告	兵庫県教育委員会
大池7号墳	兵庫県教育委員会
西脇古墳群	兵庫県教育委員会
加佐山城跡・慈眼寺山城跡	兵庫県教育委員会
小田城跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
高田小山ノ下遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会
犬岡遺跡	兵庫県教育委員会
真南条上3号墳	兵庫県教育委員会
郡家遺跡	六甲山麓遺跡調査会
城郭研究室年報	姫路市立城郭研究室
相野古窯跡群	兵庫県教育委員会
海辺の古墳	神戸市教育委員会
地下に眠る神戸の歴史展X	神戸市教育委員会
青銅鏡	神戸市教育委員会
兵庫県埋蔵文化財情報「ひょうごの遺跡」18～20	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県立歴史博物館ニュース「歴史ニュース」	兵庫県立歴史博物館
<b>奈 良 県</b>	
1994年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報	奈良国立文化財研究所
平城京左京三条一坊十四坪発掘調査報告	奈良国立文化財研究所
大和郡山市遺跡地図	大和郡山市教育委員会
松山古墳Ⅲ第4次発掘調査概要報告書	大和郡山市教育委員会
郡山上第36次大磯冠地区発掘調査概報(近世墓の調査)	大和郡山市教育委員会
神ノ木遺跡発掘調査概報	大和郡山市教育委員会
来光遺跡第21次発掘調査概報	大和郡山市教育委員会
内山瓦窯1号窯発掘調査概報	大和郡山市教育委員会
天理市埋蔵文化財調査概報平成6年度	天理市教育委員会
平城京東市跡推定値の調査Ⅷ	奈良市教育委員会
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書	奈良市教育委員会
橿原町埋蔵文化財発掘調査概要報告書1993年度	橿原町教育委員会
橿原町内遺跡発掘調査概要報告書1992年度	橿原町教育委員会
越智遺跡第4次発掘調査概報	高取町教育委員会
飛鳥・藤原宮発掘調査概報 25	奈良国立文化財研究所
恵心僧都源信の生涯	香芝市二上山博物館
古代都城の儀礼空間と構造	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター
平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告	奈良県教育委員会
平城京左京三条一坊十四坪発掘調査報告	奈良県教育委員会
奈良女子大学構内遺跡発掘調査概報Ⅴ	奈良女子大学
布留遺跡三島(里中)地区発掘調査報告書	埋蔵文化財天理調査団
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1994	奈良市教育委員会
平成5年度大和郡山市文化財年報・紀要1	大和郡山市教育委員会
ふたかみ3	香芝市二上山博物館
天理参考館報第8号	天理大学出版部
よみがえる二上山の3つの石	香芝市二上山博物館
『鎌向型前方後円墳とそのひろがりー関東編ー』	助桜井市文化財協会
『鎌向のマツリ』	助桜井市文化財協会

書 名	寄 贈 者 等 名
<p>シルクロード・奈良国際シンポジウム記録集№2 埋蔵文化財ニュース 78～80 奈良国立歴史考古学研究所報「青陵」87～89 元興寺文化財研究 53～55 遺跡探査 12・13・15・16</p>	<p>シルクロード学研究中心 奈良国立研究所埋蔵文化財センター 奈良県立歴史考古学研究所 財団法人元興寺文化財研究所 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター</p>
<p><b>和歌山県</b> 和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報1 鳴神VI遺跡第4次発掘調査概報 鳴神IV遺跡第6次発掘調査概報 太田・黒田遺跡第26次発掘調査概報 根来寺坊院跡発掘調査概報 西庄遺跡発掘調査1 川辺遺跡発掘調査報告書 和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報2</p>	<p>和歌山市文化体育振興事業団 和歌山市文化体育振興事業団 和歌山市文化体育振興事業団 和歌山市文化体育振興事業団 和歌山県文化財センター 和歌山県文化財センター 和歌山県文化財センター 和歌山市文化体育振興事業団</p>
<p><b>鳥取県</b> 東郷町内遺跡発掘調査報告書 曲古墳群発掘調査報告書第2集曲226号墳 曲第1遺跡発掘調査報告書(曲岡遺跡)第1集 町内遺跡発掘調査報告書第4集 大下畑遺跡 百塚第5遺跡 小波狭間谷遺跡 泉上経前遺跡 百塚第7遺跡(8区) 尾高御建山遺跡II 尾高古墳群II 尾高1号横穴墓 鶴田東山遺跡 鶴田合清水遺跡 古市上山根遺跡発掘調査報告書 ウナ谷遺跡B地区発掘調査報告書 名和町内遺跡分布調査報告書東高田・大塚地区 名和町内遺跡分布調査報告書 角塚遺跡・長者原遺跡発掘調査報告書 川上83号墳発掘調査報告書 長瀬高浜遺跡緊急発掘調査報告書 鳥取埋文ニュース 41～43</p>	<p>東郷町教育委員会 北条町教育委員会 北条町教育委員会 北条町教育委員会 和歌山県教育文化財団 和歌山県教育文化財団 和歌山県教育文化財団 和歌山県教育文化財団 和歌山県教育文化財団 佐治村教育委員会 鳥取県岡金町教育委員会 名和町教育委員会 名和町教育委員会 名和町教育委員会 東郷町教育委員会 羽合町教育委員会 鳥取埋蔵文化財センター</p>
<p><b>鳥根県</b> 鳥根大学構内遺跡(橋端手地区)発掘調査概報I 森遺跡・坂屋I遺跡・森脇山城跡・阿丹谷辻堂跡 鹿伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥宮跡 松本古墳群 オノ神遺跡・普請場遺跡・島田黒谷I遺跡 陽徳遺跡・平ラI遺跡 塩津山I号墳 遺跡が語る古代の安来 飯田C遺跡・古八幡付近遺跡・嘉久志遺跡 鳥根県教育庁文化課 埋蔵文化財調査センター年報III 上塩治横穴群第20・21支群 原の前遺跡 平II遺跡・吉佐山根1号墳・穴神横穴墓群 かんの流れ しまねの古代文化第二号 鱒淵4号墳他発掘調査報告書 長尾原遺跡発掘調査報告書I 出雲国風土記論究 上巻 いにしへの瑞穂 江の川宅地等水防対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 古代文化研究第3号 鳥根埋蔵文化財調査センターニュース 11 鳥根県立八雲立つ風土記の丘 132～133</p>	<p>鳥根大学埋蔵文化財調査研究センター 鳥根県教育委員会 建設省浜田工事事務所 建設省松江国道工事事務所 建設省松江国道工事事務所 建設省松江国道工事事務所 鳥根県教育委員会 建設省松江国道工事事務所 建設省中国地方建設局浜田工事事務所 鳥根県教育委員会 鳥根県教育委員会 鳥根県教育委員会 鳥根県教育委員会 鳥根埋蔵文化財調査センター 鳥根県古代文化センター 瑞穂町教育委員会 瑞穂町教育委員会 鳥根県古代文化センター 瑞穂町教育委員会 大和村教育委員会 鳥根県古代文化センター 鳥根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター 鳥根県立八雲立つ風土記の丘</p>







書 名	寄 贈 者 等 名
能満寺古墳群	大平村教育委員会
鼓釜床1号古窯跡	小石原村教育委員会
月見櫓	福岡市教育委員会
志賀島・玄界島	福岡市教育委員会
博多44	福岡市教育委員会
博多45	福岡市教育委員会
博多46	福岡市教育委員会
博多47	福岡市教育委員会
博多48	福岡市教育委員会
那珂遺跡13	福岡市教育委員会
那珂14	福岡市教育委員会
東那珂遺跡1	福岡市教育委員会
比惠遺跡群⑤	福岡市教育委員会
比惠遺跡群⑥	福岡市教育委員会
比惠遺跡群⑦	福岡市教育委員会
比惠遺跡群⑧	福岡市教育委員会
堅粕2	福岡市教育委員会
雀居遺跡2・3	福岡市教育委員会
席田青木遺跡2	福岡市教育委員会
中南部④	福岡市教育委員会
中谷遺跡	福岡市教育委員会
堺町遺跡第二地点	北九州市教育委員会
南方蒲山古墳	北九州市教育委員会
高津尾遺跡Ⅲ	北九州市教育委員会
下貫遺跡(第2次)	北九州市教育委員会
小倉城跡1	北九州市教育委員会
岡遺跡Ⅲ区	北九州市教育委員会
加用遺跡	北九州市教育委員会
太宰府天満宮Ⅲ	太宰府市教育委員会
太宰府・在野地区遺跡群V	太宰府市教育委員会
太宰府桑坊跡Ⅶ	太宰府市教育委員会
太宰府桑坊跡Ⅷ	太宰府市教育委員会
西日本銀行直方支店	直方市教育委員会
須崎町公園遺跡	直方市教育委員会
直方市内遺跡詳細分布調査報告書	福岡市教育委員会
博多43	太宰府市教育委員会
筑前国分尼寺跡Ⅲ	福岡市博物館
平成4(1992)年度収集 収藏品目録10	
祇園町遺跡1 第3地点	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
水大丸遺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
酒崎遺跡3 第3地点	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
上清水遺跡Ⅲ区	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
力半遺跡(弥生時代編)	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
井上遺跡1区	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
草原遺跡・井上遺跡2区	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
徳力土地区画整理事業関係調査報告7	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
香月遺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
貫川遺跡9	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
北方遺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
祇園町遺跡2 第3地点	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
酒崎遺跡4 第4・5地点	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
貫川遺跡10	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
長野城跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
宗玄寺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
向ヶ江遺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
室町遺跡第2地点	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
穴生古屋敷遺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
北方遺跡 第5、6次調査	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
鬼ヶ原遺跡 - 北九州市八幡東区天神町-	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
中島遺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
7条荒生田遺跡	福岡市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

書 名	寄 贈 者 等 名
<p>長野・早田遺跡 第4地点 埋蔵文化財調査室年報 11 平成5年度 在自遺跡群Ⅱ 上津・藤光遺跡群Ⅰ 日渡遺跡 上津・藤光遺跡群 安武地区遺跡群Ⅲ(海津城跡) 東部地区埋蔵文化財調査報告書第13集 筑後国府跡 へボノ木遺跡 神道遺跡 大善寺北部地区遺跡群Ⅲ 野中三十六遺跡 津福西小路遺跡 久留米城外郭(佐々木家屋敷跡) 平成6年度久留米市内遺跡群 へボノ木遺跡 安武地区遺跡群Ⅲ 筑後国府跡 史跡御塚・権現塚古墳 大善寺北部地区遺跡群Ⅳ 津福古賀畑遺跡 九州歴史資料館年報平成6年度 発掘された三沢のわかしらのくらし総集編 九歴だより 1~2 甘木歴史資料館だより「温故」 22~23 福岡市博物館だより「ファカタ」 18~19</p>	<p>群北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 群北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 津屋崎町教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 久留米市教育委員会 九州歴史資料館 小郡市教育委員会 九州歴史資料館 甘木歴史資料館 福岡市博物館</p>
<p><b>佐賀県</b> 吉野ヶ里 肥前山瓦経塚 唐津市内遺跡確認調査① 渡松本遺跡② 徳蔵谷遺跡② 佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 13 畦木場遺跡・平尾遺跡・石川三長陣跡・福原長克陣跡 名護屋城跡周辺遺跡 佐賀県立名護屋城博物館ニュース 3・4</p>	<p>佐賀県教育委員会 大和町教育委員会 唐津市教育委員会 唐津市教育委員会 唐津市教育委員会 佐賀県教育委員会 鎮西町教育委員会 鎮西町教育委員会 佐賀県立名護屋城博物館</p>
<p><b>長崎県</b> 小瀬戸番所遺跡 長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録 平成5年度 長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録 平成6年度 長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ(平成5年度) 長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ(平成5年度) 県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ 県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ 県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 中木場遺跡 万才町遺跡</p>	<p>長崎県埋蔵文化財調査協議会 長崎県教育庁文化課 長崎県教育庁文化課 長崎県教育委員会 長崎県教育委員会 長崎県教育委員会 長崎県教育委員会 長崎県教育委員会 長崎県教育委員会 長崎県教育委員会</p>
<p><b>熊本県</b> 熊本大学埋蔵文化財調査室年報第1集 野々脇遺跡</p>	<p>熊本大学埋蔵文化財調査室 五木村教育委員会</p>
<p><b>大分県</b> 香々地の遺跡Ⅰ 上津尾遺跡 高松遺跡 大分市歴史資料館年報(平成6年度) 森山遺跡</p>	<p>香々地町教育委員会 大阿町教育委員会 大阿町教育委員会 大分市歴史資料館 大分県教育委員会</p>



